

仕事と生活の調和に関する意識調査

調査結果報告書

平成25年3月

千葉県市

千葉県男女共同参画センター



# 目次

1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 前回調査	1
5. 報告書を読む際の注意事項	2
6. 標本誤差について	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代	3
(3) 職業	4
(4) 仕事に従事している時間	6
(5) 結婚の有無	8
(6) 配偶者の職業	11
(7) 配偶者の仕事従事時間	12
(8) 家族構成	13
(9) 最年少の子どもの成長段階	14
2章 調査結果	15
1. 働くことについて	15
(1) 女性が働くことについて	15
(2) 男性が育児休業を取得することについて	18
(3) 育児休業を取得しない・するのが難しい理由	19
(4) 仕事に対する意欲	22
(5) 職場の雰囲気	23
(6) 現在仕事に就いていない理由	33
(7) 今後の就労意思	34
2. 家庭生活について	35
(1) 家庭での役割分担	35
(2) 将来介護をする時の不安の有無	44
(3) 介護の不安の内容	46
3. 仕事と家庭の両立のために今後取り組むべき内容	48
(1) 性別役割分担意識について	48
(2) 各分野の男女の地位	49
(3) ワークライフバランスのために取り組むべき内容	55
4. 仕事・家庭・自分の時間の満足度	57
(1) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度	57

3章 調査結果のまとめ.....	73
1. 調査結果のまとめ.....	73
(1) 働くことについて.....	73
(2) 家庭生活について.....	74
(3) 仕事と家庭の両立のために今後取り組むべき内容.....	75
(4) 仕事・家庭・自分の時間の満足度.....	76
2. 今後に向けて.....	77
4章 自由意見.....	78
5章 調査票.....	83

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

男女共同参画社会では、あらゆる場面で性別にとらわれずに各人がその個性と能力を生かし、責任と喜びを分かち合うことを目指している。しかし、仕事と家庭の両立という点においては、家事や育児などの多くを女性が担っている現実が依然としてあるため、男女の多様な生き方を実現することが妨げられている。

本調査では、仕事と家庭の両立に関する市民の意識と実態を探り、男女共同参画社会実現のための施策や事業に反映させることを目的とする。

## 2. 調査方法

- (1) 調査区域：千葉市全域
- (2) 調査対象：千葉市内に居住している 25 歳以上 45 歳未満の 3,000 人  
(男女各 1,500 人)
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収方式
- (5) 調査期間：平成 24 年 8 月 23 日～平成 24 年 9 月 7 日

## 3. 回収結果

- (1) 配布数：3,000 件
- (2) 回収数：919 件
- (3) 回収率：30.6%
- (4) 有効回答数：916 件
- (5) 有効回答率：30.5%

## 4. 前回調査

報告書で結果を引用した前回調査（平成 19 年 10 月調査）は、次のとおりである。

（今回調査と調査区域、調査対象、調査方法、抽出方法、調査方法は同様である。）

- (1) 調査期間：平成 19 年 10 月 2 日～平成 19 年 10 月 18 日
- (2) 配布数：3,000 件
- (3) 有効回答数：1,133 件
- (4) 有効回答率：37.8%

## 5. 報告書を読む際の注意事項

- \* アンケート集計は、各設問の単純集計と性別、年代などと各設問とのクロス集計を行った。
- \* 調査結果の数値は原則として回答率（%）を表記し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、一人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。
- \* クロス集計の場合、分析軸の該当者が50人未満の場合は標本誤差が大きく異なるため、分析の対象からは除いている。
- \* 職業や結婚の有無などでクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。
- \* 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- \* 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n：回答者の数
- \* 表については、回答割合の高い項目について以下の通り、網掛け等で表記を行う。

最も高い割合（網掛け白抜き）	0.0
2番目に高い割合（網掛け黒字）	0.0

## 6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（%）をそのまま25歳以上45歳未満の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、25歳以上45歳未満の全市民の回答を推測する。（信頼度95%）

### 標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母数集団数（282,540人）

n = 有効回答数（916件）

\*平成24年9月30日現在の25歳以上45歳未満の住民基本台帳人口  
P = 回答比率

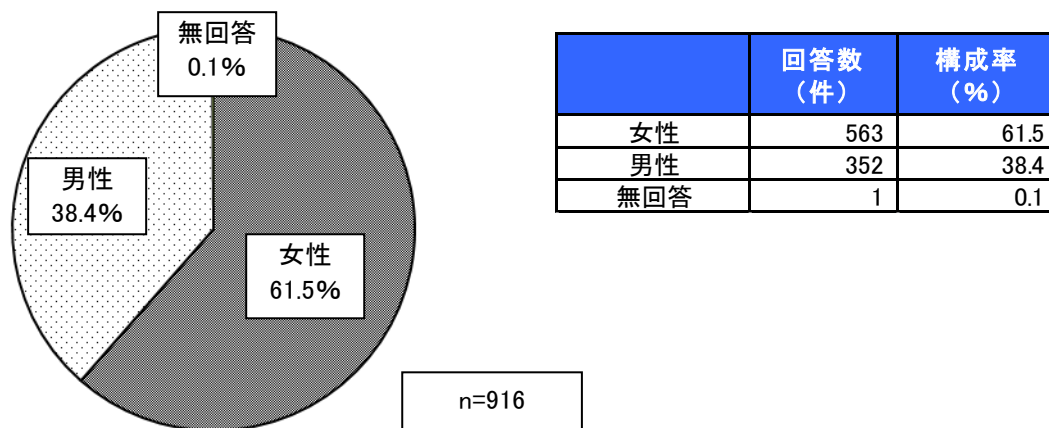
### 今回の意識調査(n=916)における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差率
10%または90%	±2.0%
20%または80%	±2.6%
30%または70%	±3.0%
40%または60%	±3.2%
50%	±3.3%

## 7. 回答者の属性

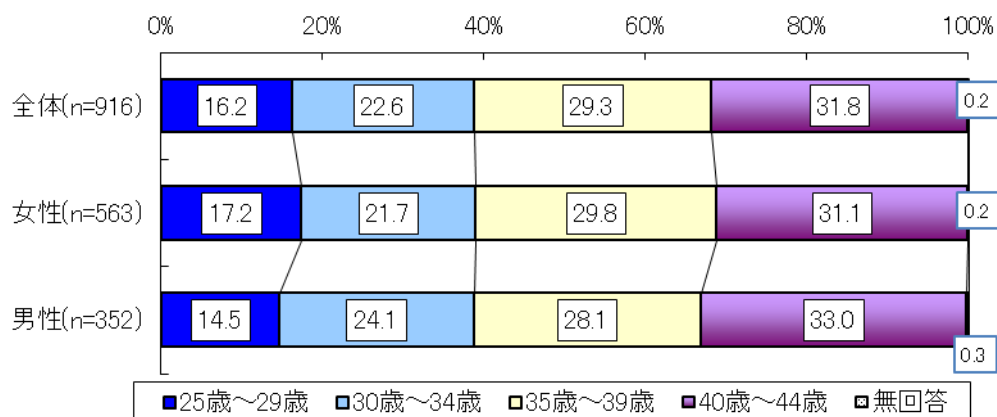
### (1) 性別

図表(1)-1 回答者の性別(全体)



### (2) 年代

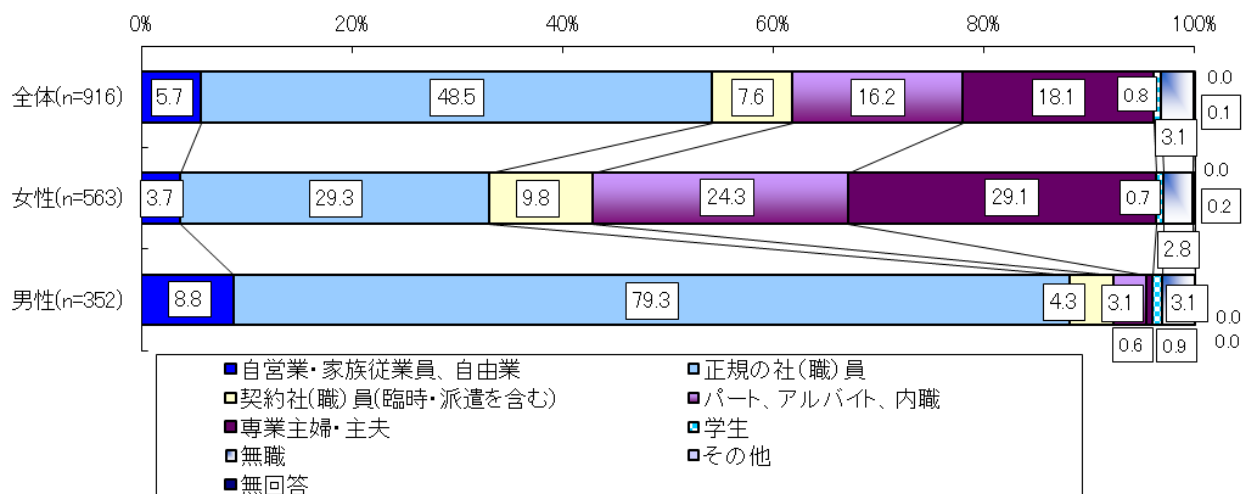
図表(2)-1 回答者の年齢(全体、性別)



(件数)	合計	25歳~ 29歳	30歳~ 34歳	35歳~ 39歳	40歳~ 44歳	無回答
全体	916	148	207	268	291	2
女性	563	97	122	168	175	1
男性	352	51	85	99	116	1
無回答	1	0	0	1	0	0

### (3) 職業

図表 (3)-1 回答者の職業(全体、性別)

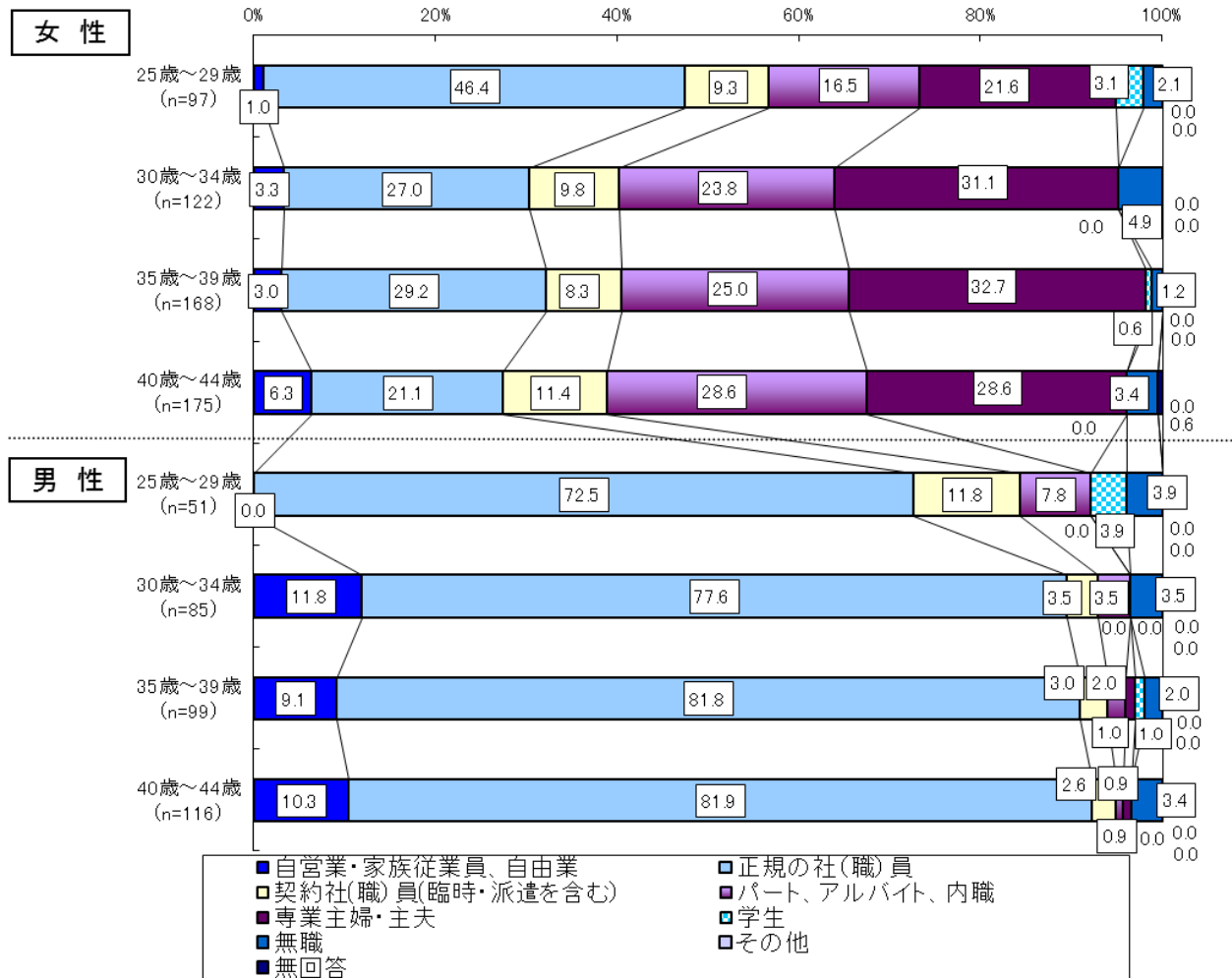


(件数)	合計	自営業、自由業	正規の社(職)員	契約社(職)員	パート、アルバイト、内職	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
全体	916	52	444	70	148	166	7	28	0	1
女性	563	21	165	55	137	164	4	16	0	1
男性	352	31	279	15	11	2	3	11	0	0
無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

注) 以降、「自営業・家族従業員、自由業」、「正規の社(職)員」、「契約社(職)員(臨時・派遣を含む)」、「パート、アルバイト、内職」を合わせて、「有業」と表記する。



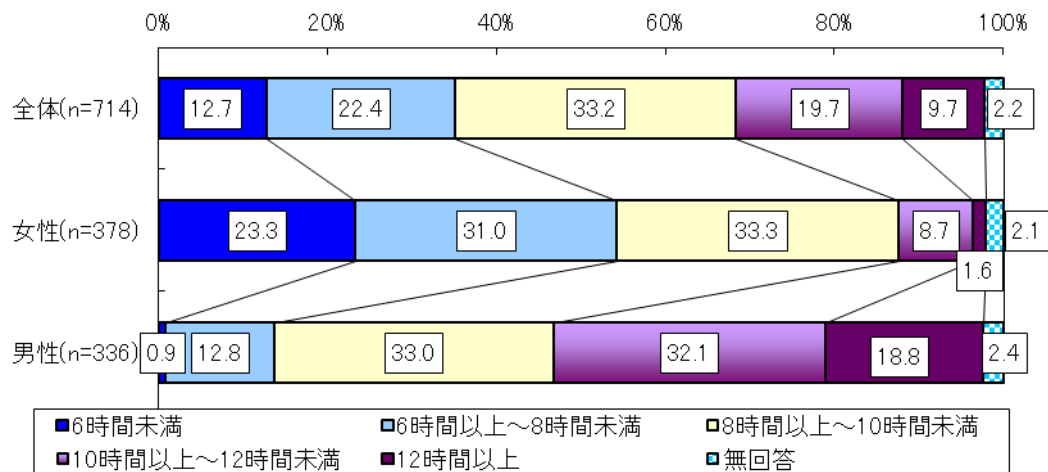
図表 (3)-2 回答者の職業(性別・年代別)



(件数)		合計	自営業、自由業	正規の社(職)員	契約社(職)員	パート、アルバイト、内職	専業主婦・主夫等	学生	無職	その他	無回答
合計		916	52	444	70	148	166	7	28	0	1
女性	25歳~29歳	97	1	45	9	16	21	3	2	0	0
	30歳~34歳	122	4	33	12	29	38	0	6	0	0
	35歳~39歳	168	5	49	14	42	55	1	2	0	0
	40歳~44歳	175	11	37	20	50	50	0	6	0	1
男性	25歳~29歳	51	0	37	6	4	0	2	2	0	0
	30歳~34歳	85	10	66	3	3	0	0	3	0	0
	35歳~39歳	99	9	81	3	2	1	1	2	0	0
	40歳~44歳	116	12	95	3	1	1	0	4	0	0
無回答		3	0	1	0	1	0	0	1	0	0

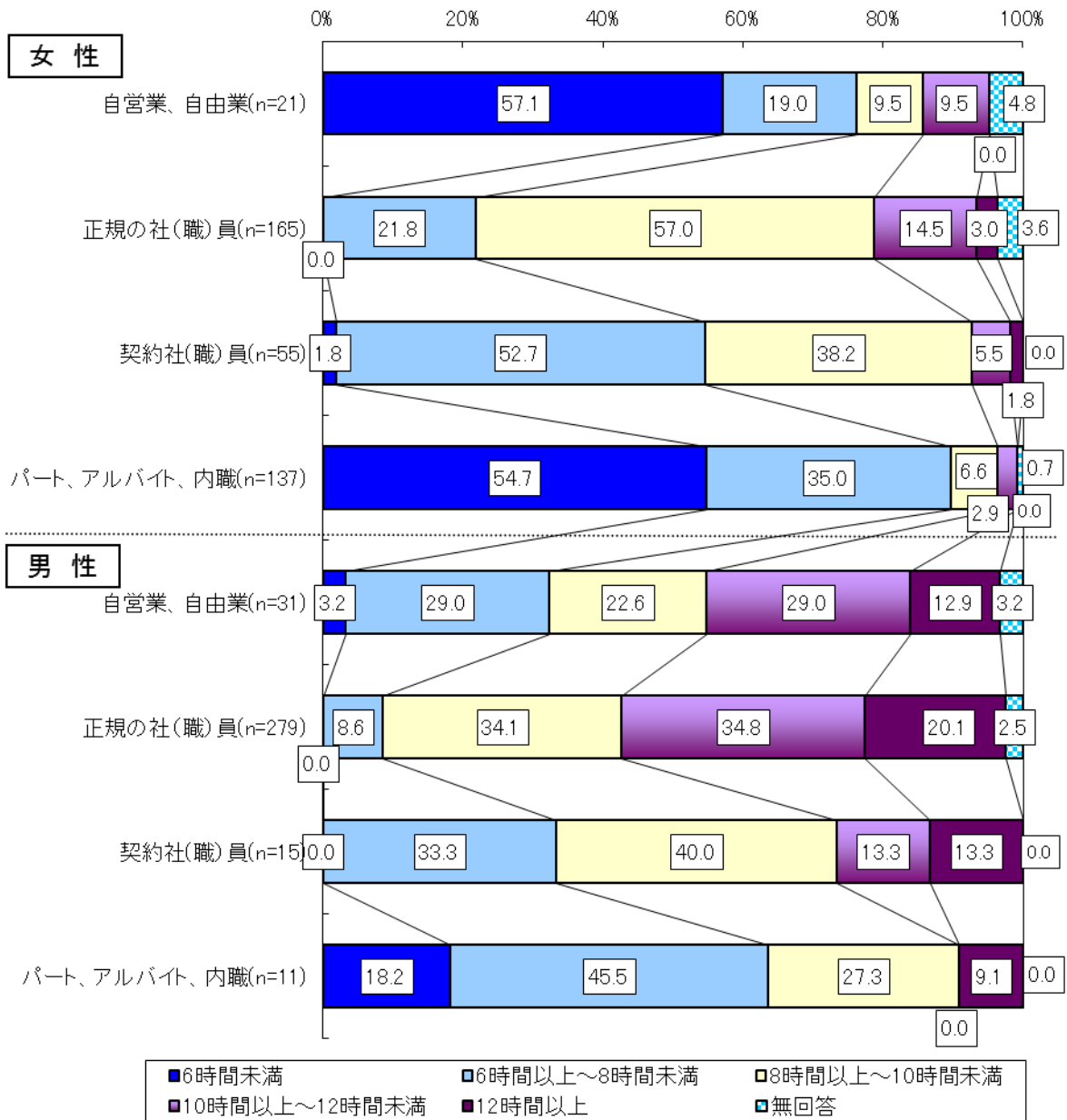
(4) 仕事に従事している時間

図表(4)-1 仕事従事時間(全体、性別)



(件数)	合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	714	91	160	237	141	69	16
女性	378	88	117	126	33	6	8
男性	336	3	43	111	108	63	8

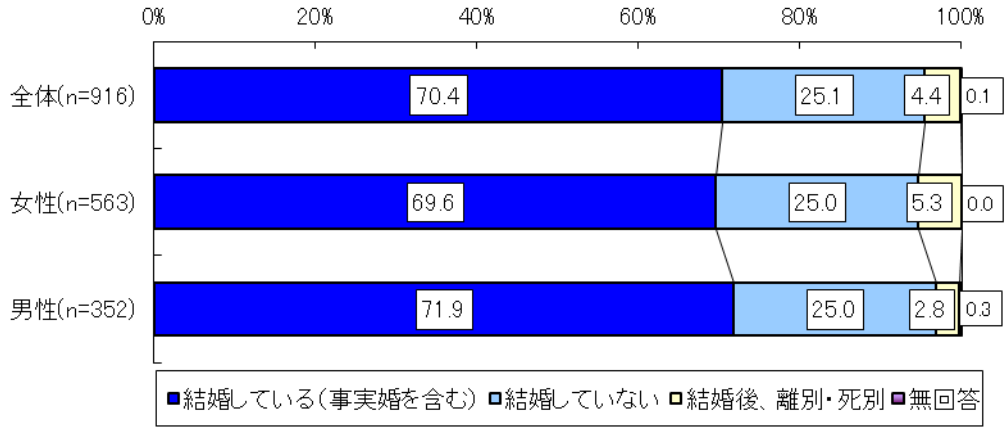
図表(4)-2 仕事従事時間(性別・職業別)



(件数)		合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
合計		714	91	160	237	141	69	16
女性	自営業、自由業	21	12	4	2	2	0	1
	正規の社(職)員	165	0	36	94	24	5	6
	契約社(職)員	55	1	29	21	3	1	0
	パート、アルバイト、内職	137	75	48	9	4	0	1
男性	自営業、自由業	31	1	9	7	9	4	1
	正規の社(職)員	279	0	24	95	97	56	7
	契約社(職)員	15	0	5	6	2	2	0
	パート、アルバイト、内職	11	2	5	3	0	1	0

(5) 結婚の有無

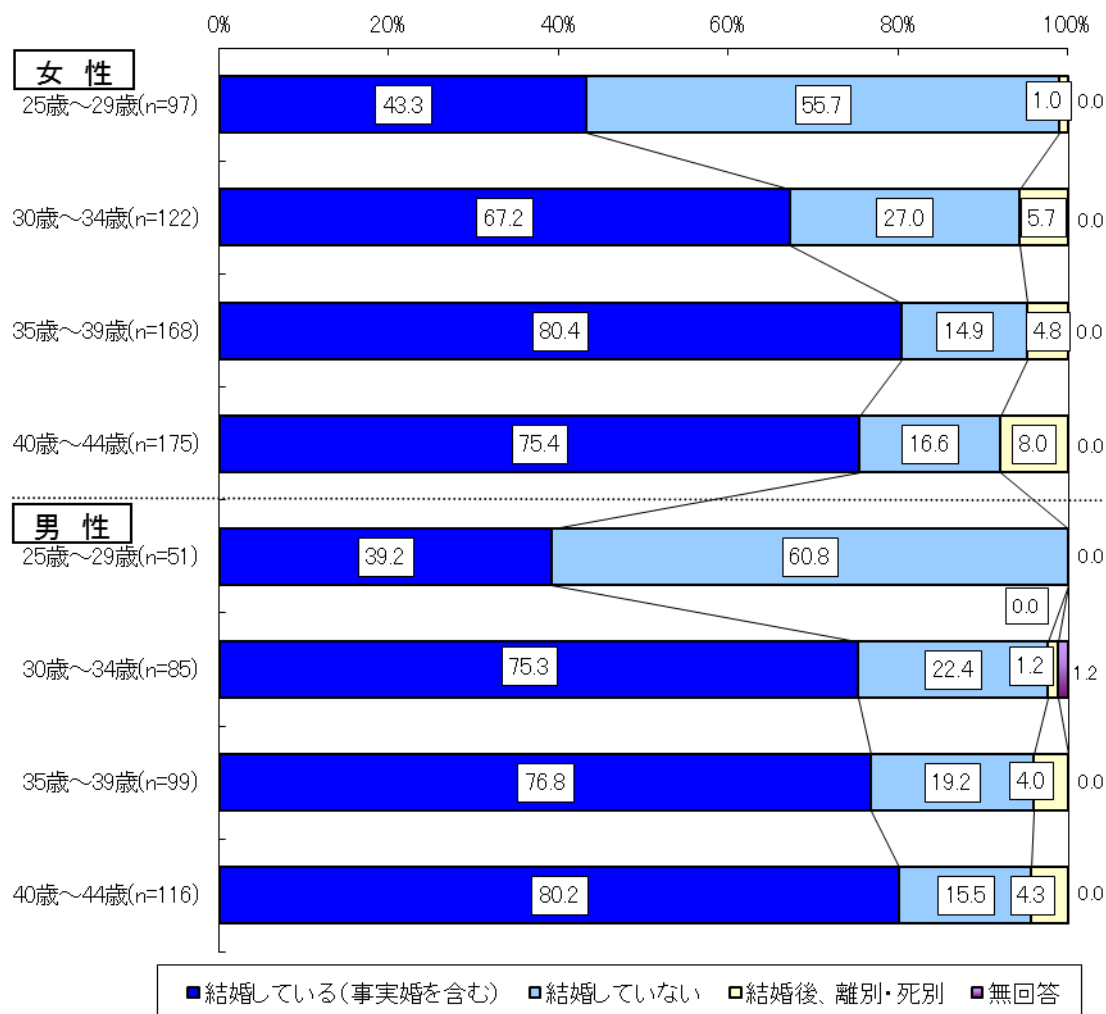
図表(5)-1 結婚の有無(全体、性別)



(件数)	合計	結婚している	結婚していない	離別・死別	無回答
全体	916	645	230	40	1
女性	563	392	141	30	0
男性	352	253	88	10	1
無回答	1	0	1	0	0

注) 以降、「結婚している(事実婚を含む)」を「既婚」、「結婚していない」及び「結婚後、離別・死別」を合わせて「独身」と表記する。

図表(5)-2 結婚の有無(性別・年代別)



(件数)		合計	結婚して いる	結婚して いない	離別・ 死別	無回答
合計		916	645	230	40	1
女性	25歳~29歳	97	42	54	1	0
	30歳~34歳	122	82	33	7	0
	35歳~39歳	168	135	25	8	0
	40歳~44歳	175	132	29	14	0
男性	25歳~29歳	51	20	31	0	0
	30歳~34歳	85	64	19	1	1
	35歳~39歳	99	76	19	4	0
	40歳~44歳	116	93	18	5	0
無回答		3	1	2	0	0

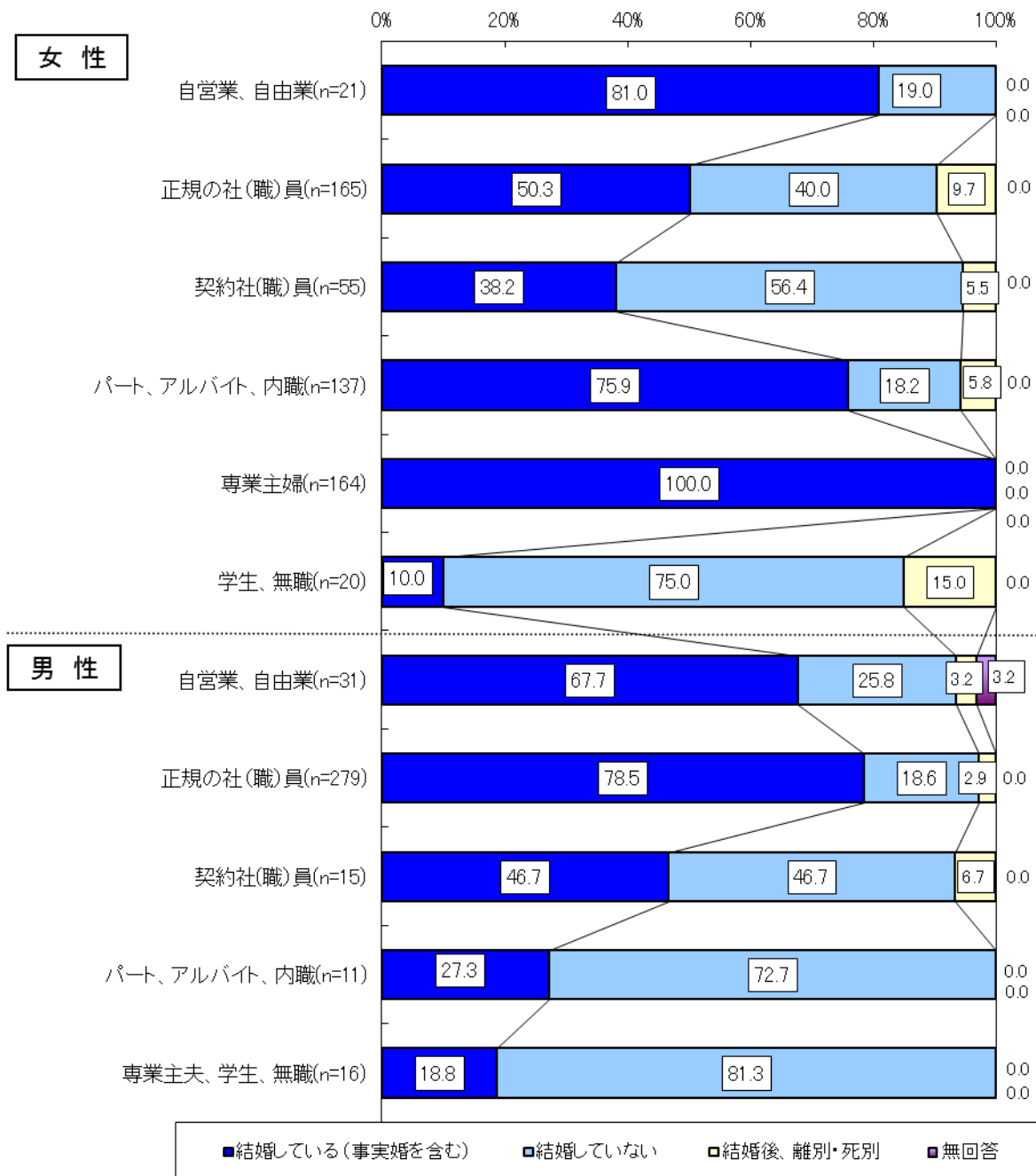
\* 本調査の回答者の既婚率は全国平均より高い。

【図表(資料)参照】

【資料】『平成22年国勢調査』より

(%)		有配偶	未婚	離別・死別
女性	25歳~29歳	37.1	60.3	2.6
	30歳~34歳	60.8	34.5	4.7
	35歳~39歳	69.8	23.1	7.1
	40歳~44歳	73.2	17.4	9.4
男性	25歳~29歳	27.1	71.8	1.1
	30歳~34歳	50.4	47.3	2.2
	35歳~39歳	60.8	35.6	3.5
	40歳~44歳	66.4	28.6	5

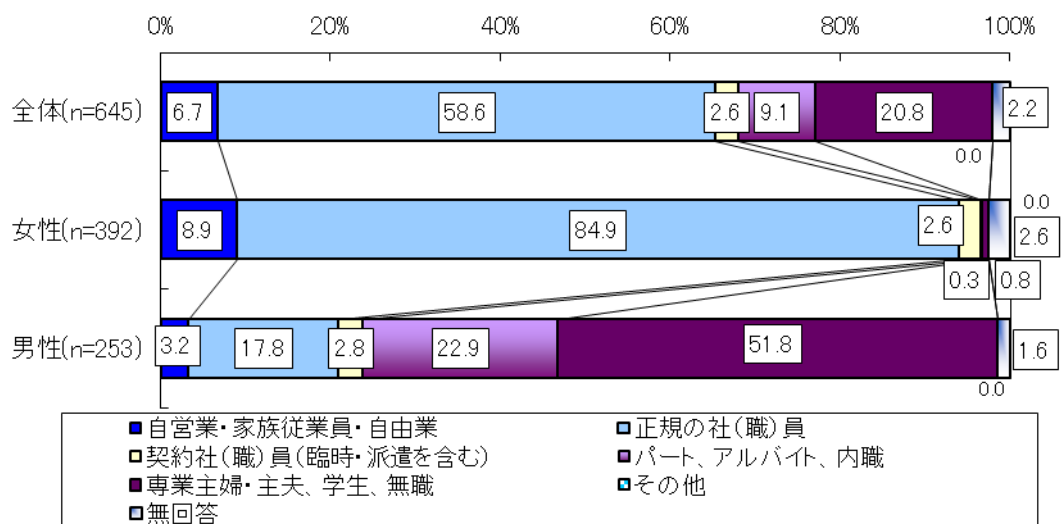
図表(5)-3 結婚の有無(性別・職業別)



(件数)		合計	結婚している	結婚していない	離別・死別	無回答
合計		916	645	230	40	1
女性	自営業、自由業	21	17	4	0	0
	正規の社(職)員	165	83	66	16	0
	契約社(職)員	55	21	31	3	0
	パート、アルバイト、内職	137	104	25	8	0
	専業主婦	164	164	0	0	0
	学生、無職	20	2	15	3	0
男性	自営業、自由業	31	21	8	1	1
	正規の社(職)員	279	219	52	8	0
	契約社(職)員	15	7	7	1	0
	パート、アルバイト、内職	11	3	8	0	0
	専業主夫、学生、無職	16	3	13	0	0
	無回答	2	1	1	0	0

(6) 配偶者の職業

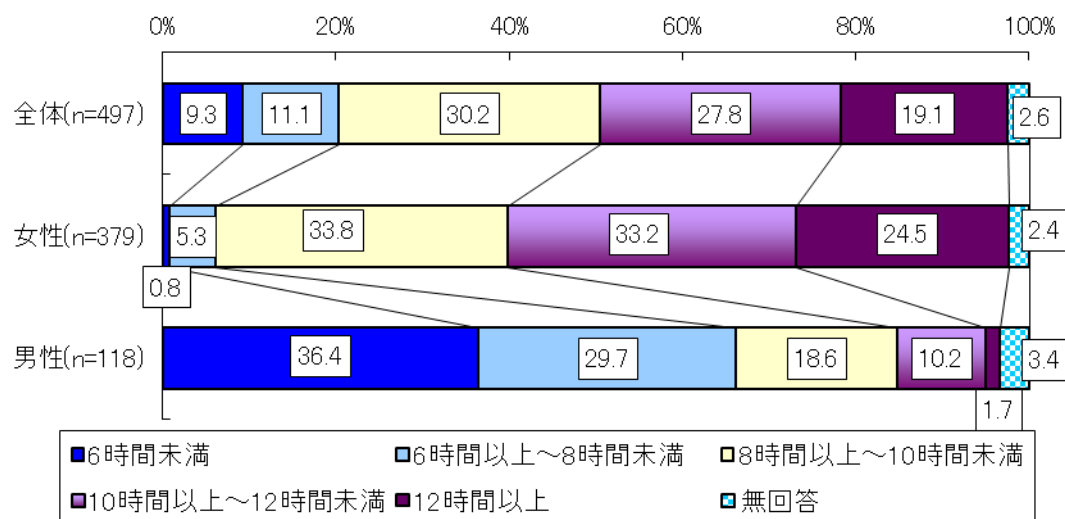
図表(6)-1 配偶者の職業(全体、性別)



(件数)	合計	自営業、自由業	正規の社(職)員	契約社(職)員	パート、アルバイト、内職	専業主婦・主夫等	その他	無回答
全体	645	43	378	17	59	134	0	14
女性	392	35	333	10	1	3	0	10
男性	253	8	45	7	58	131	0	4

(7) 配偶者の仕事従事時間

図表(7)-1 配偶者の仕事従事時間(全体、性別)



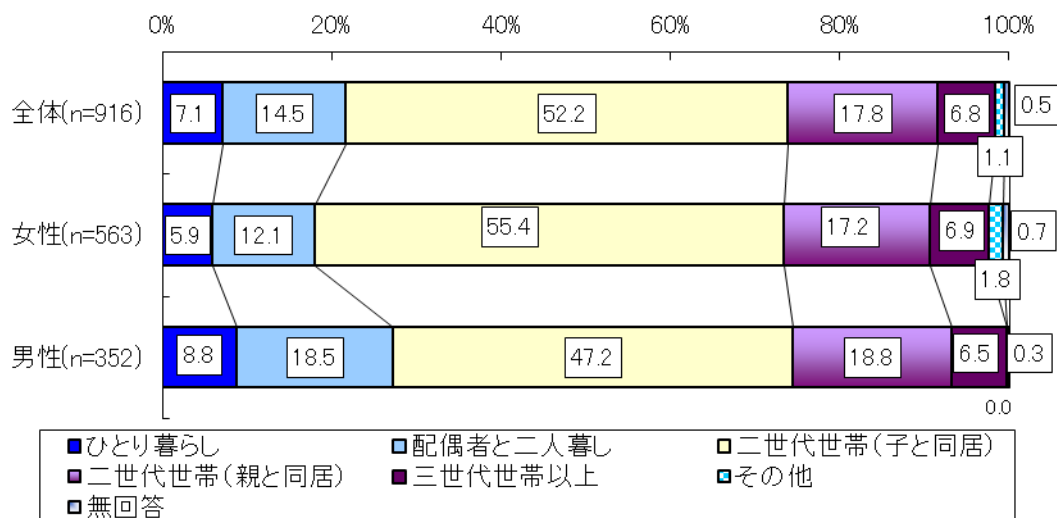
(件数)	合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	497	46	55	150	138	95	13
女性	379	3	20	128	126	93	9
男性	118	43	35	22	12	2	4



(8) 家族構成

図表(8)-1 家族構成(全体、性別)

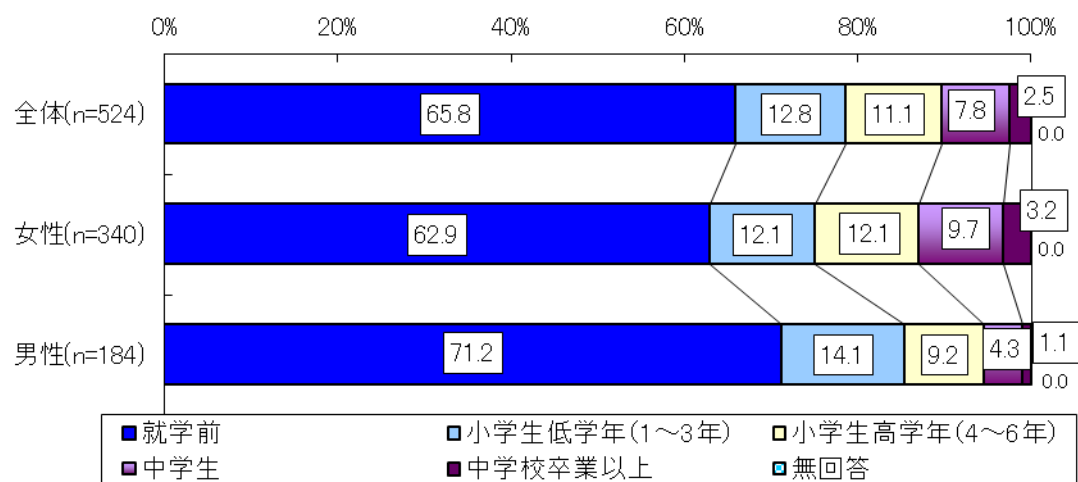
上段: 件数 下段: %	合計	親	配偶者・ パート ナー	子	祖父母	兄弟姉妹	その他	同居人 なし	無回答
合計	916	225	625	524	20	73	14	65	5
	100	24.6	68.2	57.2	2.2	8.0	1.5	7.1	0.5
女性	563	136	373	340	14	48	11	33	4
	100	24.2	66.3	60.4	2.5	8.5	2.0	5.9	0.7
男性	352	89	252	184	6	25	3	31	1
	100	25.3	71.6	52.3	1.7	7.1	0.9	8.8	0.3
無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



(件数)	合計	ひとり暮らし	配偶者と二人暮らし	二世帯世帯(子と同居)	二世帯世帯(親と同居)	三世帯世帯以上	その他	無回答
全体	916	65	133	478	163	62	10	5
女性	563	33	68	312	97	39	10	4
男性	352	31	65	166	66	23	0	1
無回答	1	1	0	0	0	0	0	0

(9) 最年少の子どもの成長段階

図表(9)-1 最年少の子どもの成長段階(全体、性別)



(件数)	合計	就学前	小学生低学年	小学生高学年	中学生	中学校卒業以上	無回答
合計	524	345	67	58	41	13	0
女性	340	214	41	41	33	11	0
男性	184	131	26	17	8	2	0

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 働くことについて

#### (1) 女性が働くことについて

問1 <すべての方がお答えください。>

女性が働く（仕事に就く）ことについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ〇をつけてください。女性はご自分のこととして、男性は一般的な考えをお答えください。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも「継続就労型」が増加している。特に女性では10ポイント以上増加している。

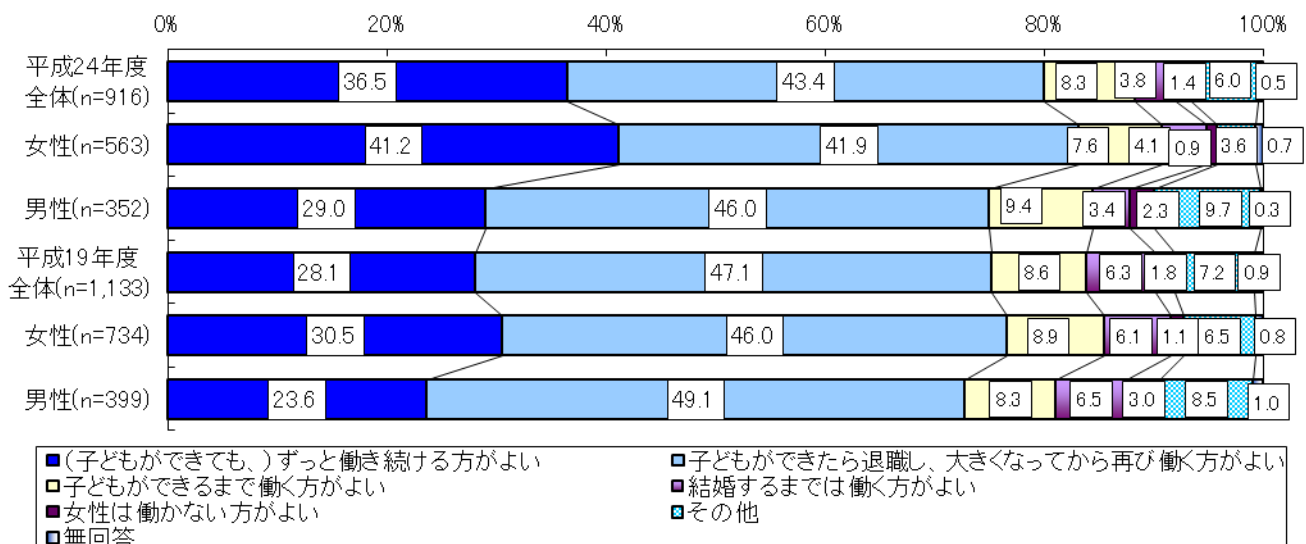
全体では、「子どもができたら退職し、大きくなってから再び働く方がよい（以降、「一時中断型」と表記）」が最も多く、43.4%を占めている。次いで、「（子どもができて）ずっと働き続ける方がよい（以降、「継続就労型」と表記）」が36.5%である。その他の意見はいずれも10%未満である。また、「一時中断型」と「子どもができるまで働く方がよい」（8.3%）及び「結婚するまでは働く方がよい」（3.8%）を合計すると55.6%となり、5割以上が結婚や出産を機に退職した方がよいと考えている。

性別にみると、男女ともに「一時中断型」（女性41.9%、男性46.0%）が最も多い。次いで「継続就労型」（女性41.2%、男性29.0%）で、女性の方が男性よりも約12ポイント高い。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも「継続就労型」が増加している。特に女性では「継続就労型」が10ポイント以上増加している。

【図表 1-1 参照】

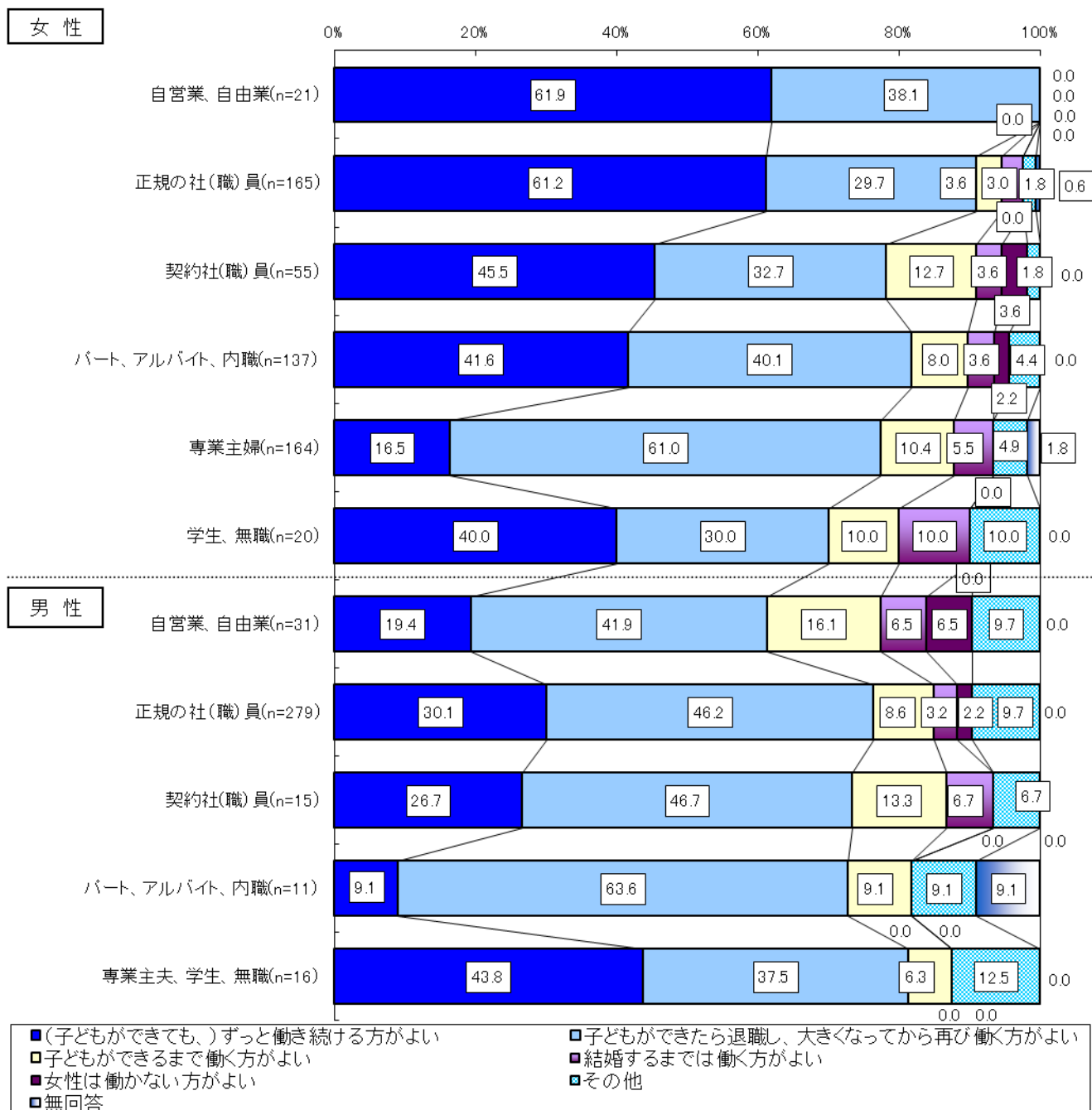
図表 1-1 女性が働くことについて(全体、性別、前回比較)



男女それぞれを職業別にみると、女性については、「専業主婦」(61.0%)では「一時中断型」が6割を超えているが、それ以外は全てで「継続就労型」が最も多い。男性については有職の層では、「一時中断型」が最も多い。

【図表 1-2 参照】

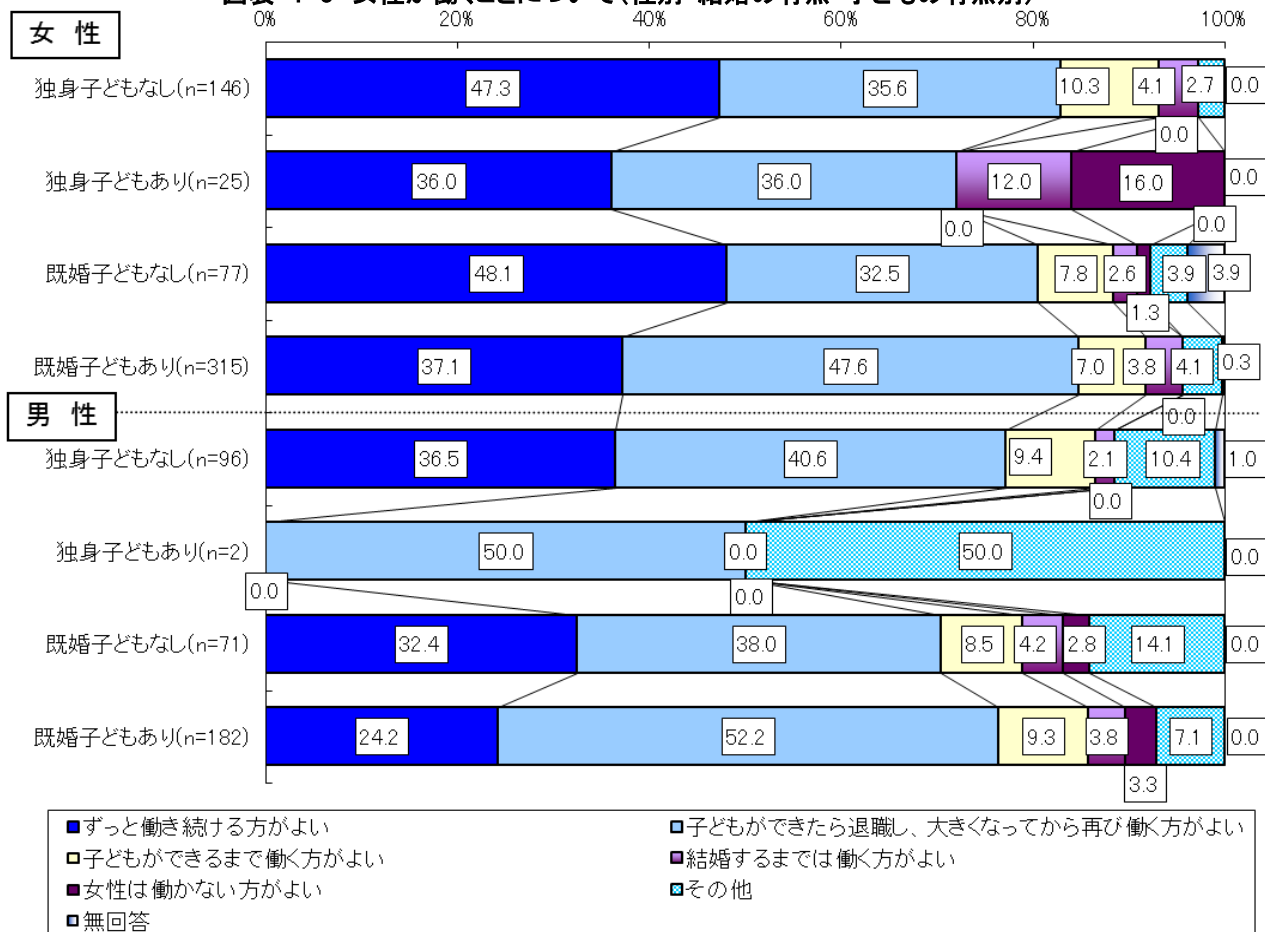
図表 1-2 女性が働くことについて(性別・職業別)



男女それぞれを結婚の有無・子どもの有無別にみると、女性については「継続就労型」は「独身子どもなし」、「既婚子どもなし」で最も多く（順に 47.3%、48.1%）、5 割近くを占めている。男性については、いずれでも「一時中断型」が最も多く、特に「既婚子どもあり」（52.2%）では、5 割を超えている。

【図表 1-3 参照】

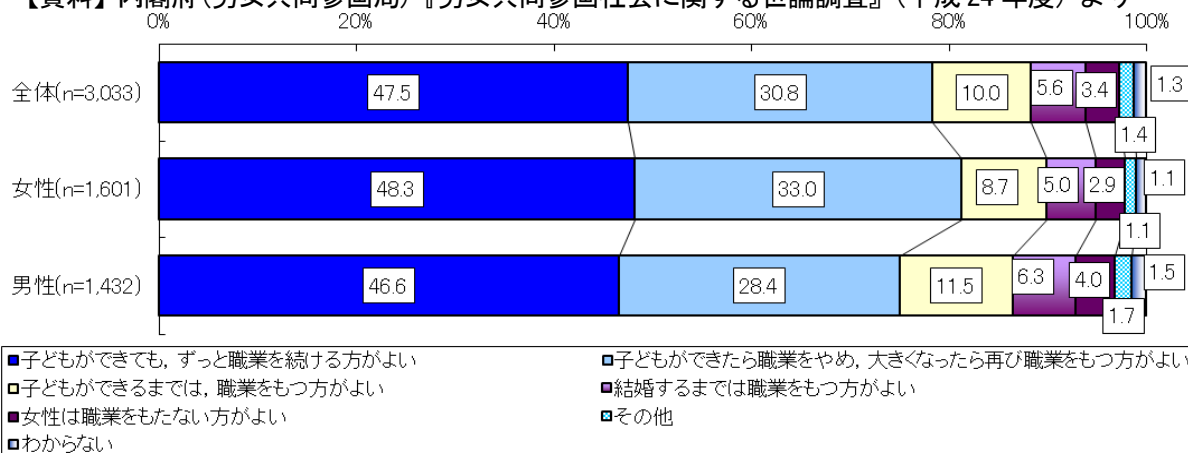
図表 1-3 女性が働くことについて(性別・結婚の有無・子どもの有無別)



内閣府（男女共同参画局）が行った『男女共同参画社会に関する世論調査』（平成 24 年度）と比較すると、全体では、「一時中断型」（本調査：43.4%、内閣府調査：30.8%）は本調査の方が約 13 ポイント高い。

【図表（資料）参照】

【資料】内閣府(男女共同参画局)『男女共同参画社会に関する世論調査』（平成 24 年度）より



## (2) 男性が育児休業を取得することについて

問2 <すべての方がお答えください。>

男性が育児休業を取得することについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。

男性はご自分のことについて、女性は配偶者・パートナー（いない場合は、いると仮定して）のことについてお答えください。

**「取得したいが、現実的には難しい（だろう）」が6割以上。**

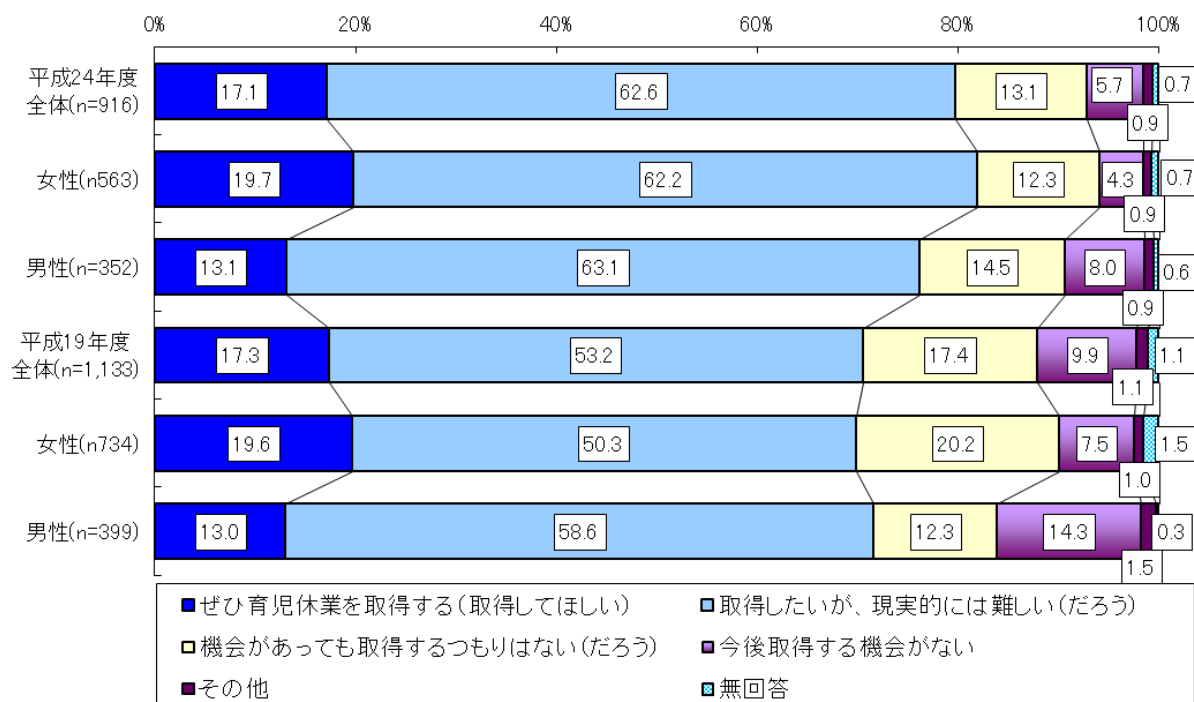
全体では、「取得したいが、現実的には難しい（だろう）（以降、「取得したいが難しい」と表記）」が最も多く 62.6%と6割以上を占めている。次いで「ぜひ育児休業を取得する（取得してほしい）（以降、「ぜひ取得する」と表記）」（17.1%）、「機会があっても取得するつもりはない（だろう）（以降、「取得するつもりはない」と表記）」（13.1%）と続く。

性別にみると、男女ともに「取得したいが難しい」（女性 62.2%、男性 63.1%）が最も多い。また、「ぜひ育児休業を取得する」（女性 19.7%、男性 13.1%）では女性の方がやや高い。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも「取得したいが難しい」が増加している。また、女性では「取得するつもりはない」がやや減少している。

【図表 1-4 参照】

図表1-4 男性の育児休業取得について(全体、性別、前回比較)



### (3) 育児休業を取得しない・するのが難しい理由

問3 <問2で2、3を選んだ方はお答えください。>

その理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

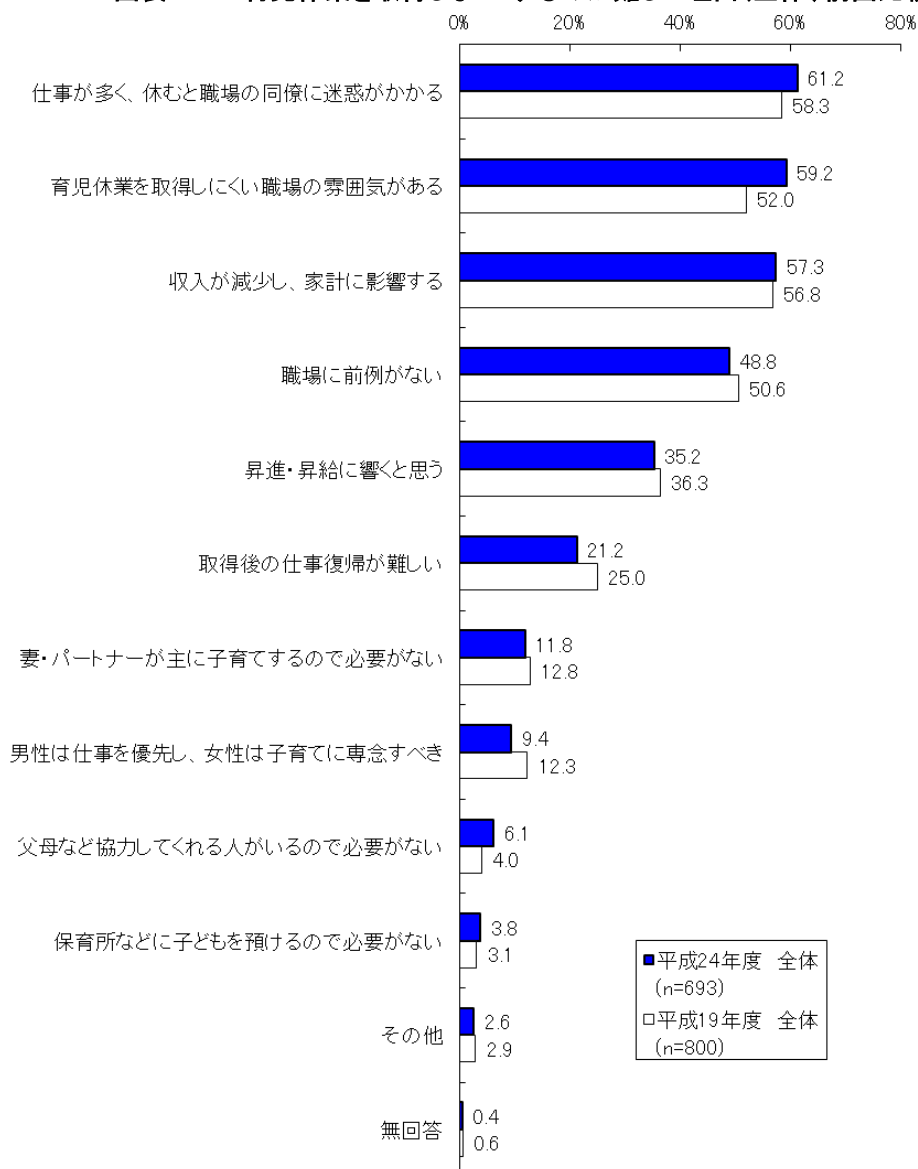
**「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多く、6割以上。(全体)**

問2で育児休業を取得するつもりはない・するのが難しいと回答した人(693人)に、その理由についてたずねたところ、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」(61.2%)が最も多く、続いて「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」(59.2%)、「収入が減少し、家計に影響する」(57.3%)が6割近い。

前回調査と比較すると、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」がやや増加している。

【図表1-5参照】

図表 1-5 育児休業を取得しない・するのが難しい理由(全体、前回比較)



「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」では女性が6割半と男性を約20ポイント上回る。(性別)

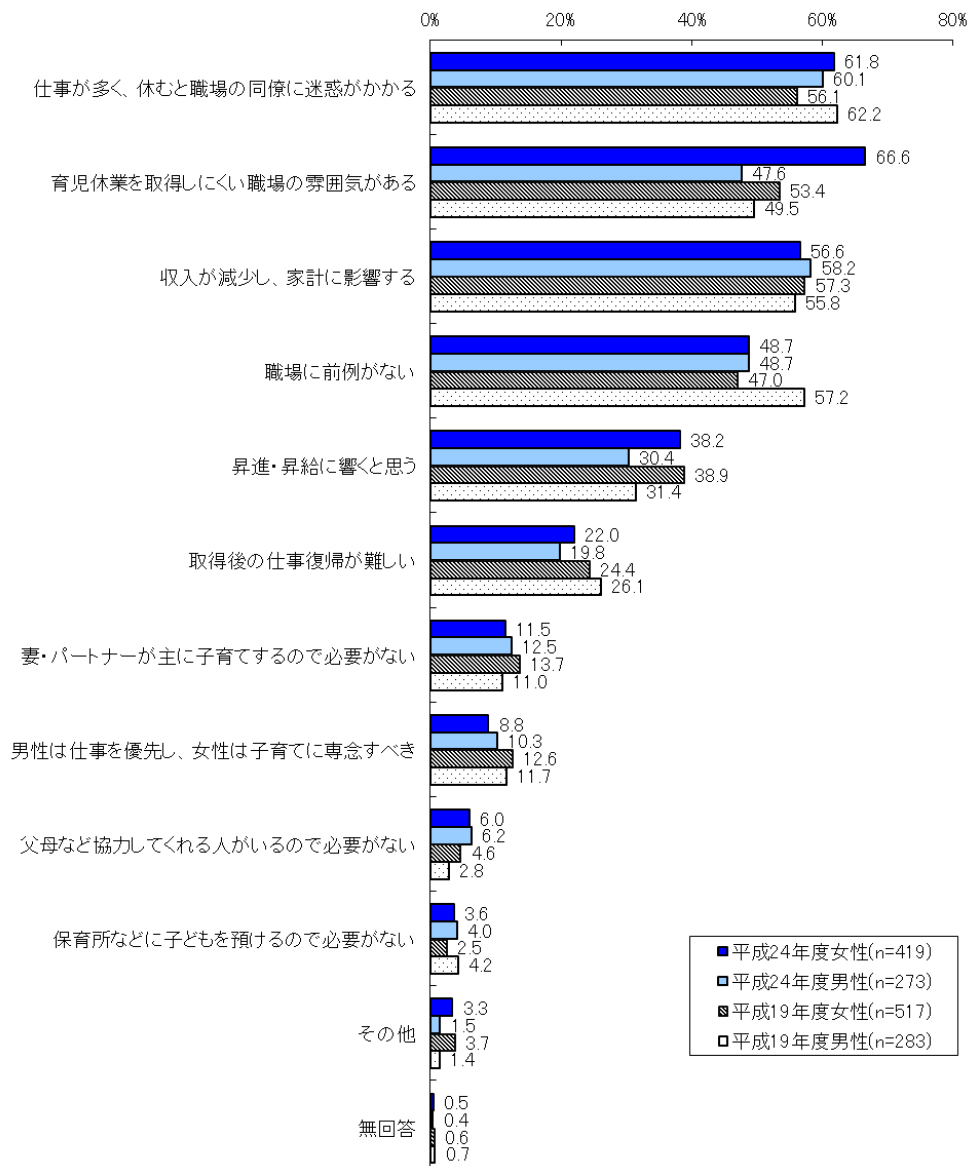
性別にみると、女性で最も多いのは「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」の66.6%、男性で最も多いのは「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」の60.1%である。次いで、女性では「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」(61.8%)、男性では「収入が減少し、家計に影響する」(58.2%)である。

男女で差が大きいものは「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」で、女性の方が男性より19ポイント高い。

前回調査と比較すると、女性では「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」が約13ポイント増加し、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」もやや増加している。一方男性では、「職場に前例がない」、「取得後の仕事復帰が難しい」がやや減少している。

【図表 1-6 参照】

図表 1-6 育児休業を取得しない・するのが難しい理由(性別、前回比較)





問2（育児休業を取得するか）の回答別にみると、女性については、「取得したいが難しい」では「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」（70.9%）が、「取得するつもりはない」では「収入が減少し、家計に影響する」（52.2%）がそれぞれ最も多い。男性については、「取得したいが難しい」では「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」（63.1%）が、「取得するつもりはない」では「収入が減少し、家計に影響する」（51.0%）がそれぞれ最も多い。

特に、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」は、男女ともに「取得したいが難しい」（女性70.9%、男性53.2%）が「取得するつもりはない」（女性44.9%、男性23.5%）より25ポイント以上高い。一方、「妻・パートナーが主に子育てするので必要がない」は、男女ともに「取得するつもりはない」（女性36.2%、男性45.1%）が「取得したいが難しい」（女性6.6%、男性5.0%）より約30ポイント以上高い。

【図表1-7 参照】

図表 1-7 育児休業を取得しない・するのが難しい理由(性別・問2の回答別)

合計(n=692)		に仕事が多 く、休むと 職場の同僚 に迷惑が かかる	育児休業 を取得し にくい 職場の 雰囲気 がある	収入が 減少し、 家計に 影響す る	職場に 前例が ない	昇進・ 昇給に 響くと思 う	取得後 の職場 復帰が 難しい	妻・パ ートナ ーが主 に子育 てする ので必 要がな い	子育て に専念 すべき 男性は 仕事を 優先し 、女性 は	父母な ど協力 してく れる人 が	保育所 などに 子ども を預け るの で必要 がない	その他	無回答
女性 (n=419)	取得したいが、現実的には難しいだろう(n=350)	64.6	70.9	57.4	50.9	38.9	22.3	6.6	4.9	2.9	1.7	3.1	0.3
	機会があっても取得するつもりはないだろう(n=69)	47.8	44.9	52.2	37.7	34.8	20.3	36.2	29.0	21.7	13.0	4.3	1.4
男性 (n=273)	取得したいが、現実的には難しい(n=222)	63.1	53.2	59.9	52.3	33.8	21.6	5.0	6.8	4.5	1.4	1.4	0.0
	機会があっても取得するつもりはない(n=51)	47.1	23.5	51.0	33.3	15.7	11.8	45.1	25.5	13.7	15.7	2.0	2.0

#### (4) 仕事に対する意欲

問4 <お仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方はお答えください。>

あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

約8割が「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と思うと回答。

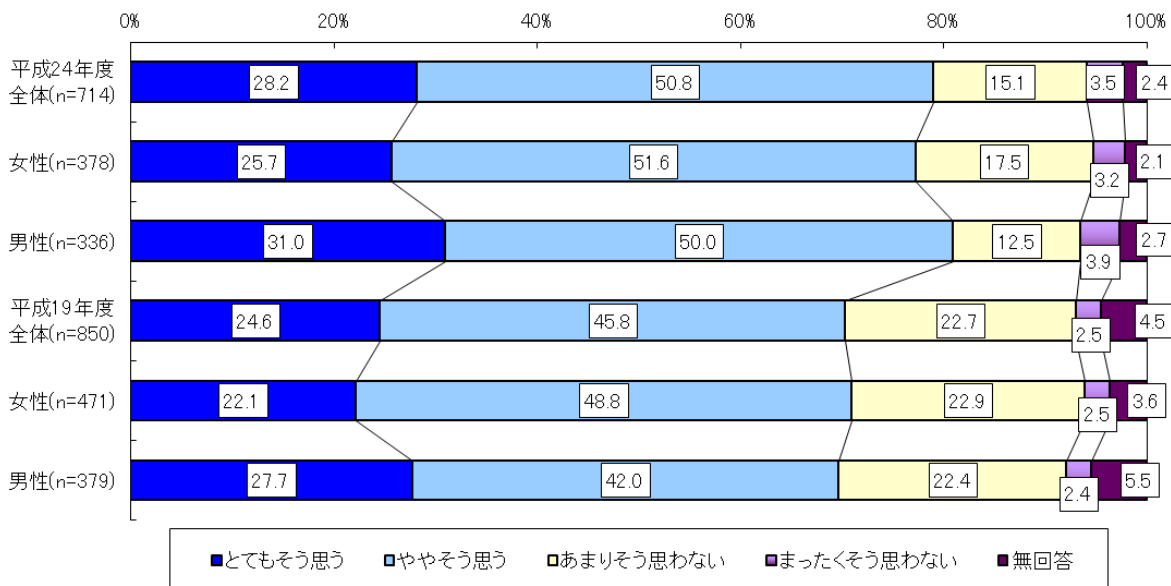
現在仕事に就いている人（714人）に、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいるかたずねたところ、**全体**では、「とてもそう思う」が28.2%、「ややそう思う」が50.8%で、両者を合わせた“そう思う”は79.0%だった。一方、「あまりそう思わない」は15.1%、「まったくそう思わない」は3.5%で、両者を合わせた“そう思わない”は18.6%だった。

性別にみると、“そう思う”が女性では77.2%、男性では81.0%だった。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも“そう思う”が増加している。特に男性では“そう思う”が約11ポイント増加している。

【図表 1-8 参照】

図表 1-8 仕事に対する意欲(全体、性別、前回比較)



## (5) 職場の雰囲気

問5 <お仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方はお答えください。>

あなたの職場の雰囲気などについてお聞きします。次の（A）～（E）のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

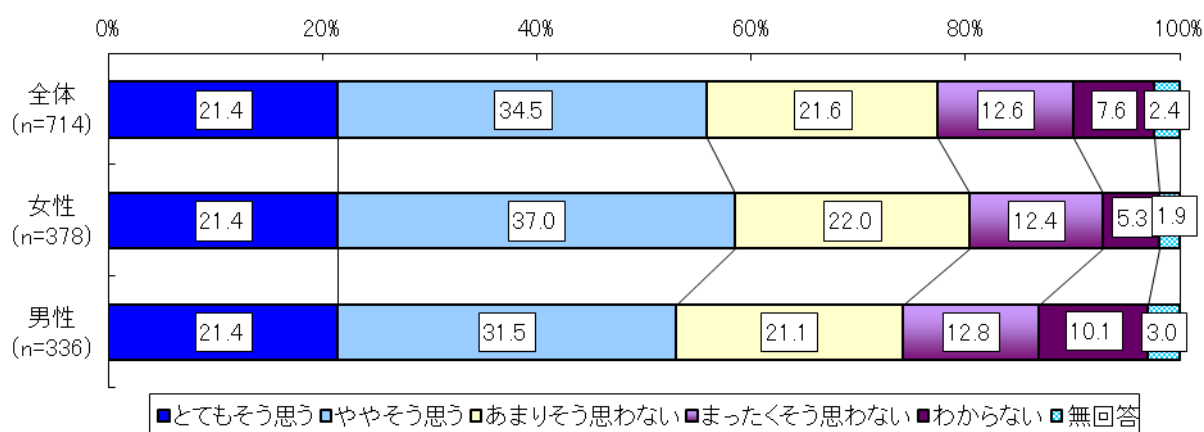
### （A）女性が昇進する機会や責任ある仕事を任される機会がある

半数以上が、「女性が昇進する機会や、責任ある仕事を任される機会がある」と思うと回答。  
（女性登用）

現在仕事に就いている人（714人）に、（以降（E）まで同じ）現在の職場で、女性が昇進する機会や、責任ある仕事を任される機会があるかたずねたところ、全体では、「とてもそう思う」が21.4%、「ややそう思う」が34.5%で、両者を合わせた“そう思う”が55.9%である。一方、「あまりそう思わない」が21.6%、「まったくそう思わない」が12.6%で、両者を合わせた“そう思わない”は34.2%である。

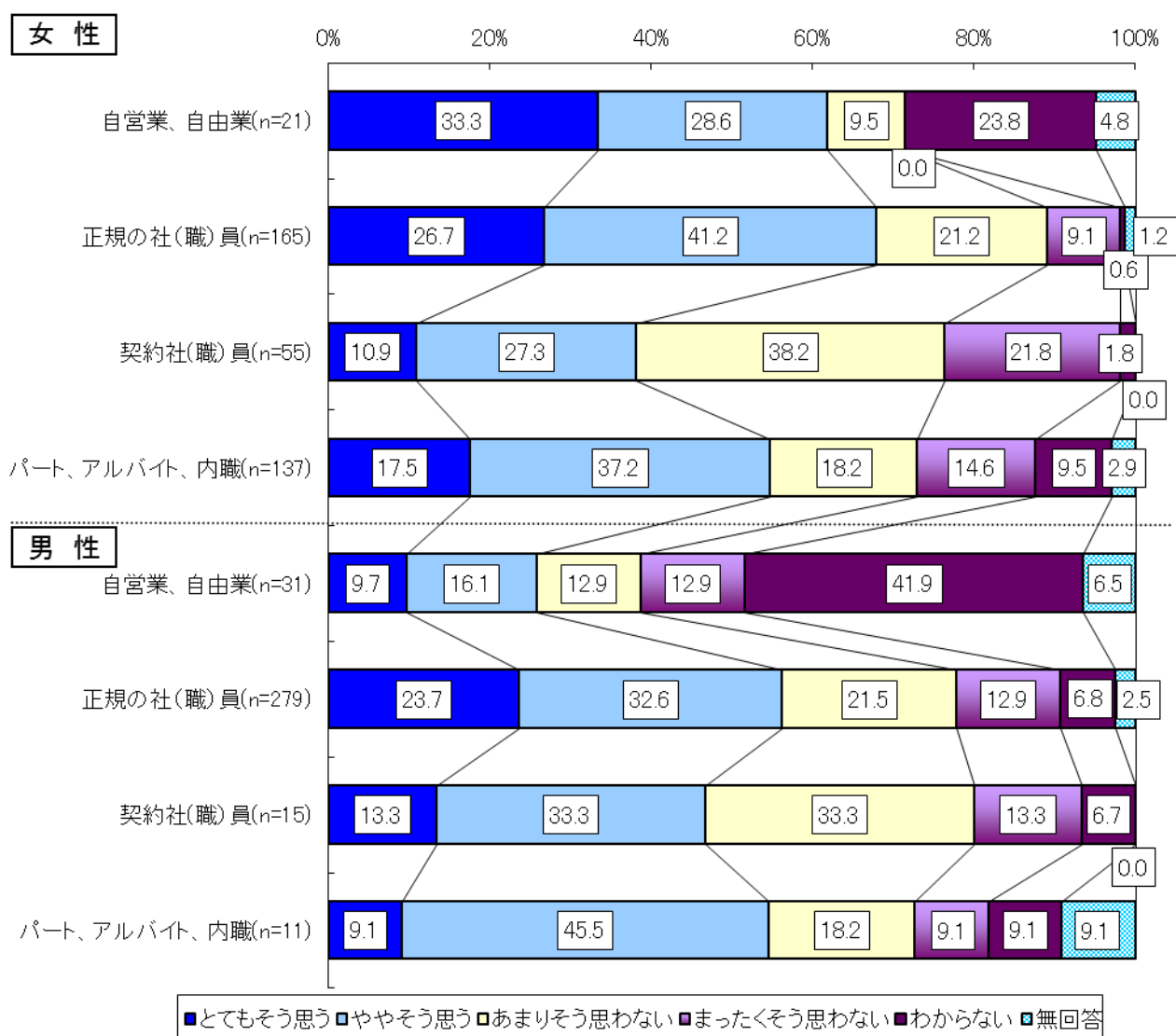
性別にみると、男女ともに半数以上が“そう思う”と回答している。女性では“そう思う”の割合が58.5%、男性では53.0%で、やや女性の方が高い。【図表1-9参照】

図表 1-9 職場の雰囲気(A)〈女性登用〉(全体、性別)



男女それぞれを職業別にみると、女性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”の割合が67.9%であり、“そう思わない”の30.3%を35ポイント以上上回る。また「パート、アルバイト、内職」も「正規の社（職）員」より少ないが、54.7%が“そう思う”と回答している。一方、「契約社（職）員」は、“そう思う”（38.2%）よりも“そう思わない”（60.0%）が高い。男性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”が56.3%、“そう思わない”が34.4%である。 【図表 1-10 参照】

図表 1-10 職場の雰囲気(A)〈女性登用〉(性別・職業別)



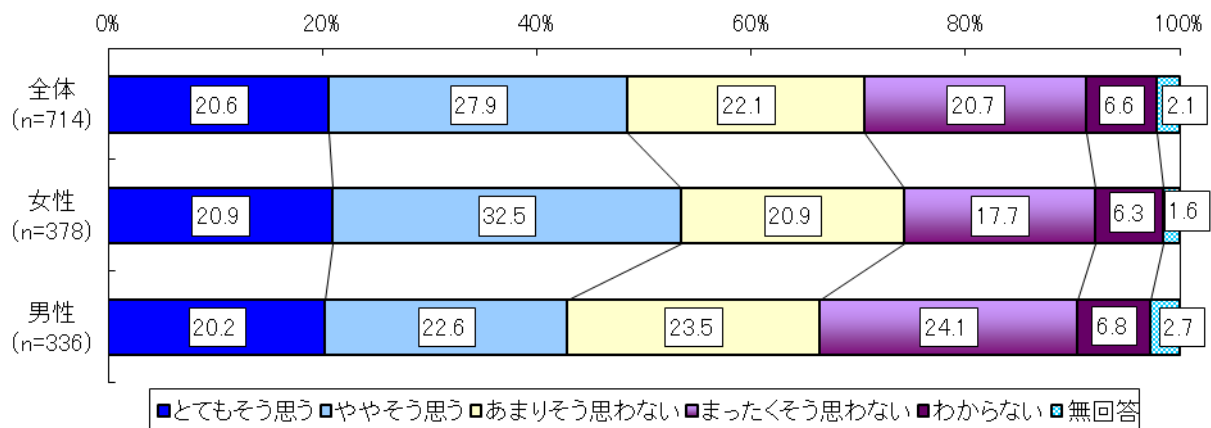
(B) 育児・介護休業制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されている

女性の5割以上、男性の4割以上が「育児・介護休暇制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されている」と思うと回答。(柔軟な働き方の整備)

全体では、「とてもそう思う」が20.6%、「ややそう思う」が27.9%で、両者を合わせた“そう思う”は48.5%である。一方、「あまりそう思わない」は22.1%、「まったくそう思わない」は20.7%で、両者を合わせた“そう思わない”は42.9%と、“そう思う”をやや下回る。

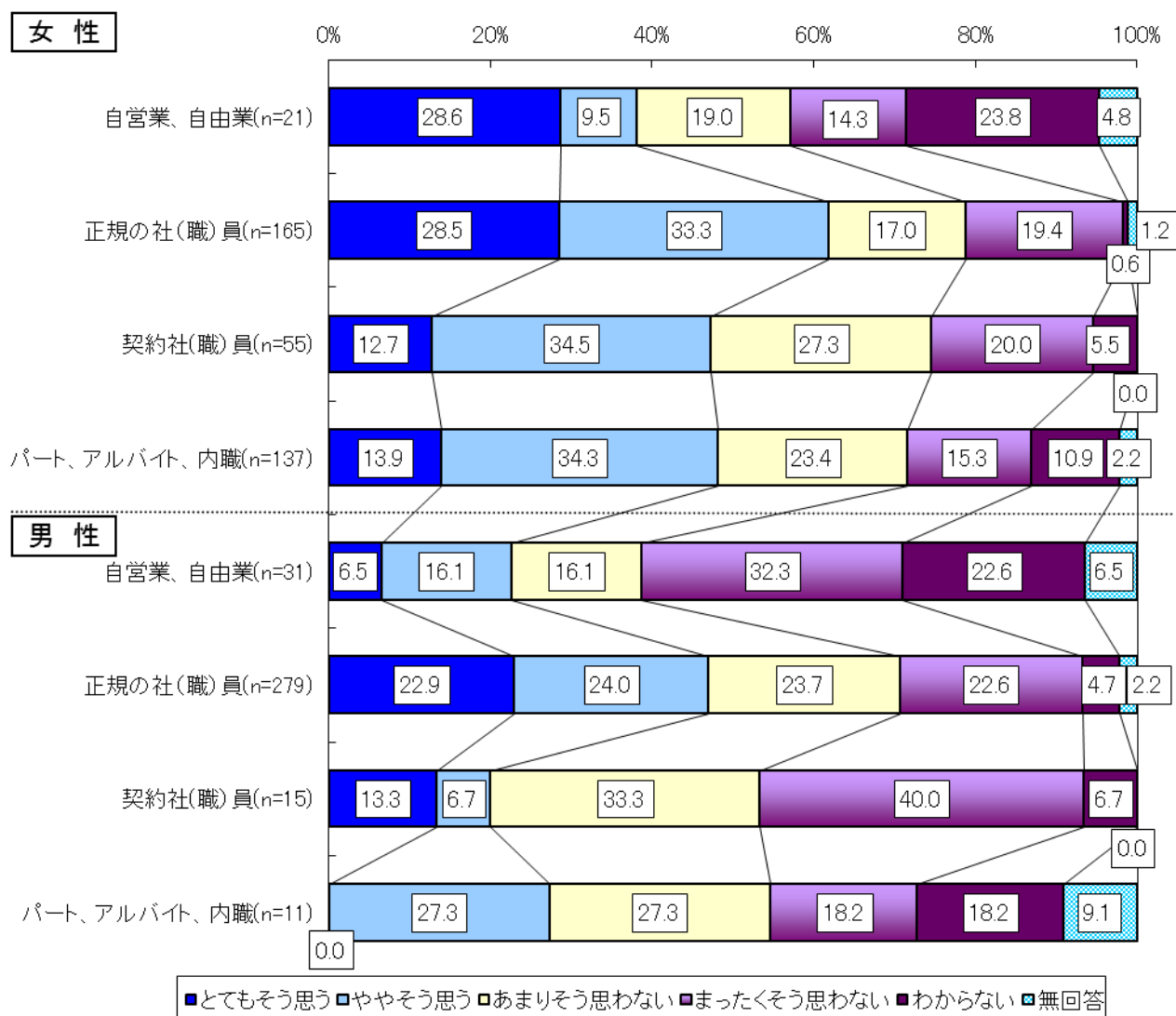
性別にみると、女性では“そう思う”の割合は53.4%、男性では42.9%で、女性の方が約10ポイント高い。 【図表 1-11 参照】

図表 1-11 職場の雰囲気(B)〈柔軟な働き方の整備〉(全体、性別)



男女それぞれを職業別にみると、女性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”が61.8%と他の職業よりも高く、“そう思わない”の36.4%を20ポイント以上上回る。「パート、アルバイト、内職」は“そう思う”が48.2%で、「正規の社（職）員」より約14ポイント低い。男性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”が47.0%、“そう思わない”は46.2%とほぼ同じ割合である。 【図表 1-12 参照】

図表 1-12 職場の雰囲気(B)〈柔軟な働き方の整備〉(性別・職業別)



**(C) 男性への育児・介護休暇取得促進をおこなっている**

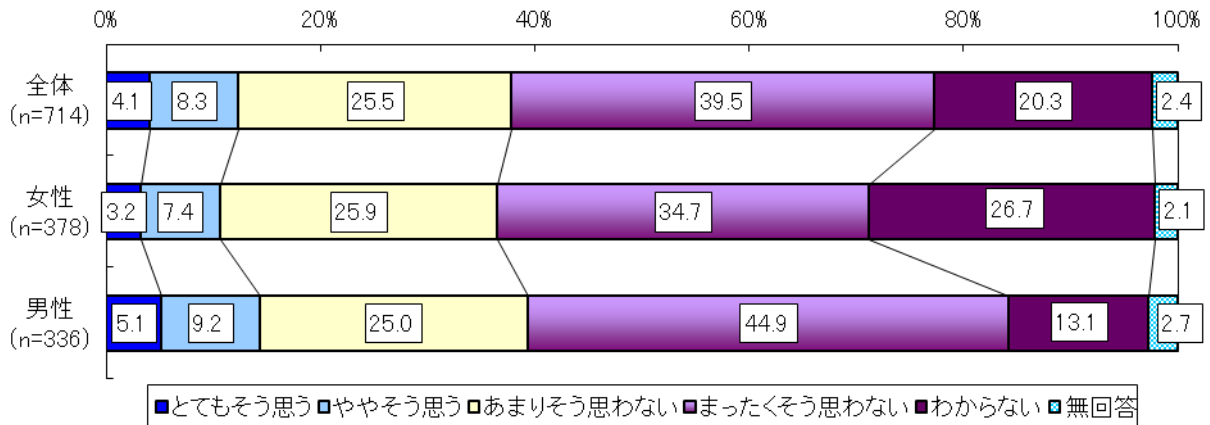
6割半が、「男性への育児・介護休暇取得促進をおこなっている」とは思わないと回答。(男性への育児休暇等取得促進)

全体では、「とてもそう思う」が4.1%、「ややそう思う」が8.3%で、両者を合わせた“そう思う”は12.3%である。一方、「あまりそう思わない」は25.5%、「まったくそう思わない」は39.5%で、両者を合わせて65.0%が“そう思わない”と回答している。

また、「わからない」は20.3%で、他の職場の雰囲気の問題よりも割合が高い。

性別にみると、「まったくそう思わない」の割合が女性では34.7%、男性では44.9%と、男性の方が約10ポイント高い。 【図表 1-13 参照】

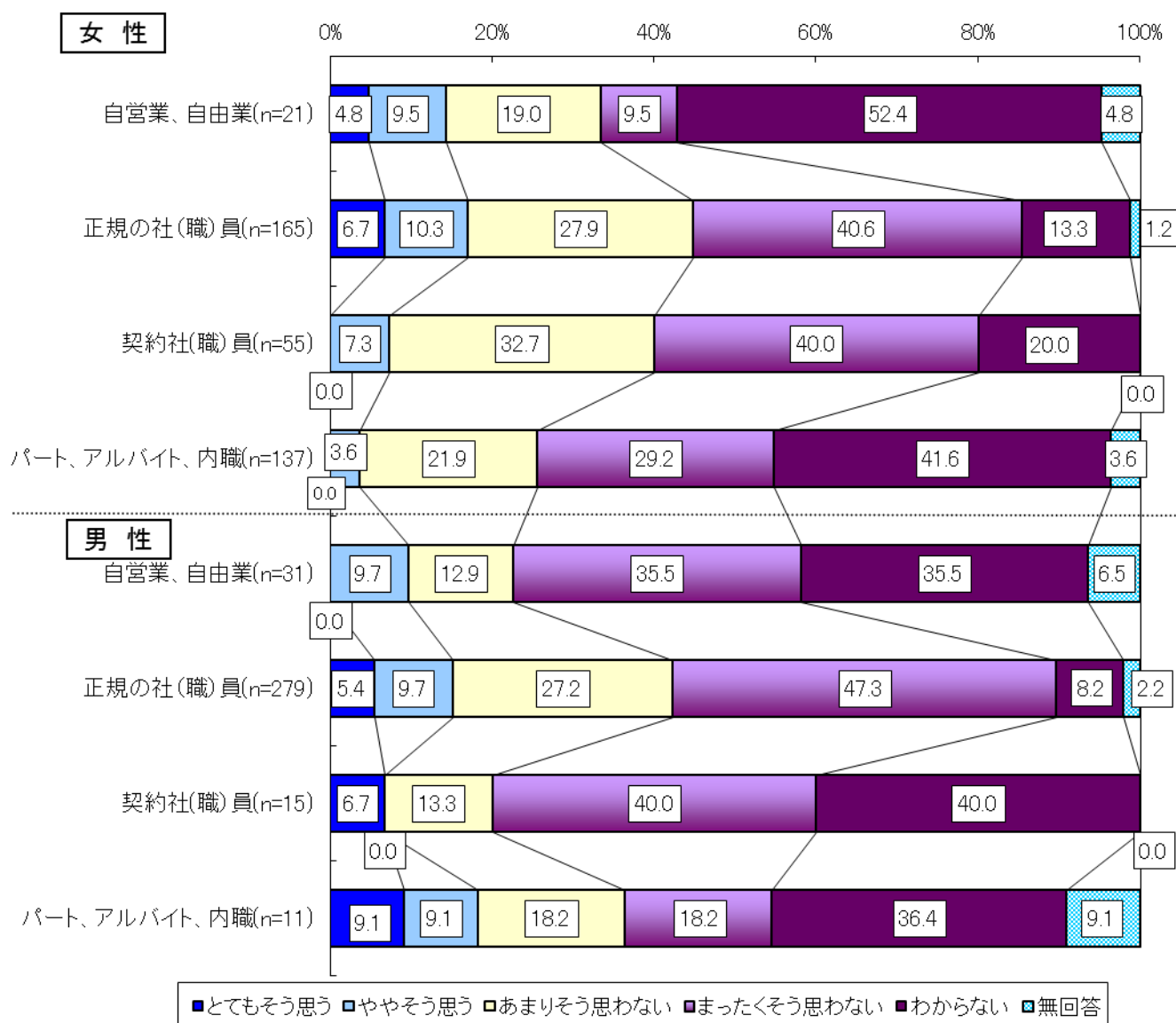
**図表 1-13 職場の雰囲気(C)〈男性への育児休暇等取得促進〉(全体、性別)**



男女それぞれを職業別にみると、男女ともにいずれの職業でも“そう思わない”が“そう思う”を大きく上回っている。女性については「正規の社（職）員」では“そう思う”が17.0%と他の職業よりも高い。男性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”が15.1%、“そう思わない”が74.6%で、7割以上が“そう思わない”と回答している。

【図表 1-14 参照】

図表 1-14 職場の雰囲気(C)〈男性への育児休暇等取得促進〉(性別・職業別)





(D) 職場のコミュニケーションが不足している

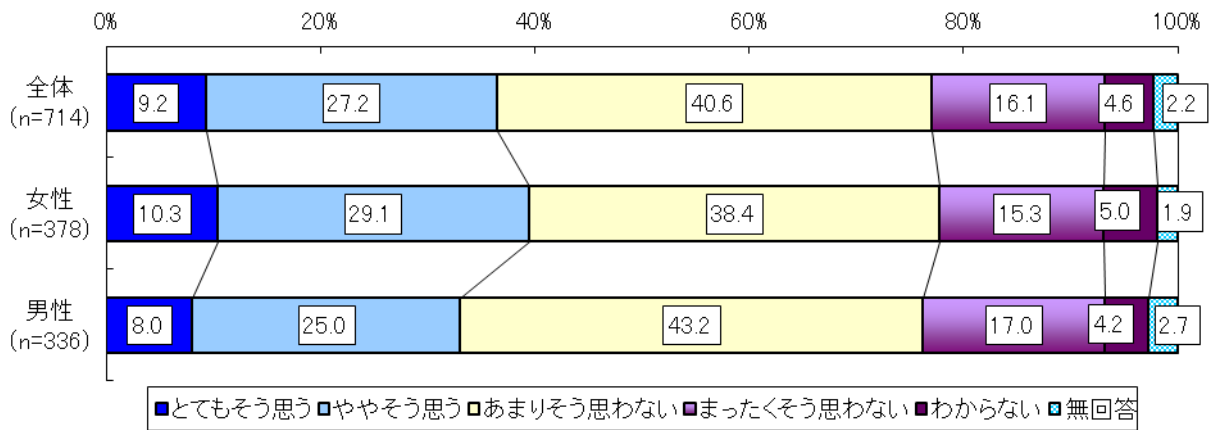
4割近くが「職場のコミュニケーションが不足している」と思うと回答。(職場のコミュニケーション)

全体では、「とてもそう思う」が9.2%、「ややそう思う」が27.2%で、両者を合わせた“そう思う”は36.4%である。一方、「あまりそう思わない」は40.6%、「まったくそう思わない」は16.1%で、両者を合わせた“そう思わない”は56.7%である。

性別にみると、“そう思う”が女性39.4%、男性33.0%と、女性の方がやや高い。

【図表 1-15 参照】

図表 1-15 職場の雰囲気(D)〈職場のコミュニケーション〉(全体、性別)

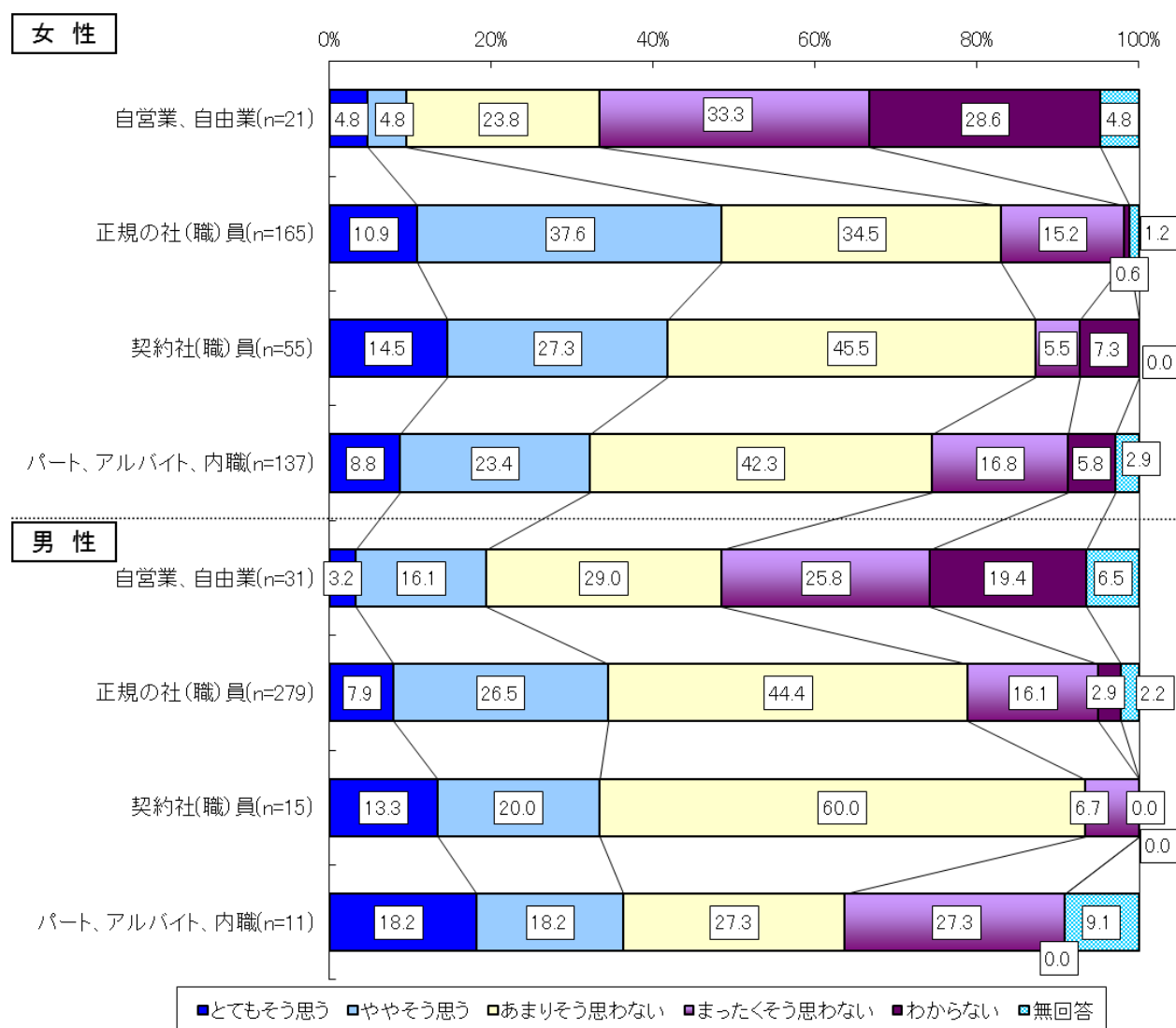


男女それぞれを職業別にみると、男女ともに、いずれの職業でも“そう思わない”が“そう思う”を上回る。女性については「正規の社（職）員」では“そう思う”が48.5%と他の職業よりも高く、“そう思わない”（49.7%）とほぼ同じ割合である。男性については、「正規の社（職）員」で“そう思わない”が60.6%と“そう思う”の34.4%を大きく上回る。

また、男女の「正規の社（職）員」を比較すると、“そう思う”で女性が男性を約1.4ポイント上回る。

【図表 1-16 参照】

図表 1-16 職場の雰囲気(D)〈職場のコミュニケーション〉(性別・職業別)



(E) 残業が多い

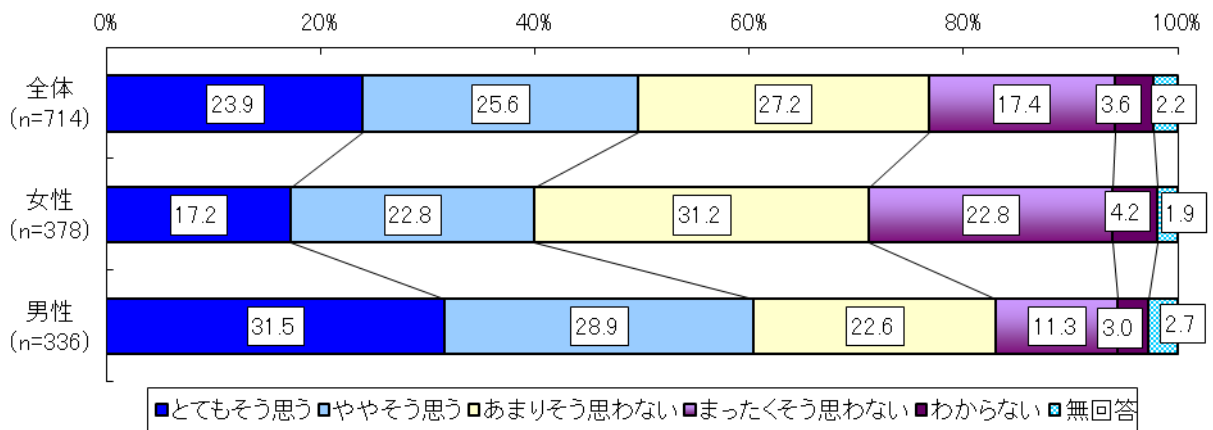
「残業が多い」と思うと回答した男性は約6割と、女性を20ポイント以上上回る。

全体では、「とてもそう思う」が23.9%、「ややそう思う」が25.6%で、両者を合わせた“そう思う”が49.6%である。一方、「あまりそう思わない」は27.2%、「まったくそう思わない」が17.4%で、両者を合わせて44.5%が“そう思わない”と回答している。

性別にみると、女性では“そう思う”が39.9%、“そう思わない”が54.0%である。男性では「とてもそう思う」が31.5%である。また、“そう思う”は60.4%にのぼり、女性を20ポイント以上上回る。

【図表 1-17 参照】

図表 1-17 職場の雰囲気(E)〈残業が多い〉(全体、性別)

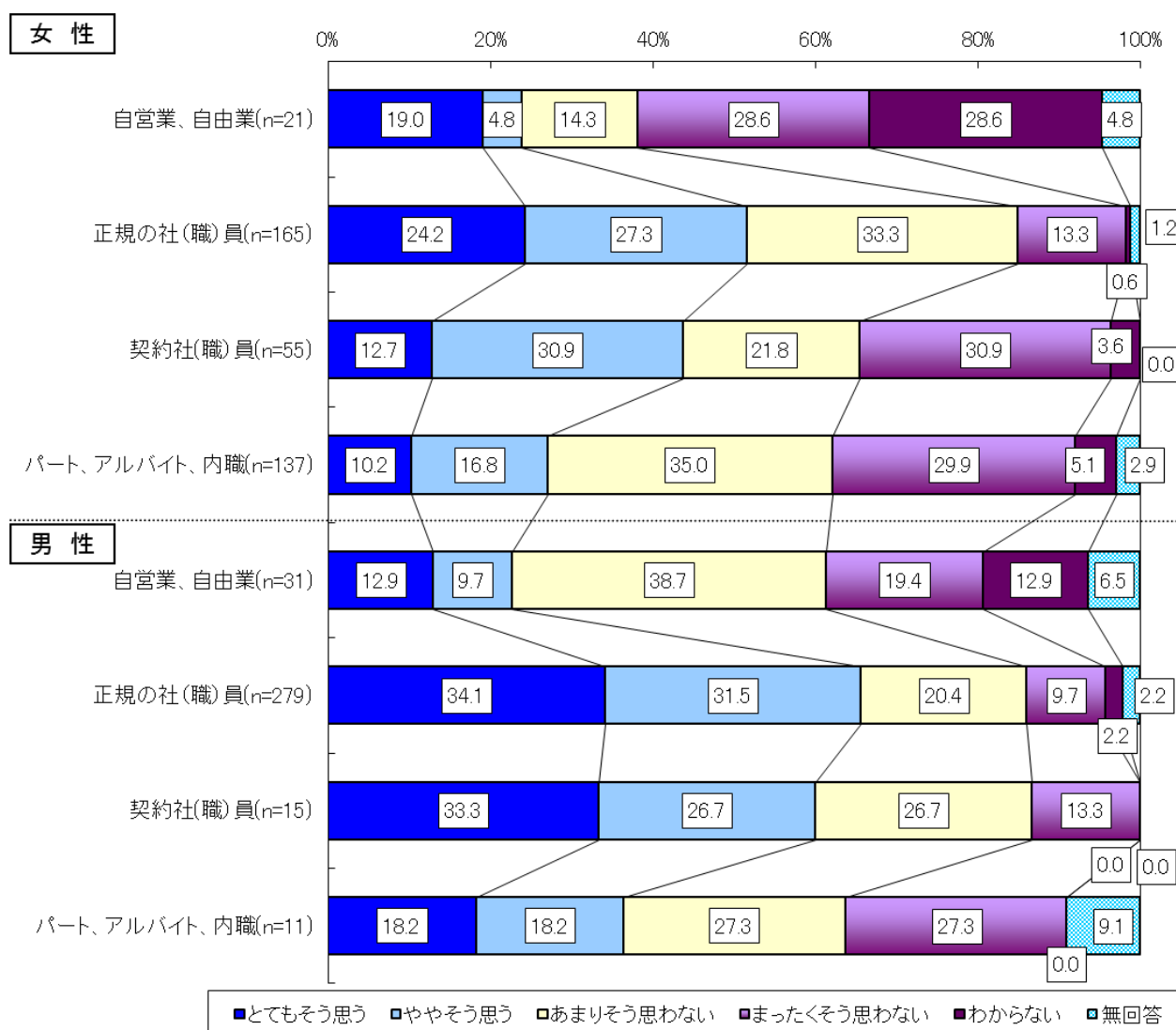


男女それぞれを職業別にみると、女性については、「正規の社（職）員」で“そう思う”が 51.5%である。「契約社（職）員」、「パート、アルバイト、内職」では“そう思わない”（順に、52.7%、65.0%）が“そう思う”（順に、43.6%、27.0%）を上回る。男性については「正規の社（職）員」で「とてもそう思う」が 34.1%、「そう思う」は 65.6%である。

また、男女の「正規の社（職）員」を比較すると、“そう思う”で男性が女性を約 14 ポイント上回る。

【図表 1-18 参照】

図表 1-18 職場の雰囲気(E)〈残業が多い〉(性別・職業別)



## (6) 現在仕事に就いていない理由

問6 <お仕事に就いていない（F3で5～7を選んだ）方はお答えください。>

あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

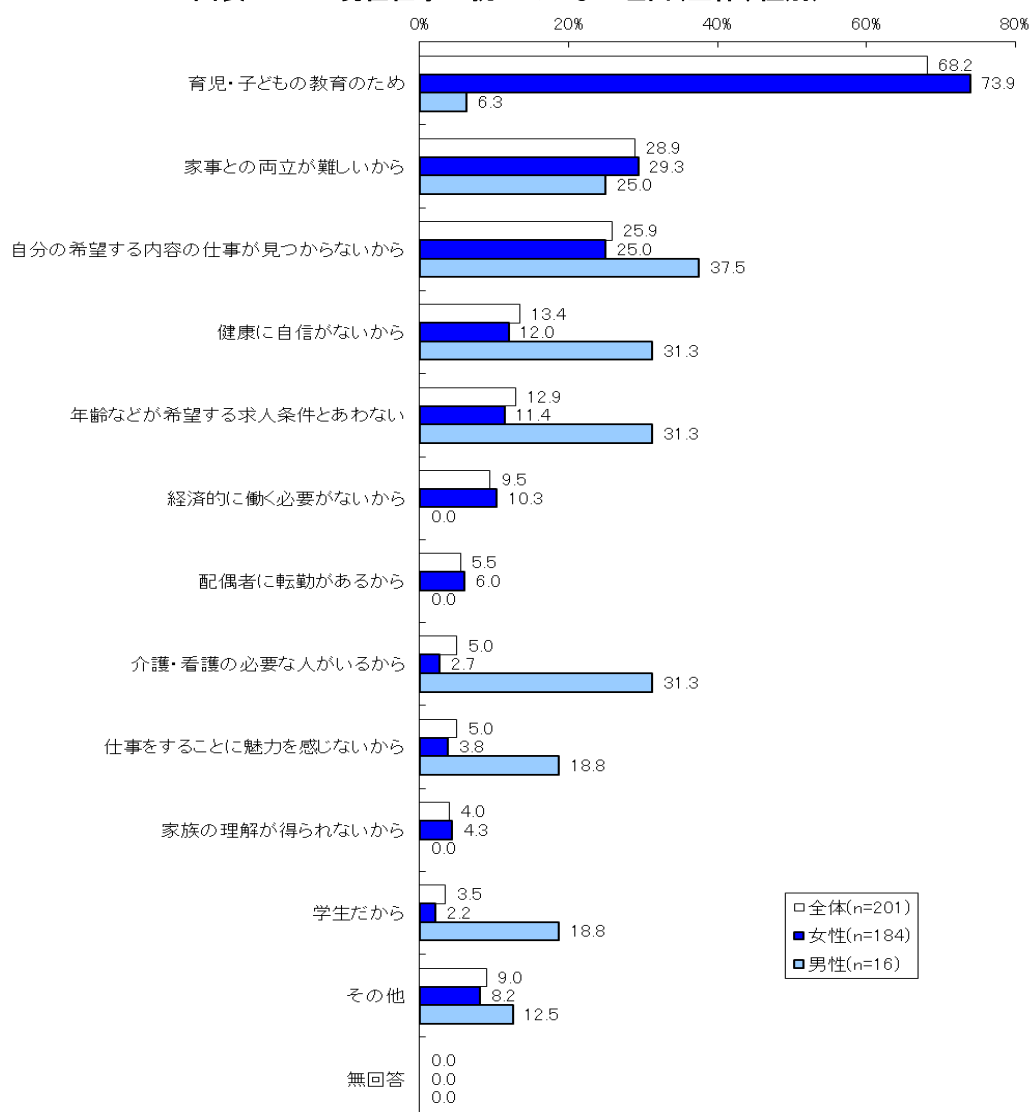
「育児・子どもの教育のため」が最も多く、女性の7割以上が回答。

現在仕事に就いていない人（201人）に、主な理由をたずねたところ、全体では、「育児・子どもの教育のため」が68.2%と最も多い。「家事との両立が難しいから」（28.9%）、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」（25.9%）が続く。

性別にみると、女性では「育児・子どもの教育のため」が73.9%で最も多い。男性では、該当数は少ないが、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」が37.5%で最も多い。

【図表 1-19 参照】

図表 1-19 現在仕事に就いていない理由(全体、性別)



## (7) 今後の就労意思

問7 <お仕事に就いていない（F3で5～7を選んだ）方はお答えください。>

あなたは今後働きたいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

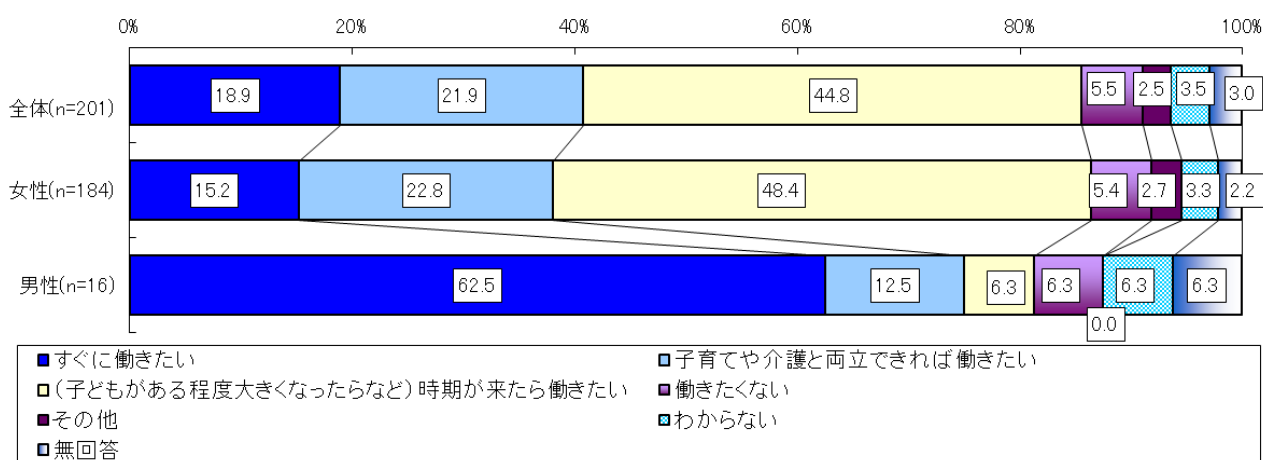
**就労の意思があったのは、8割半。**

現在仕事に就いていない人（201人）に、今後の就職の意思をたずねたところ、全体では、「（子どもがある程度大きくなったらなど）時期が来たら働きたい」が最も多く44.8%である。これに「子育てや介護と両立できれば働きたい」（21.9%）、「すぐに働きたい」（18.9%）を合わせると85.6%になり、8割半の人に就労の意思がある。

性別にみると、女性では、「（子どもがある程度大きくなったらなど）時期が来たら働きたい」（48.4%）が、男性では、該当数は少ないが「すぐに働きたい」（62.5%）が最も多い。

【図表 1-20 参照】

図表 1-20 今後の就労意思(全体・性別)



## 2. 家庭生活について

### (1) 家庭での役割分担

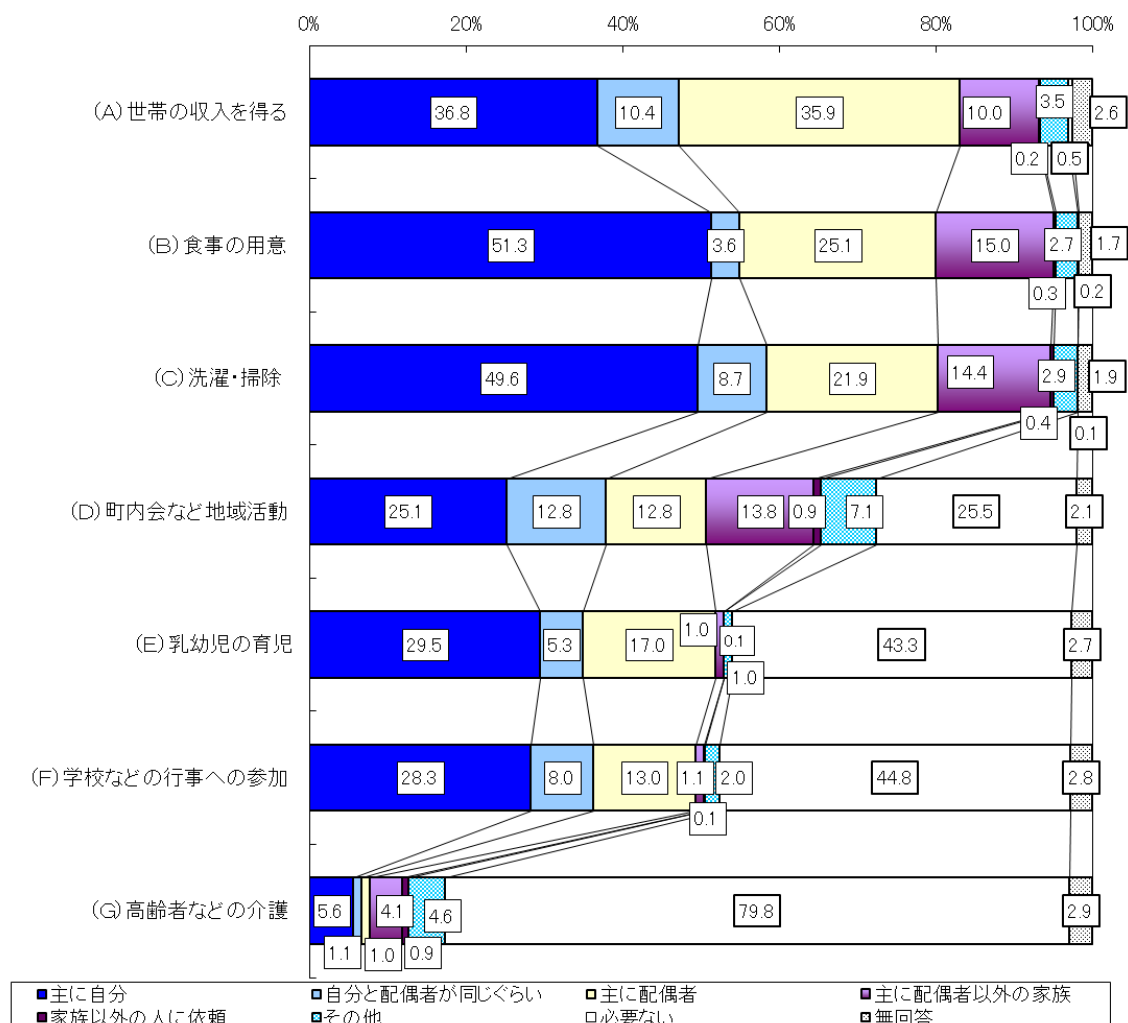
問8 <すべての方がお答えください。>

あなたの家庭では、次の(A)～(G)を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

家庭での役割分担について全体にたずねたところ、家庭における7つの仕事の中で、「主に自分」が最も多いのは「食事の用意」、「自分と配偶者が同じぐらい」が最も多いのは「町内会など地域活動」、「主に配偶者」が最も多いのは「世帯の収入を得る」だった。一方、「必要ない」は「高齢者などの介護」で最も多い。

【図表 2-1 参照】

図表 2-1 家庭での役割分担(全体ベース、n=916)

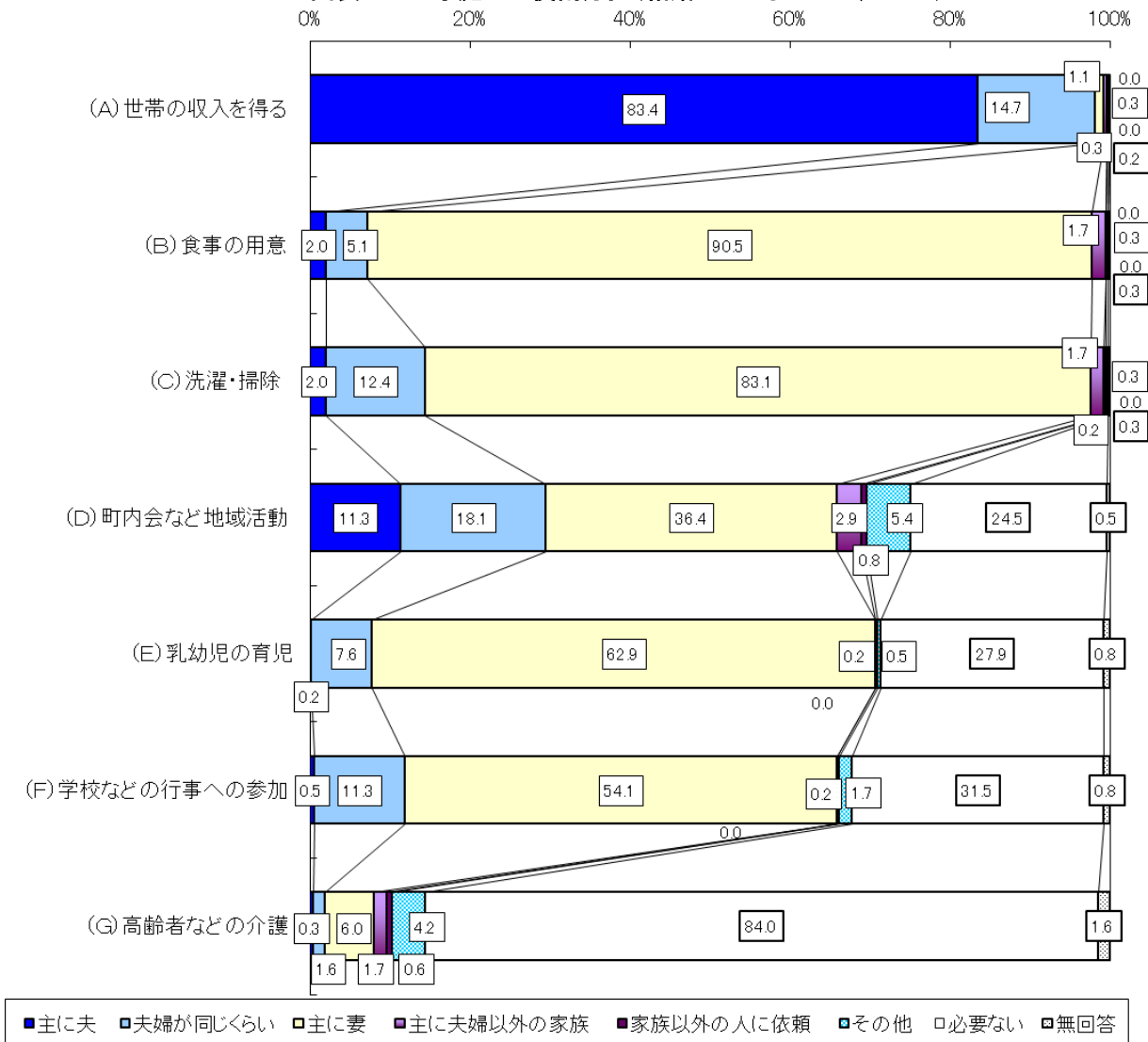


「世帯の収入を得る」は「主に夫」が8割以上、「食事の用意」「洗濯・掃除」は「主に妻」が8割以上を占める。

結婚している人（645人）全体について、男女ごとに夫、妻に再分類して役割分担をまとめると、「世帯の収入を得る」では「主に夫」とする人の割合が83.4%と多いが、それ以外ではいずれも「主に妻」が「主に夫」を大きく上回る。特に「食事の用意」、「洗濯・掃除」は「主に妻」（順に90.5%、83.1%）が8割を超えている。一方、「夫婦が同じくらい」とする人の割合について、家庭における7つの仕事で比較すると、「町内会など地域活動」は18.1%で他の仕事よりやや高い。続いて「世帯の収入を得る」は14.7%、「洗濯・掃除」が12.4%、「学校などの行事への参加」が11.3%である。

【図表 2-2 参照】

図表 2-2 家庭での役割分担（結婚しているベース、n=645）



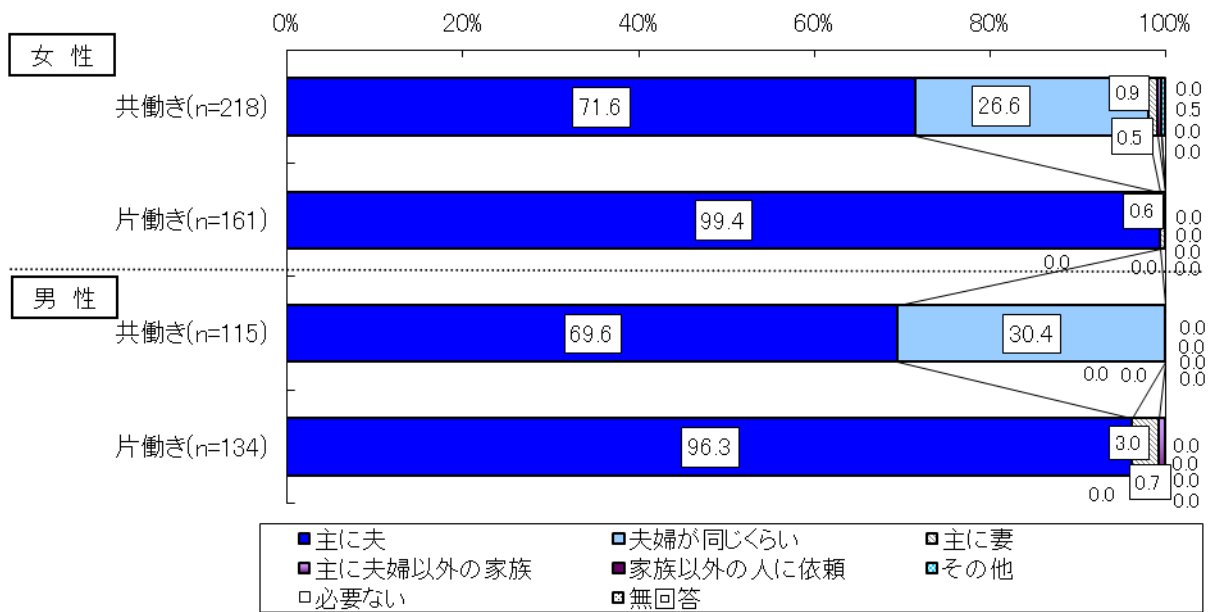
※現在「結婚している(事実婚を含む)」回答者を、男女ごとに再分類。



(A) 世帯の収入を得る

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に夫」が最も多い。特に「片働き」では「主に夫」が女性で99.4%、男性で96.3%と、男女ともに全数に近い。一方「共働き」では「夫婦が同じくらい」が女性で26.6%、男性で30.4%と、男女ともに3割前後を占めている。【図表 2-3 参照】

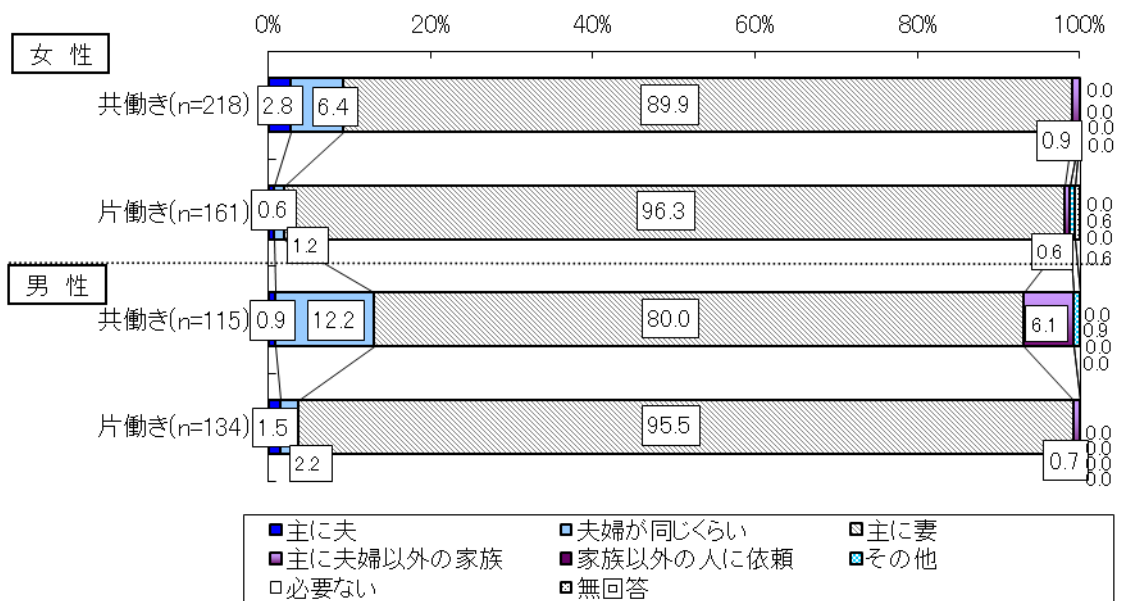
図表 2-3 家庭での役割分担(A)〈世帯の収入を得る〉(性別・夫婦の働き方別)



(B) 食事の用意

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多くなっている。特に「片働き」では「主に妻」（女性 96.3%、男性 95.5%）が男女ともに全数に近い。なお、男性については「共働き」で「夫婦が同じくらい」が12.2%である。 【図表 2-4 参照】

図表 2-4 家庭での役割分担(B)〈食事の用意〉(性別・夫婦の働き方別)

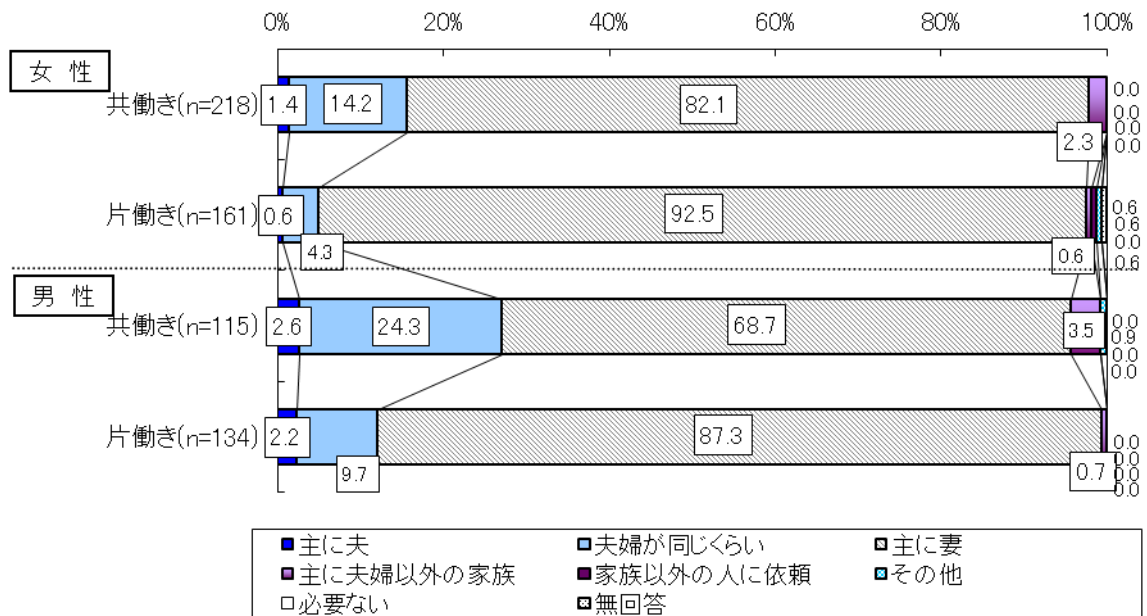


(C) 洗濯・掃除

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多い。特に「片働き」では「主に妻」（女性 92.5%、男性 87.3%）が男女ともに9割前後である。一方、「共働き」では「夫婦が同じくらい」が「片働き」（女性 4.3%、男性 9.7%）より高く、女性で14.2%、男性で24.3%である。

また、男女の「共働き」を比較すると、「夫婦が同じくらい」は女性より男性が約10ポイント高く、男女の意識に差がある。 【図表 2-5 参照】

図表 2-5 家庭での役割分担(C)〈洗濯・掃除〉(性別・夫婦の働き方別)

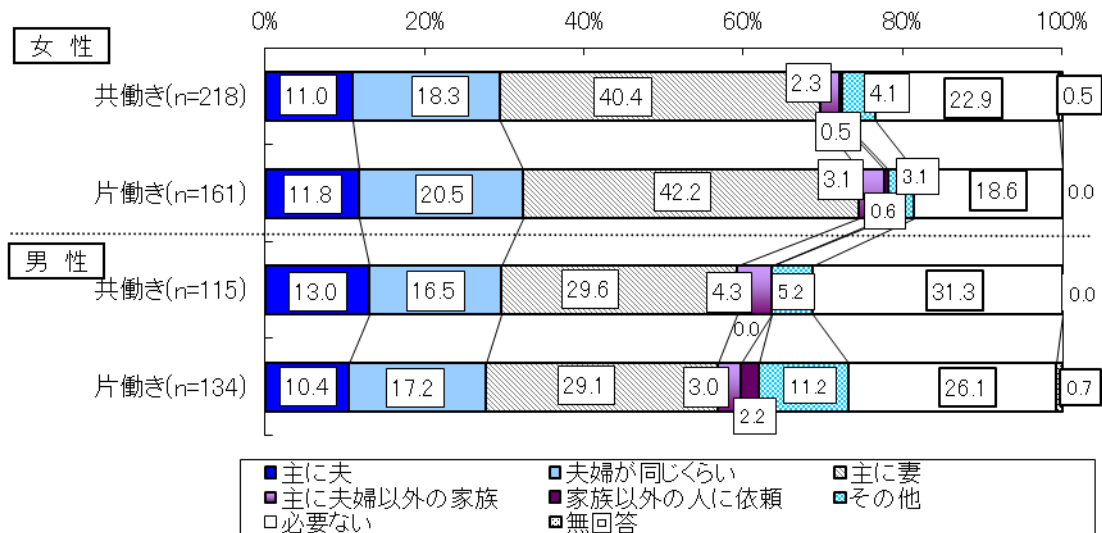


(D) 町内会など地域活動

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、夫婦の働き方にかかわらず、「必要ない」を除き、「主に妻」が最も多い。「主に妻」について、男女を比較すると、女性(共働き 40.4%、片働き 42.2%)の方が、男性(共働き 29.6%、片働き 29.1%)よりそれぞれ10ポイント以上高い。

また、「主に夫」、「夫婦が同じくらい」を合わせた、夫の参加あるものが3割前後で、家庭の仕事の中で高い割合であった。 【図表 2-6 参照】

図表 2-6 家庭での役割分担(D)〈町内会など地域活動〉(性別・夫婦の働き方別)

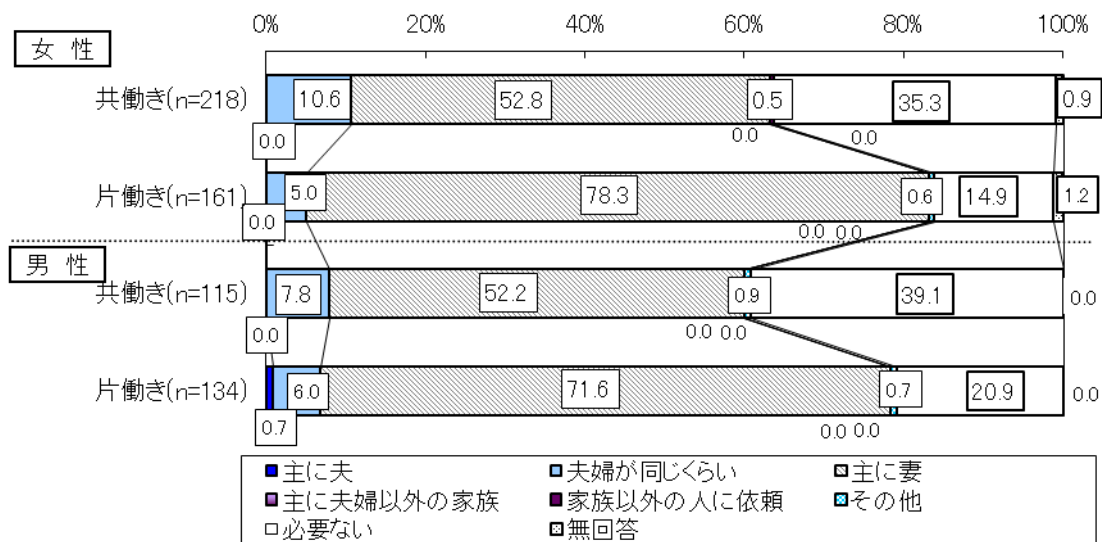


(E) 乳幼児の育児

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに、「主に妻」の割合は「片働き」(女性 78.3%、男性 71.6%) が「共働き」(女性 52.8%、男性 52.2%) を大きく上回っている。女性については、「共働き」で「夫婦が同じくらい」が 10.6%である。

【図表 2-7 参照】

図表 2-7 家庭での役割分担(E)〈乳幼児の育児〉(性別・夫婦の働き方別)



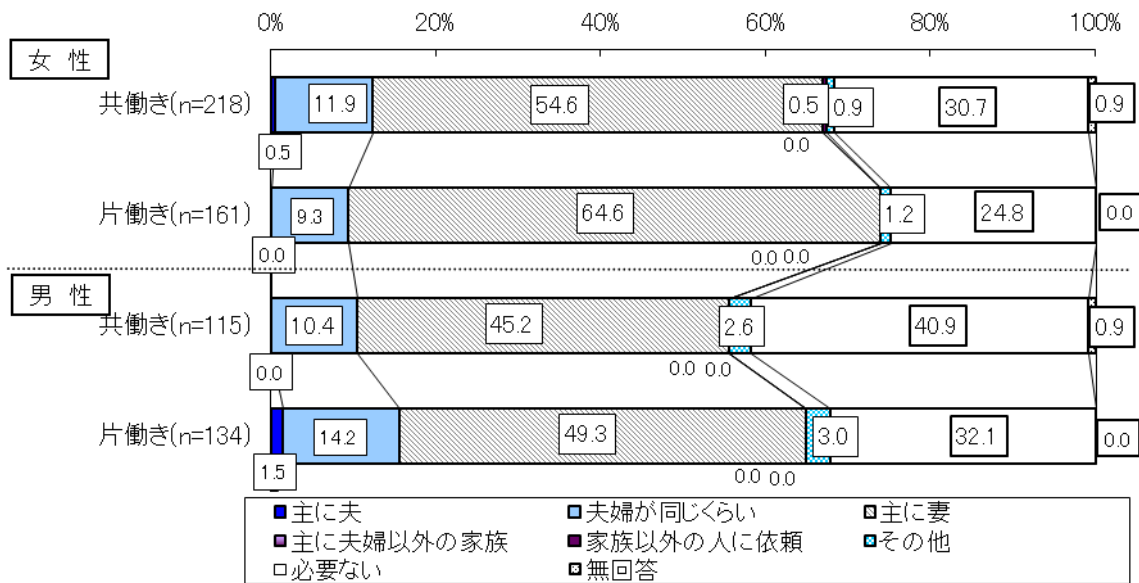
(F) 学校などの行事への参加

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「主に妻」が最も多い。女性については、「主に妻」の割合が、「共働き」(54.6%)より「片働き」(64.6%)で10ポイント高い。

また、「夫婦が同じくらい」は男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、1割前後で、性別や働き方による意識差が少ない。

【図表 2-8 参照】

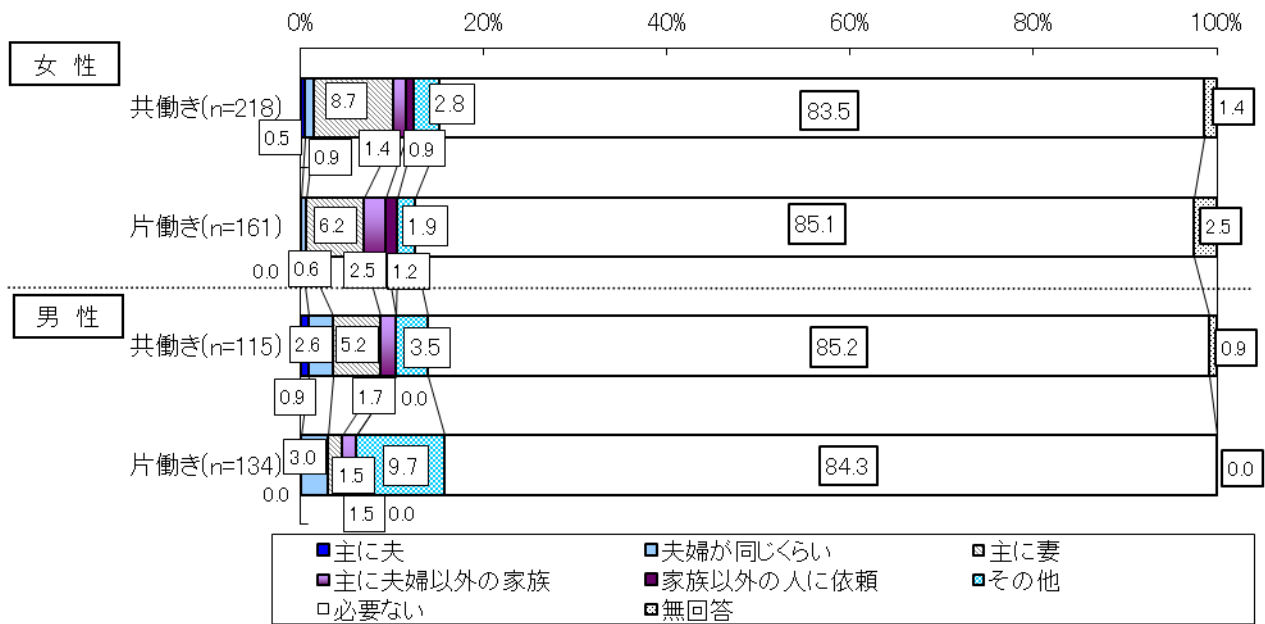
図表 2-8 家庭での役割分担(F)〈学校などの行事への参加〉(性別・夫婦の働き方別)



(G) 高齢者などの介護

男女それぞれを夫婦の働き方別にみると、男女ともに夫婦の働き方にかかわらず、「必要ない」が最も多く、8割以上である。女性の「共働き」「片働き」、男性の「共働き」では、「主に妻」(順に8.7%、6.2%、5.2%)が次いで多くなっている。男性の「片働き」では、「その他」が9.7%である。【図表 2-9 参照】

図表 2-9 家庭での役割分担(G)〈高齢者などの介護〉(性別・夫婦の働き方別)



## (2) 将来介護をする時の不安の有無

問9 <すべての方がお答えください。>

あなたは将来親などの介護をすることがあるかもしれないと、不安を感じますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

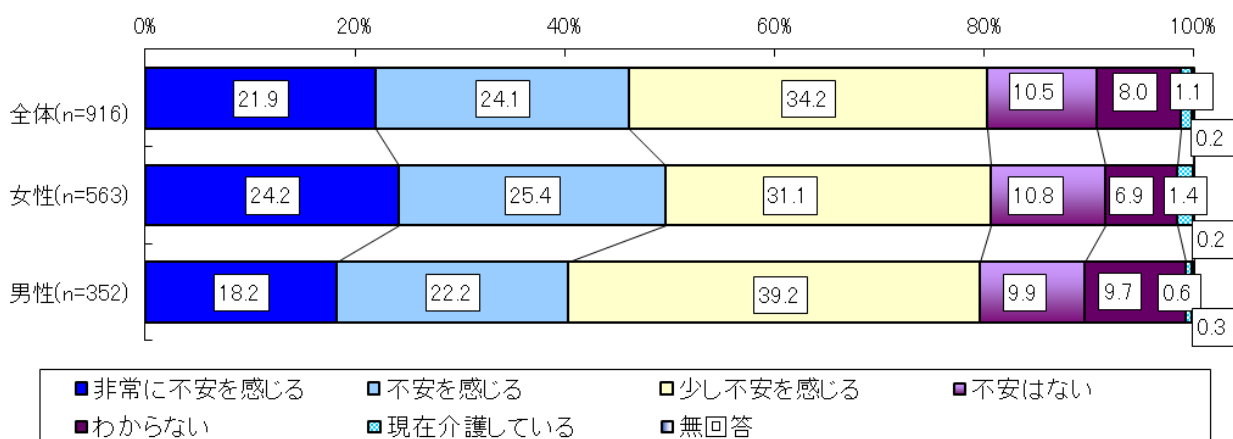
約8割が「将来親などの介護をすることがあるかもしれないと不安を感じる」と回答。

全体では、「非常に不安を感じる」が21.9%、「不安を感じる」が24.1%、「少し不安を感じる」が34.2%で、これらを合わせた“不安を感じる”は80.2%である。一方、「不安はない」が10.5%である。

性別にみると、女性では「非常に不安を感じる」の割合が24.2%、男性では18.2%でやや女性の方が高い。また、「少し不安を感じる」は女性（31.1%）より男性（39.2%）の方がやや高い。

【図表 2-10 参照】

図表 2-10 将来介護をする時の不安の有無(全体・性別)

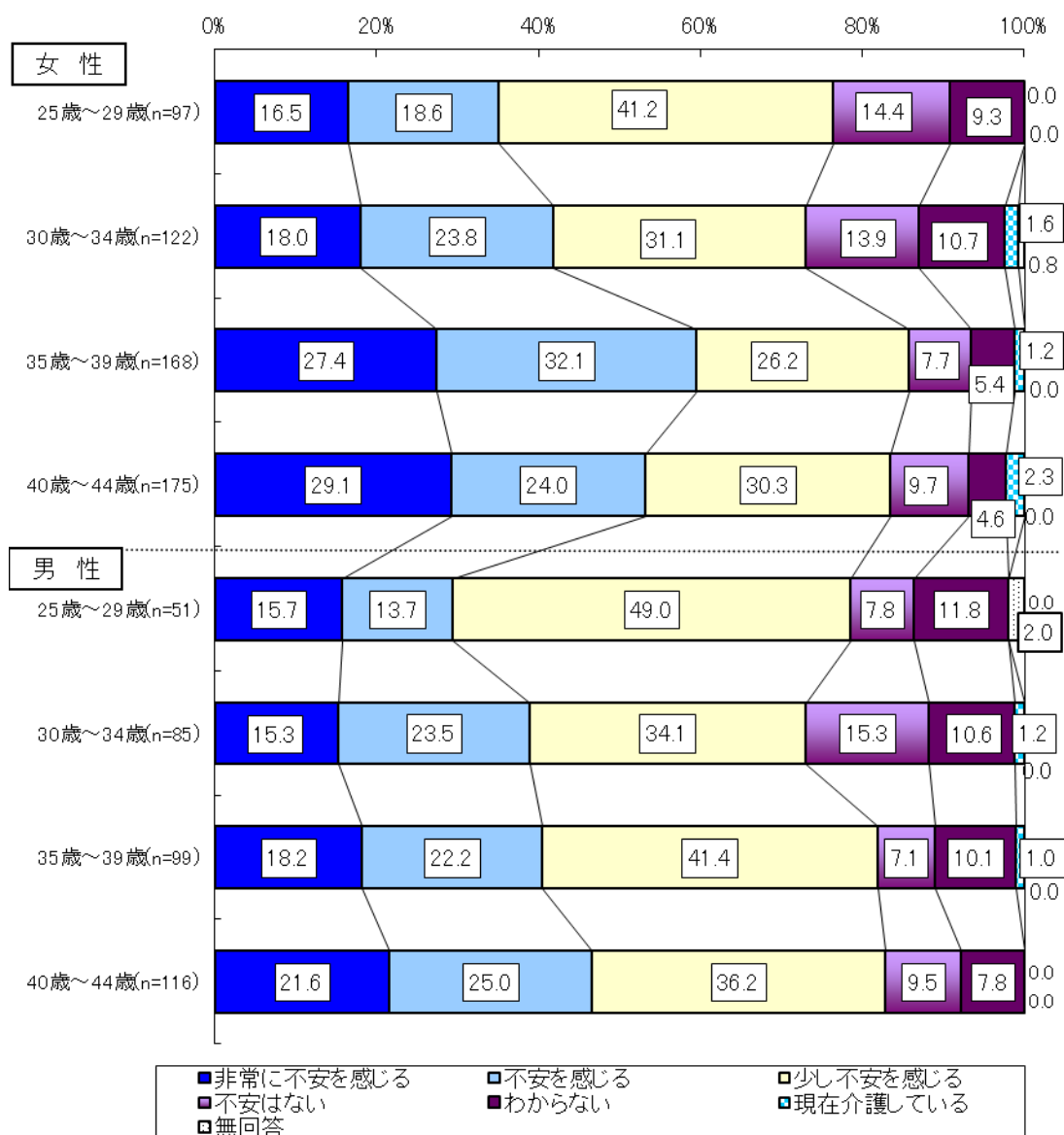




男女それぞれを年代別にみると、男女ともに年代が高くなるにつれて「非常に不安を感じる」の割合が高くなる傾向がみられ、40歳～44歳では女性で29.1%、男性で21.6%である。また、いずれの年代でも「非常に不安を感じる」の割合が男性より女性でやや高い。

【図表 2-11 参照】

図表 2-11 将来介護をする時の不安の有無(性別・年代別)



### (3) 介護の不安の内容

問10 <すべての方がお答えください。>

将来介護をするとした場合、不安や困難を感じることは何だと思えますか。もしくは現在介護をしている場合に、不安や困難を感じることは何ですか。あてはまる番号にすべて ○をつけてください。

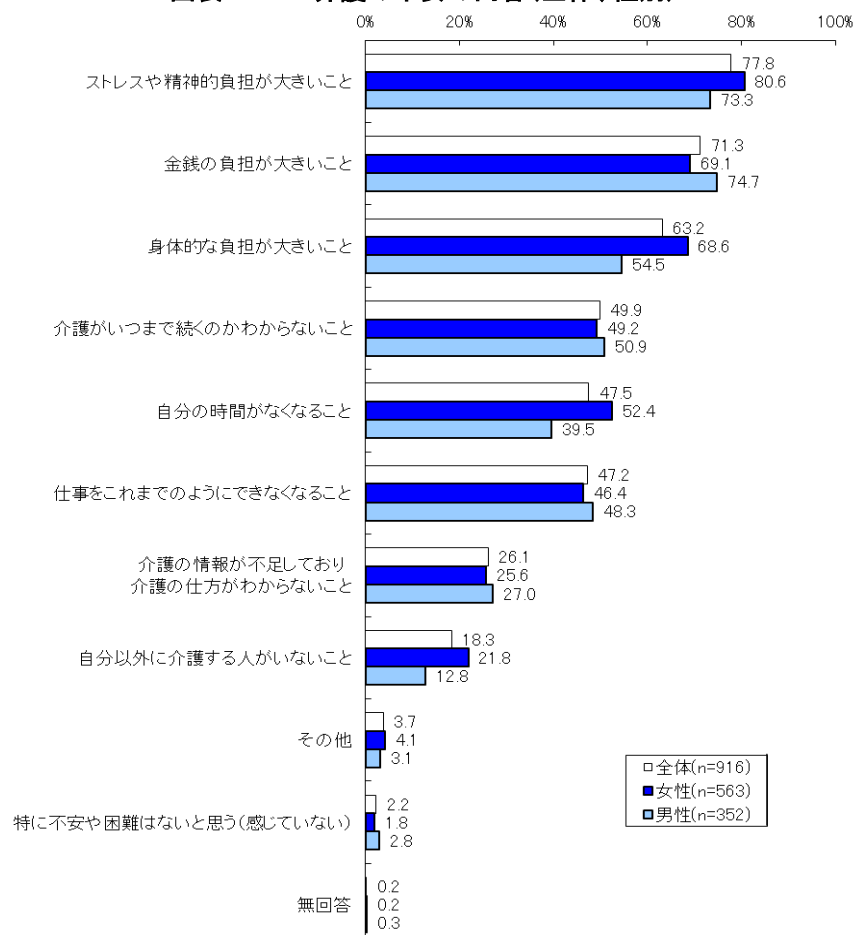
**「ストレスや精神的負担が大きいこと」が最も多く、8割弱。**

全体で見ると、「ストレスや精神的負担が大きいこと」(77.8%)が最も多い。続いて「金銭の負担が大きいこと」(71.3%)、「身体的な負担が大きいこと」(63.2%)、「介護がいつまで続くのかわからないこと」(49.9%)である。

性別にみると、男女ともに「ストレスや精神的負担が大きいこと」(女性 80.6%、男性 73.3%)、「金銭の負担が大きいこと」(女性 69.1%、男性 74.7%)、「身体的な負担が大きいこと」(女性 68.6%、男性 54.5%)が5割以上である。

男女間で差がみられたものは、「身体的な負担が大きいこと」(女性 68.6%、男性 54.5%)、「自分の時間がなくなること」(女性 52.4%、男性 39.5%)で、いずれも女性の方が男性を10ポイント以上上回り、男女の意識差が大きい。【図表 2-12 参照】

図表 2-12 介護の不安の内容(全体、性別)



男女それぞれを結婚の有無・職業別にみると、女性については「専業主婦」と「既婚有業」では「ストレスや精神的負担が大きいこと」（順に 87.2%、81.3%）が、「独身有業」では「金銭の負担が大きいこと」（75.8%）が、最も多い。男性についても「既婚有業」では「ストレスや精神的負担が大きいこと」（75.2%）が、「独身有業」では「金銭の負担が大きいこと」（75.3%）が、最も多い。性別に関わりなく、既婚者は精神的な負担、未婚者は金銭的な負担を感じていることが表れている。

また、男女の「既婚有業」を比較すると、「身体的な負担が大きいこと」（女性 70.7%、男性 57.2%）、「自分の時間がなくなること」（女性 58.7%、男性 36.8%）、「仕事をこれまでのようにできなくなること」（女性 58.2%、男性 47.6%）、「自分以外に介護する人がいないこと」（女性 20.0%、男性 9.6%）では、女性が男性を 10 ポイント以上上回る。

【図表 2-13 参照】

図表 2-13 介護の不安の内容(性別・結婚の有無・職業別)

合計(n=877)		こと ストレス や精神的 負担が大きい	金銭 の負担が 大きいこと	身体的 な負担が 大きいこと	介護が いつまで 続くの かわから ないこと	自分の 時間が なくなる こと	仕事を これまで のよ うに できな く なる こと	介護の 仕方が わから ない こと	自分 以外に 介護 する 人が いない こと	その他	特に 不安 や困 難は ない と思 う (感 じて いな い)	無 回 答
女性	専業主婦(n=164)	87.2	62.8	73.2	50.0	46.3	9.1	23.8	18.3	4.3	1.8	0.0
	独身有業(n=153)	72.5	75.8	61.4	41.2	52.9	68.0	26.1	28.1	2.6	2.0	0.0
	既婚有業(n=225)	81.3	68.9	70.7	54.7	58.7	58.2	27.1	20.0	4.9	1.8	0.4
男性	独身有業(n=85)	67.1	75.3	50.6	51.8	48.2	52.9	30.6	17.6	2.4	0.0	1.2
	既婚有業(n=250)	75.2	74.4	57.2	50.8	36.8	47.6	26.0	9.6	3.6	3.6	0.0

### 3. 仕事と家庭の両立のために今後取り組むべき内容

#### (1) 性別役割分担意識について

問 1 1 <すべての方がお答えください。>

あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

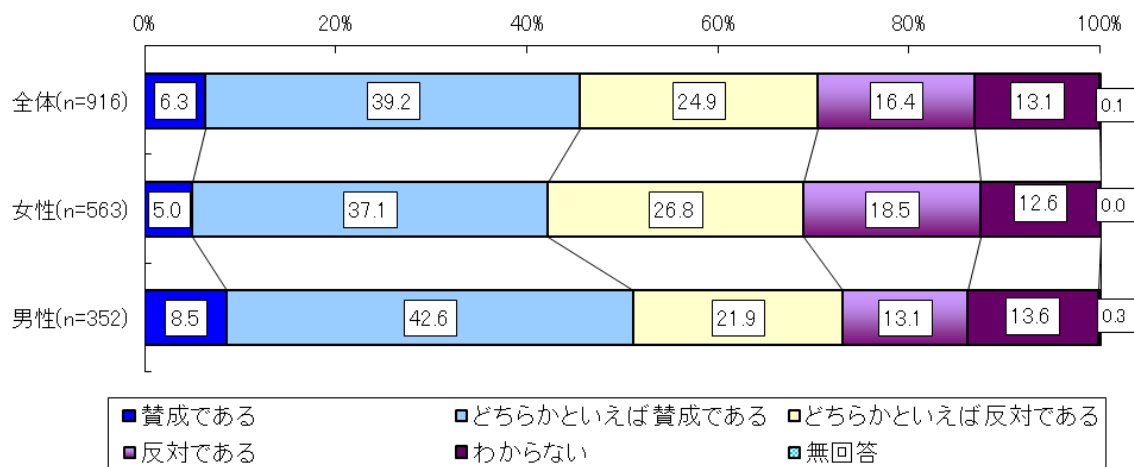
「賛成である」が4割半、「反対である」が4割強で、大きな差はみられない。

全体では、「賛成である」が6.3%、「どちらかといえば賛成である」が39.2%で、両者を合わせた“賛成である”は45.5%である。一方、「どちらかといえば反対である」は24.9%、「反対である」は16.4%で、両者を合わせた“反対である”は41.3%である。

性別にみると、“賛成である”は男性（51.1%）が半数を超えており、女性（42.1%）を上回る。

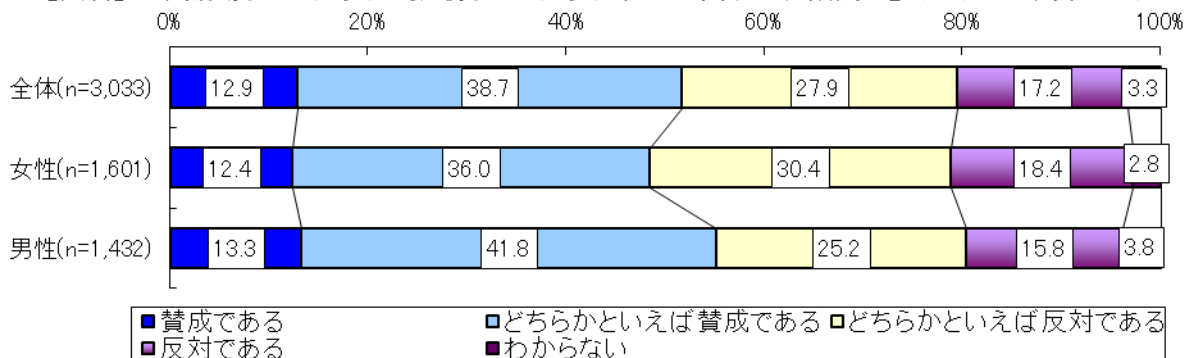
【図表 3-1 参照】

図表 3-1 性別役割分担について(全体・性別)



内閣府（男女共同参画局）が行った『男女共同参画社会に関する世論調査』（平成 24 年度）と比較すると、全体、女性では、「賛成である」（本調査：全体 6.3%、女性 5.0%、内閣府調査：全体 12.9%、女性 12.4%）は本調査の方がやや低い。【図表（資料）参照】

【資料】内閣府（男女共同参画局）『男女共同参画社会に関する世論調査』（平成 24 年度）より



## (2) 各分野の男女の地位

問12 <すべての方がお答えください。>

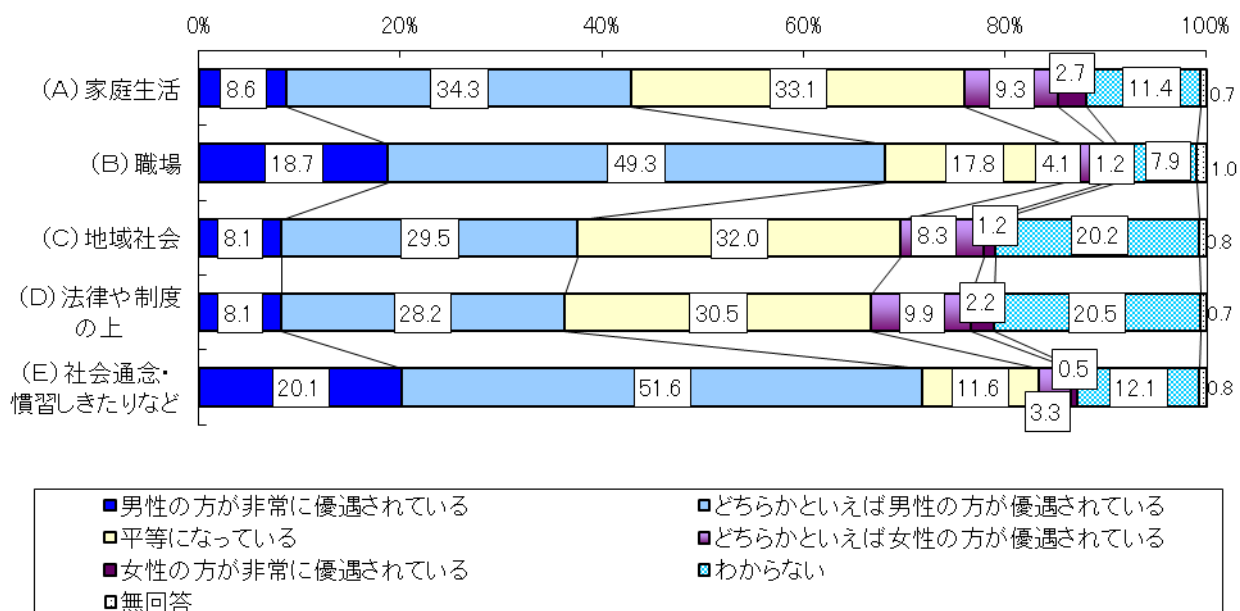
あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(A)～(E)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

5つの分野全てで、“男性の方が優遇されている”の割合が“女性の方が優遇されている”より高い。特に「社会通念・慣習・しきたりなど」や「職場」では、“男性の方が優遇されている”が7割前後。

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」(71.7%)、「職場」(68.0%)の分野で高く、それぞれ7割前後である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合は、「法律や制度の上」(12.1%)、「家庭生活」(12.0%)の順であり、1割程度である。

【図表 3-2 参照】

図表 3-2 各分野の男女の地位



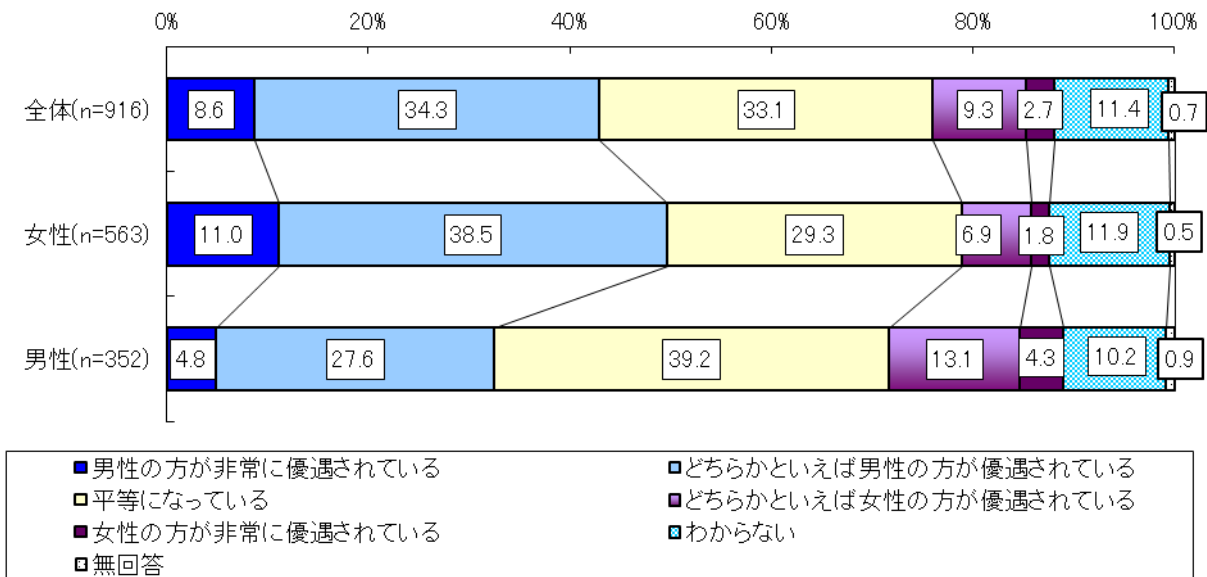
(A) 家庭生活で

全体の4割強、女性の約5割、男性の3割強が家庭で「男性の方が優遇されている」と回答。  
(家庭生活)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が8.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.3%で、両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が42.9%である。また、「平等になっている」は33.1%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.3%、「女性の方が非常に優遇されている」が2.7%で、両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は12.0%である。

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.5%で最も多いが、男性では「平等になっている」が39.2%で最も多い。また“男性の方が優遇されている”の割合は、女性では49.6%、男性では32.4%で、女性の方が男性を約17ポイント上回っている。  
【図表3-3 参照】

図表 3-3 各分野の男女の地位(A)〈家庭生活で〉(全体、性別)



(B) 職場で

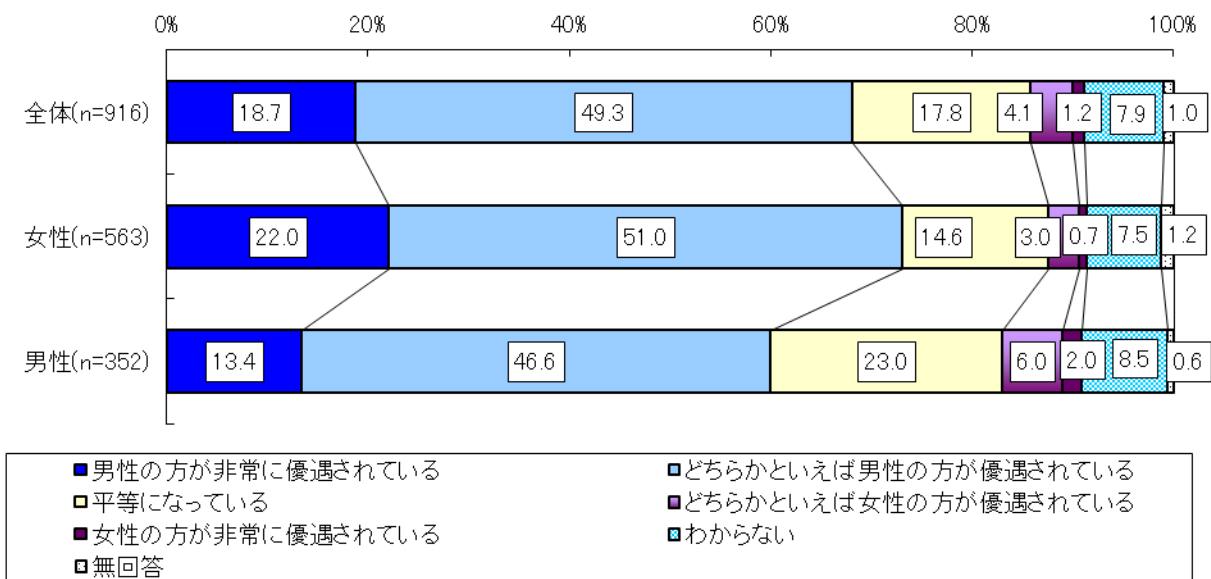
全体の7割弱、女性の7割以上、男性の約6割が職場で「男性の方が優遇されている」と回答。(職場)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が18.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.3%で、両者を合わせた“男性の方が優遇されている”は68.0%である。また、「平等になっている」は17.8%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が4.1%、「女性の方が非常に優遇されている」が1.2%で、両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は5.3%である。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(女性51.0%、男性46.6%)が最も多い。また“男性の方が優遇されている”の割合は女性で73.0%、男性では59.9%で、女性の方が男性を13ポイント上回っている。

【図表 3-4 参照】

図表 3-4 各分野の男女の地位(B)〈職場で〉(全体、性別)



(C) 地域社会で

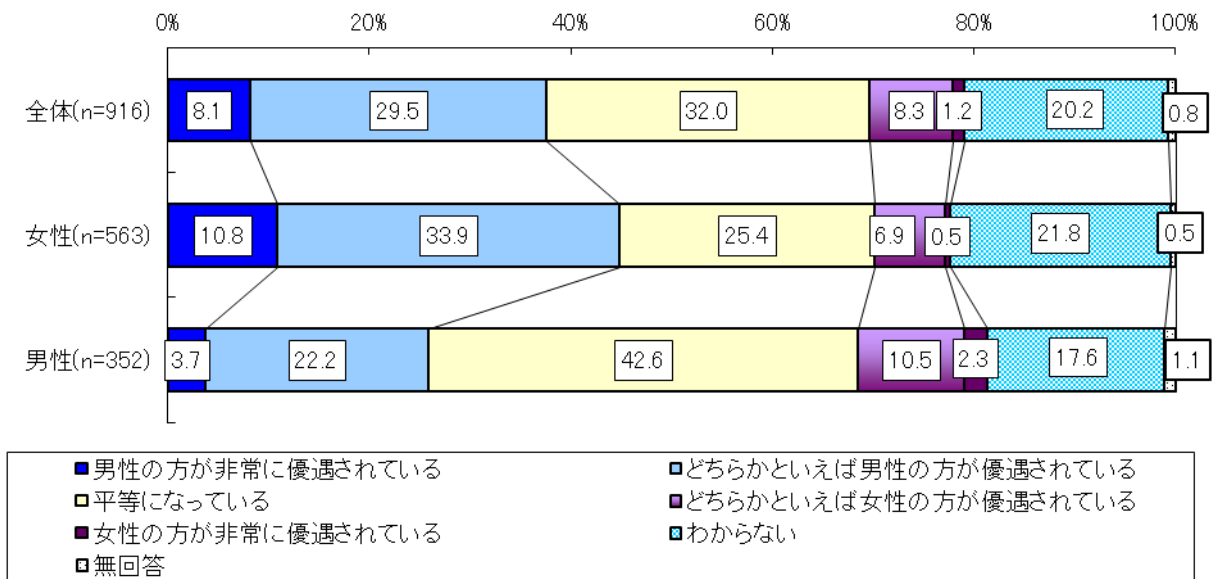
全体の4割弱、女性の4割半、男性の2割半が地域社会で「男性の方が優遇されている」と回答。(地域社会)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が8.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.5%で、両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が37.6%である。また、「平等になっている」は32.0%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.3%、「女性の方が非常に優遇されている」が1.2%で、両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は9.5%である。

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が33.9%で最も多いが、男性では「平等になっている」が42.6%で最も多い。“男性の方が優遇されている”の割合は、女性では44.8%、男性では25.9%で、女性の方が男性を約19ポイント上回っている。

【図表 3-5 参照】

図表 3-5 各分野の男女の地位(C)〈地域社会で〉(全体、性別)





(D) 法律や制度の上で

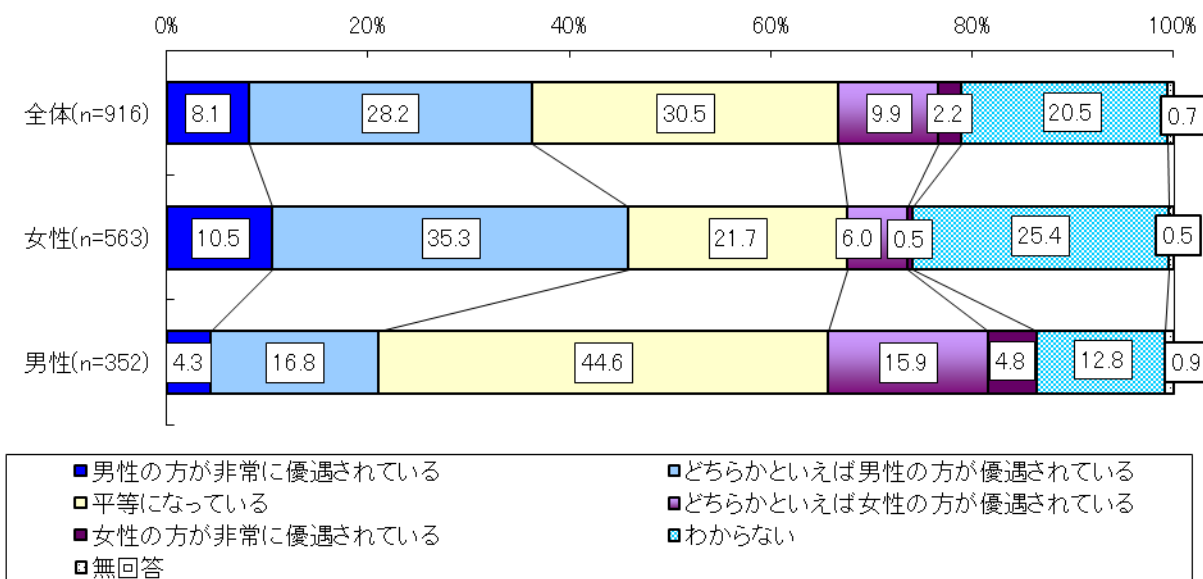
全体の4割弱、女性の4割半、男性の約2割が法律や制度の上で「男性の方が優遇されている」と回答。(法律や制度)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が8.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.2%で、両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が36.2%である。また、「平等になっている」は30.5%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.9%、「女性の方が非常に優遇されている」が2.2%で、両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は12.1%である。

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が35.3%で最も多いが、男性では「平等になっている」が44.6%で最も多い。女性では“男性の方が優遇されている”の割合は45.8%、男性では21.0%で、女性の方が男性を約25ポイント上回っている。

【図表 3-6 参照】

図表 3-6 各分野の男女の地位(D)〈法律や制度の上で〉(全体、性別)



(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで

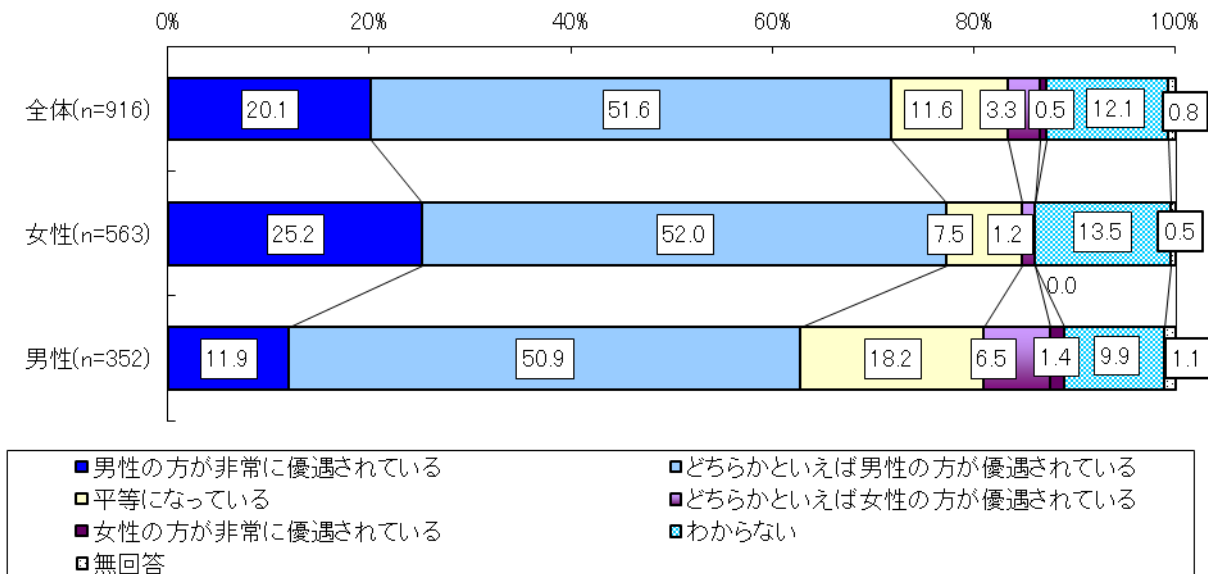
全体の7割以上、女性の8割近く、男性の6割以上が社会通念・慣習・しきたりなどで「男性の方が優遇されている」と回答。(社会通念・慣習・しきたりなど)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が20.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.6%で、両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が71.7%である。また、「平等になっている」は11.6%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が3.3%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.5%で、両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は3.8%である。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(女性52.0%、男性50.9%)が最も多い。“男性の方が優遇されている”の割合は、女性では77.3%、男性では62.8%で、女性の方が男性を約15ポイント上回っている。

【図表3-7 参照】

図表 3-7 各分野の男女の地位(E)〈社会通念・慣習・しきたりなどで〉(全体、性別)



### (3) ワークライフバランスのために取り組むべき内容

問13 <すべての方がお答えください。>

あなたは、仕事と生活を調和できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

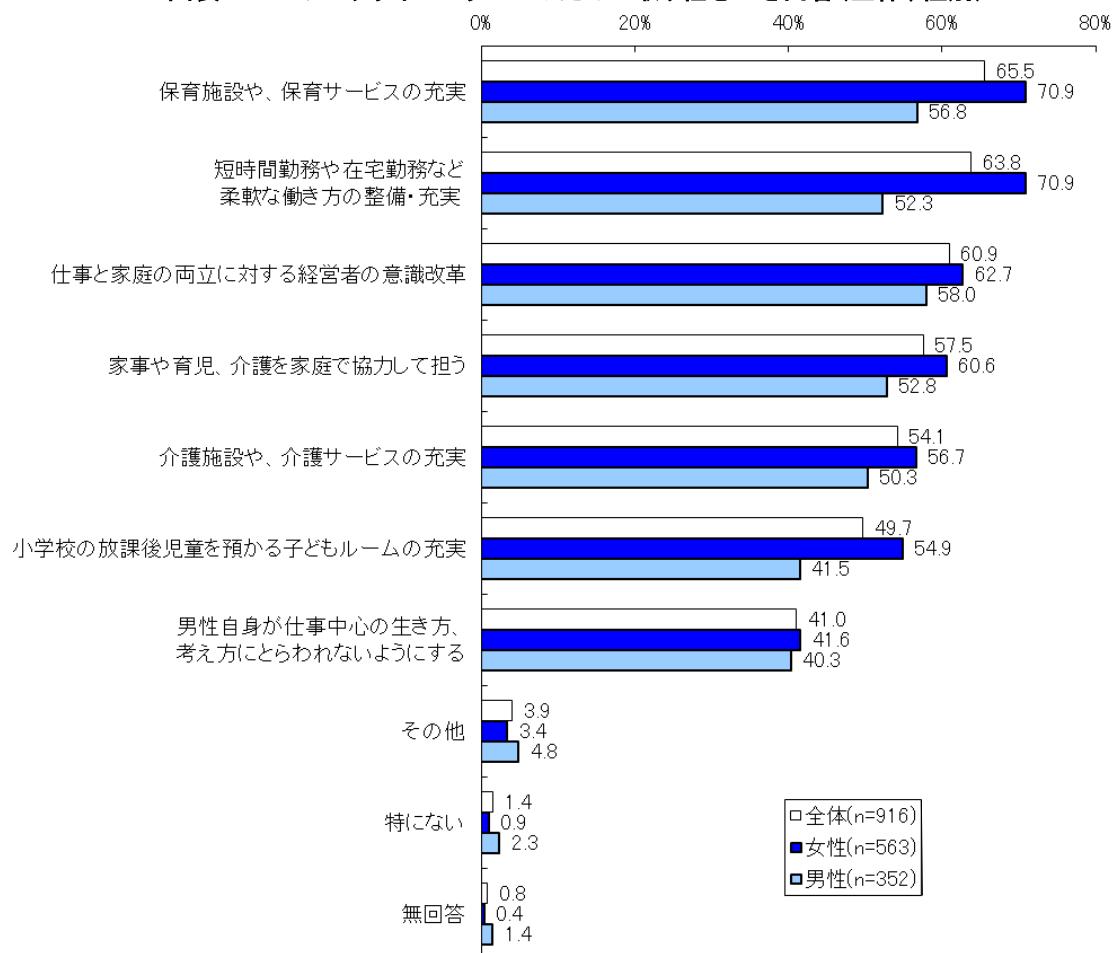
「保育施設や、保育サービスの充実」が最も多い。「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」「仕事と家庭の両立に対する経営者の意識改革」が続く。

全体では、「保育施設や、保育サービスの充実」が最も多く 65.5%、次いで「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」が 63.8%、「仕事と家庭の両立に対する経営者の意識改革」が 60.9%、「家事や育児、介護を家庭で協力して担う」が 57.5%、「介護施設や、介護サービスの充実」が 54.1%と続いている。

性別にみると、すべての項目で女性の割合が男性を上回っているが、男女間の差が10ポイント以上あるのは、「保育施設や、保育サービスの充実」(女性 70.9%、男性 56.8%)、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方の整備・充実」(女性 70.9%、男性 52.3%)、「小学校の放課後児童を預かる子どもルームの充実」(女性 54.9%、男性 41.5%)である。

【図表 3-8 参照】

図表 3-8 ワークライフバランスのために取り組むべき内容(全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、女性については、25歳～29歳、40歳～44歳では「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」が、30歳～34歳、35歳～39歳では、「保育施設や、保育サービスの充実」が最も多い。男性については、25歳～29歳、30歳～34歳、40歳～44歳では「仕事と家庭の両立に対する経営者の意識改革」が、35歳～39歳、40歳～44歳では「保育施設や、保育サービスの充実」が最も多い。なお、40歳～44歳では「介護施設や、介護サービスの充実」も同率で最も多い。

また、女性については、30歳代では「小学校の放課後児童を預かる子どもルームの充実」、40歳代では「介護施設や、介護サービスの充実」が、他の年代より割合が高く、年代により求められる内容が異なっている。

【図表 3-9 参照】

図表 3-9 ワークライフバランスのために取り組むべき内容(性別・年代別)

合計(n=913)		実保育施設や、保育サービスの充実	柔軟な時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実	仕事と家庭の両立に対する経営者の意識改革	家事や育児、介護を家庭で協力して担う	介護施設や、介護サービスの充実	小学校の放課後児童を預かる子どもルームの充実	男性自身から仕事中心の生き方、考え方に変われないようにする	その他	特になし	無回答
女性	25～29歳(n=97)	73.2	79.4	69.1	60.8	49.5	44.3	41.2	0.0	1.0	0.0
	30～34歳(n=122)	77.9	73.0	67.2	62.3	53.3	57.4	35.2	4.9	0.8	0.8
	35～39歳(n=168)	72.0	70.8	62.5	60.7	56.5	60.1	44.6	3.6	1.2	0.6
	40～44歳(n=175)	63.4	64.6	56.0	58.9	62.9	53.7	42.9	4.0	0.6	0.0
男性	25～29歳(n=51)	58.8	56.9	68.6	66.7	47.1	35.3	33.3	3.9	0.0	2.0
	30～34歳(n=85)	51.8	56.5	60.0	52.9	42.4	45.9	36.5	5.9	2.4	2.4
	35～39歳(n=99)	65.7	52.5	57.6	55.6	56.6	43.4	46.5	5.1	3.0	0.0
	40～44歳(n=116)	51.7	46.6	51.7	44.8	51.7	38.8	41.4	4.3	2.6	1.7

## 4. 仕事・家庭・自分の時間の満足度

### (1) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度

F7 <すべての方がお答えください。>

あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。(A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

#### (A) 仕事の満足度

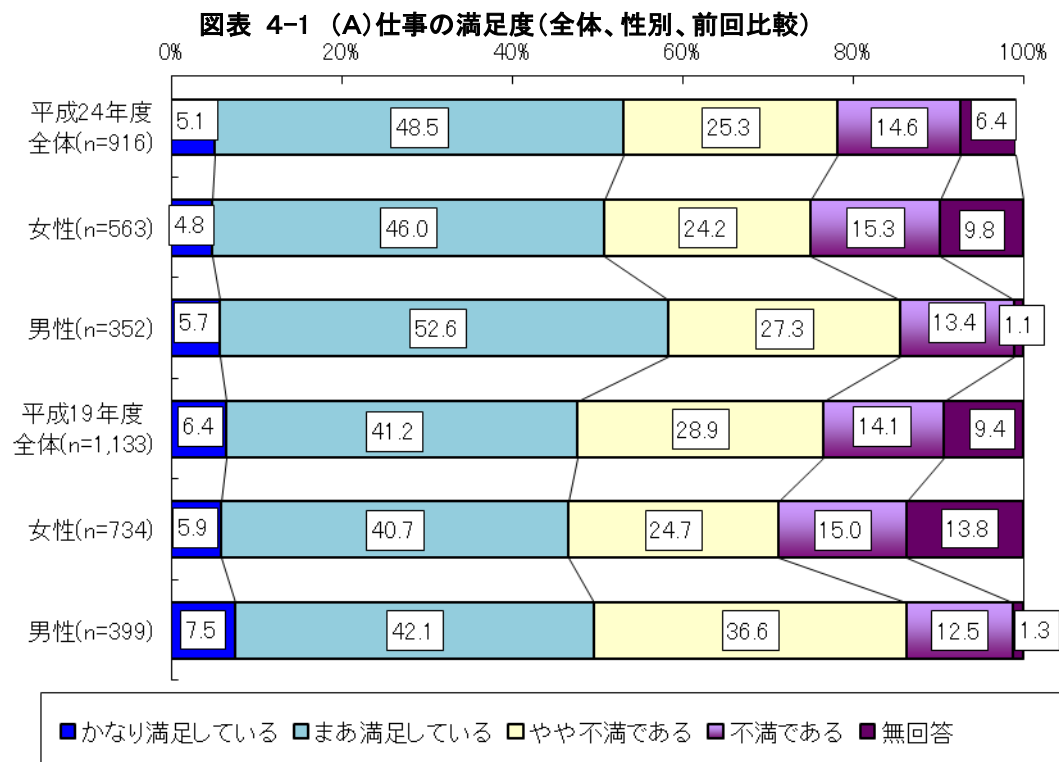
男女ともに仕事に“満足している”人は半数以上。(仕事の満足度)

全体では、「かなり満足している」が5.1%、「まあ満足している」が48.5%で、両者を合わせた“満足している”は53.6%である。一方、「やや不満である」は25.3%、「不満である」は14.6%で、両者を合わせた“不満である”は40.0%である。

性別にみると、男女ともに“不満である”(女性39.4%、男性40.6%)は約4割だが、“満足している”は女性では50.8%、男性では58.2%と、男性の方が女性よりもやや高い。

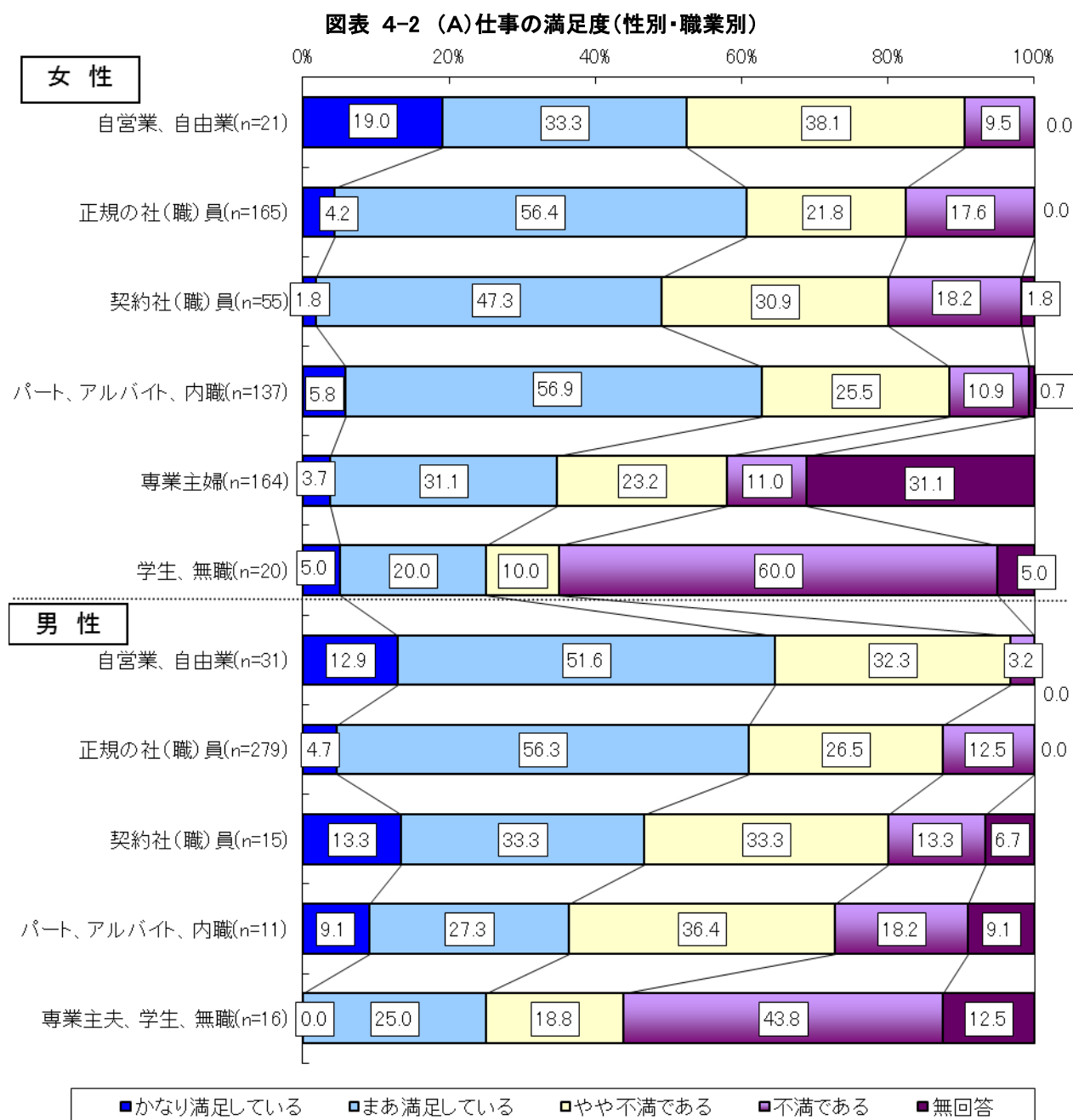
前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも「まあ満足している」が増加している。

【図表 4-1 参照】



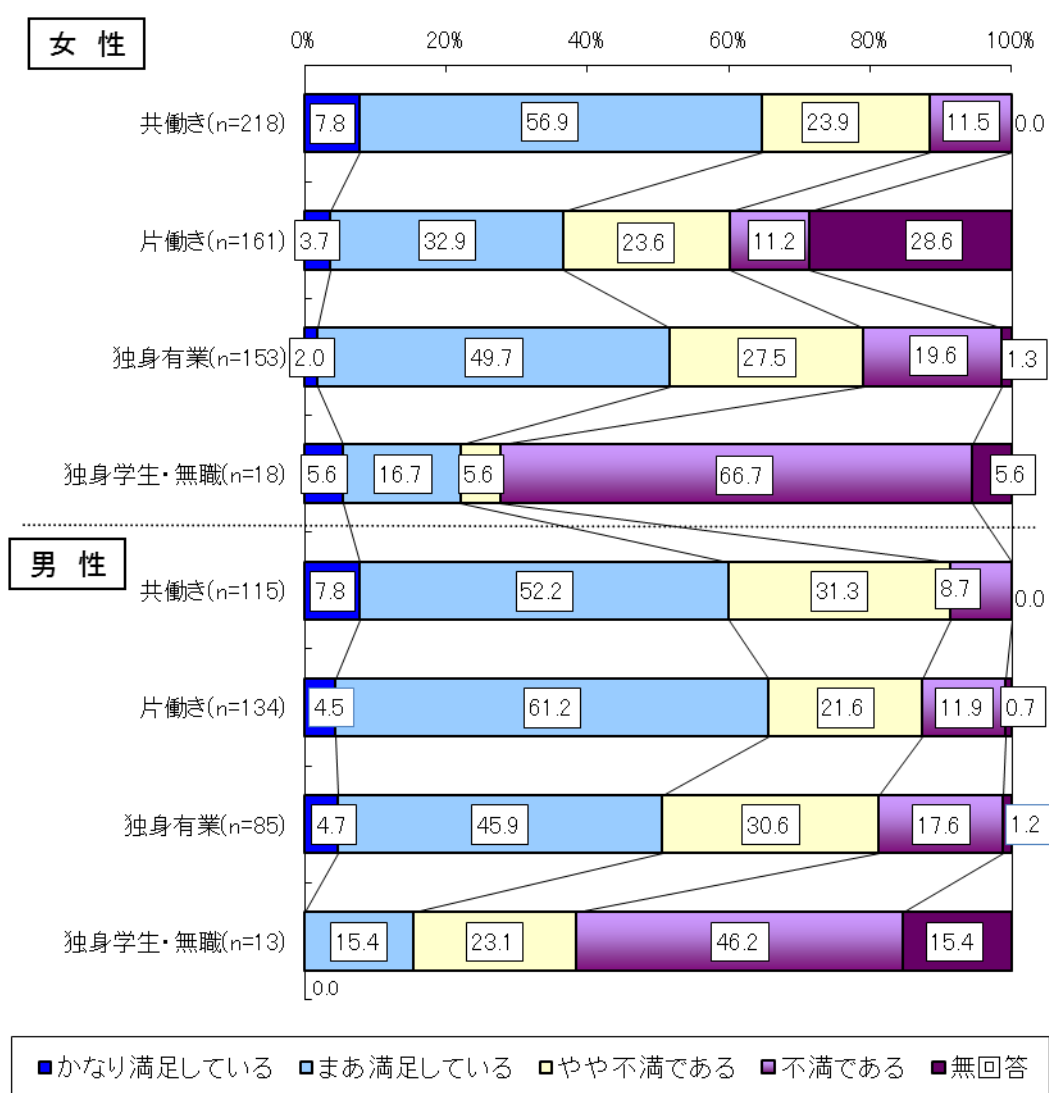
男女それぞれを職業別にみると、“満足している”が多いのは、男女ともに「正規の社（職）員」（女性 60.6%、男性 60.9%）、女性の「パート、アルバイト、内職」（62.8%）、該当数は少ないが、男性の「自営業、自由業」（64.5%）であり、6割を超えている。なお、女性の「専業主婦」では、仕事の満足度は家事についての回答と考えられ、留意が必要である。

【図表 4-2 参照】



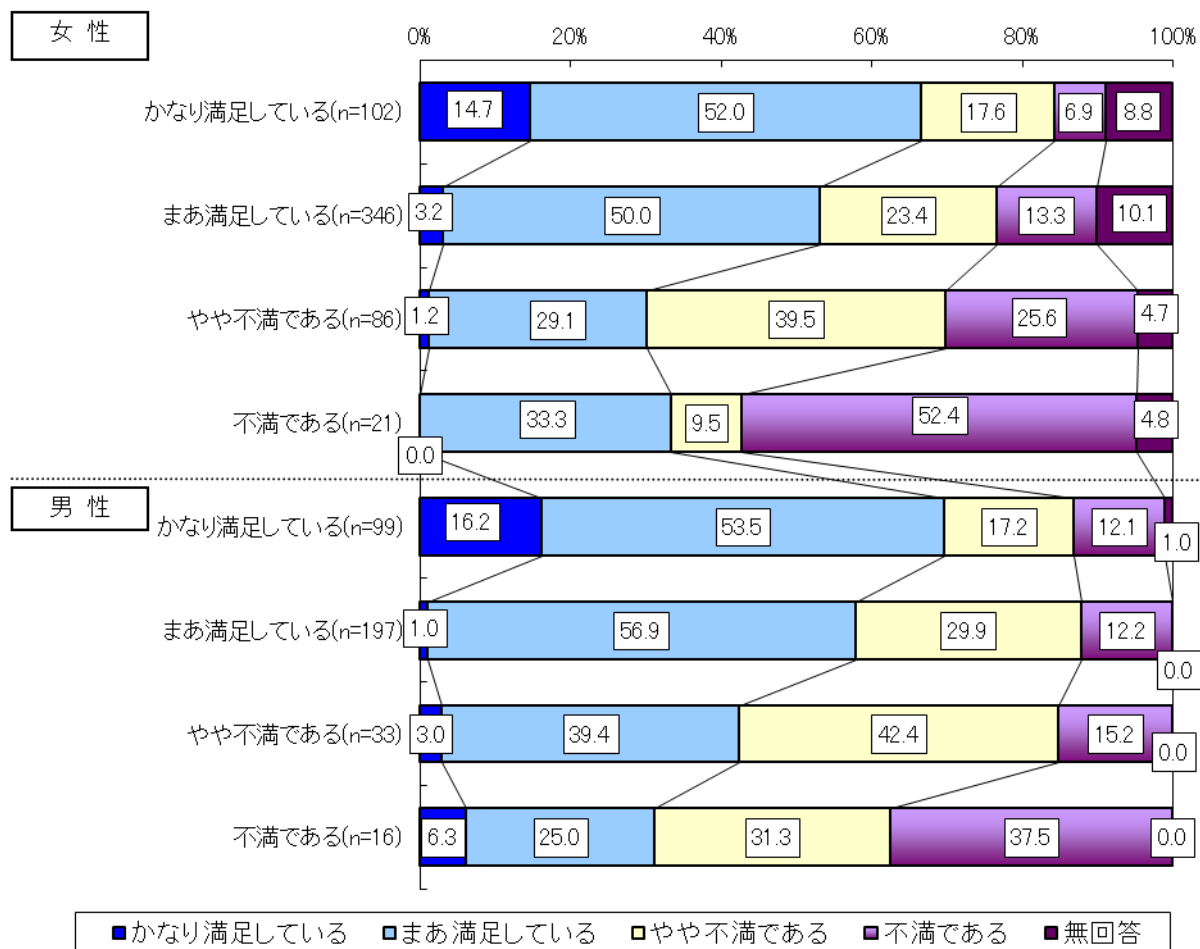
男女それぞれを結婚の有無・職業・夫婦の働き方別にみると、女性の「共働き」、男性の「共働き」、男性の「片働き」では“満足している”（順に 64.7%、60.0%、65.7%）が 6 割以上を占めている。一方、男女ともに「独身有業」では“満足している”（女性 51.6%、男性 50.6%）はやや少なく、約 5 割である。なお、女性の「片働き」は、ほとんどが専業主婦の回答であり、仕事の満足度は家事についての回答と考えられ、留意が必要である。 【図表 4-3 参照】

図表 4-3 (A) 仕事の満足度(性別・結婚の有無・職業・夫婦の働き方別)



家庭の満足度の回答別（P.62 参照）にみると、男女ともに、家庭の満足度が高い人ほど、仕事の満足度が高い傾向がみられ、家庭に「かなり満足している」人では、仕事に“満足している”は女性で 66.7%、男性で 69.7%に達している。 【図表 4-4 参照】

図表 4-4 (A) 仕事の満足度(性別・<家庭の満足度>)の回答別





## (B) 家庭の満足度

男女ともに8割前後が家庭に“満足している”と回答。(家庭の満足度)

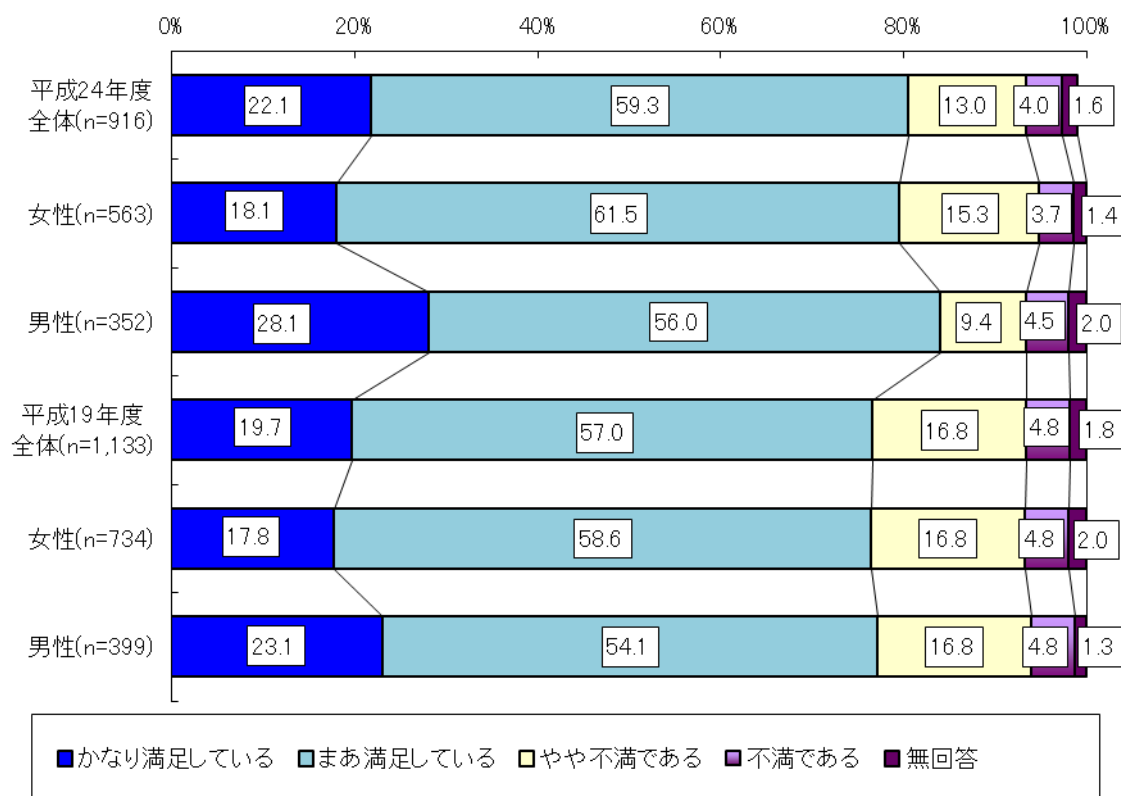
全体では、「かなり満足している」が22.1%、「まあ満足している」が59.3%で、両者を合わせた“満足している”は81.3%である。一方、「やや不満である」(13.0%)と「不満である」(4.0%)を合わせた“不満である”は、17.0%である。

性別にみると、男女ともに「まあ満足している」(女性61.5%、男性56.0%)が最も多い。「かなり満足している」は女性(18.1%)より男性(28.1%)で10ポイント高い。

前回調査と比較すると、男性では「かなり満足している」がやや増加している。

【図表 4-5 参照】

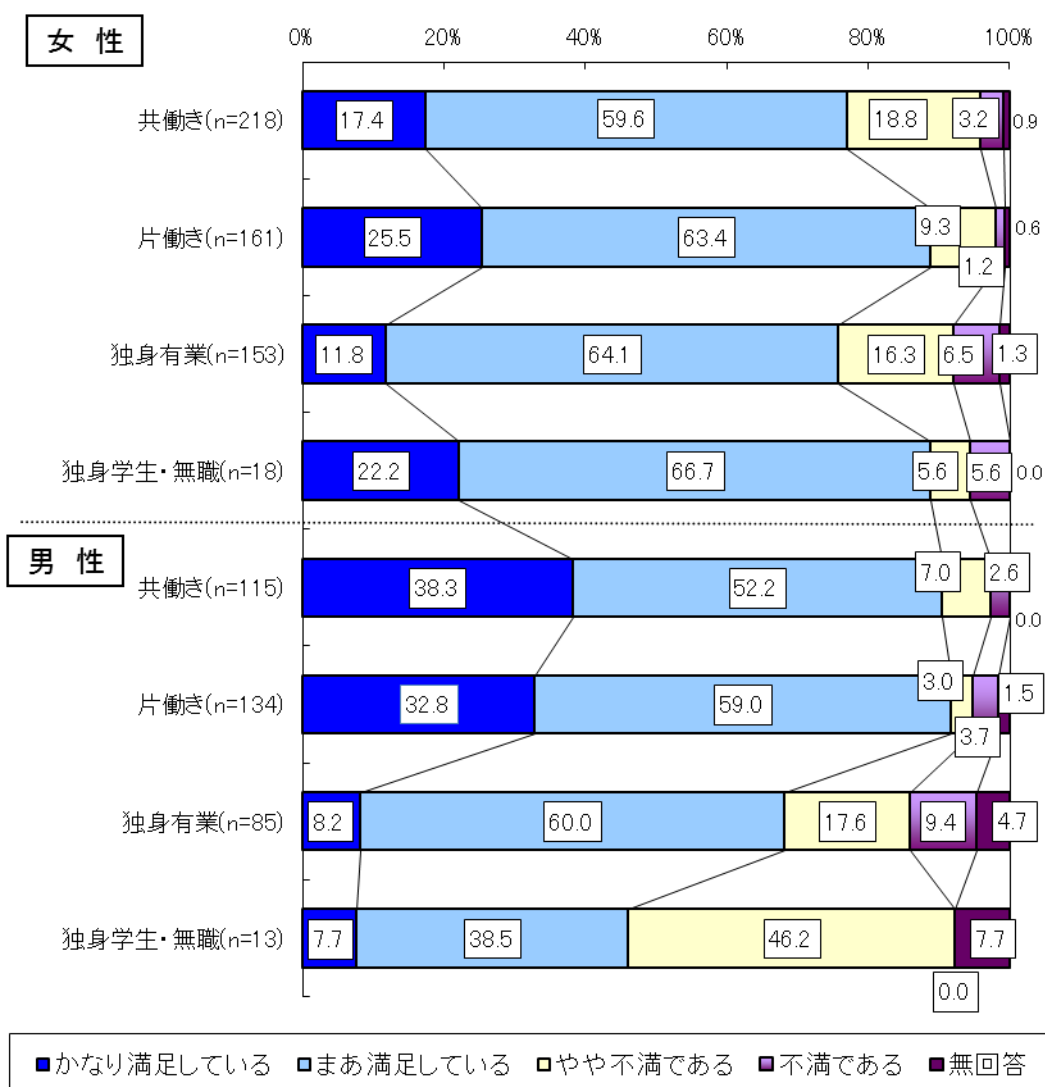
図表 4-5 (B)家庭の満足度(全体、性別、前回比較)



男女それぞれを結婚の有無・職業・夫婦の働き方別にみると、女性については、「片働き」で“満足している”が 88.8%を占め、「共働き」(77.1%)、「独身有業」(75.8%)より 10 ポイント以上高い。男性については、「共働き」、「片働き」で“満足している”(順に 90.4%、91.8%)が 9 割を超え、「独身有業」(68.2%)より 20 ポイント以上高い。「共働き」では「かなり満足している」が 38.3%で、片働き(32.8%)よりやや高い。

また、男女の「共働き」を比較すると、“不満である”は女性(22.0%)が男性(9.6%)より約 12 ポイント高い。【図表 4-6 参照】

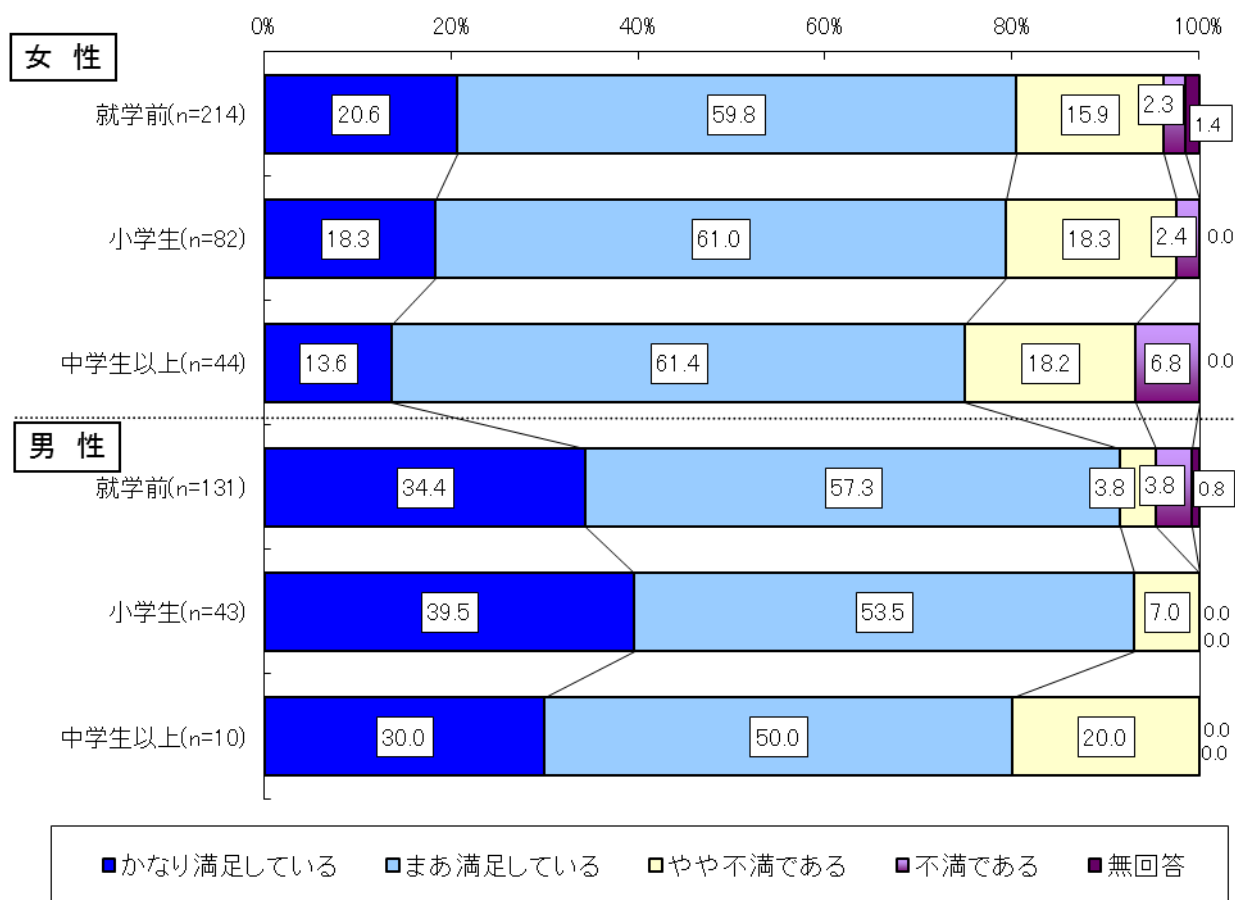
図表 4-6 (B) 家庭の満足度(性別・結婚の有無・職業・夫婦の働き方別)



男女それぞれを最年少の子どもの成長段階別にみると、いずれの成長段階でも“満足している”は、女性より男性で高い。女性については、子どもの成長段階が低いほど、家庭の満足度が高い傾向が表れている。男性については、“満足している”は、「就学前」(91.6%)、該当数は少ないが「小学生」(93.0%)で多く、9割以上である。

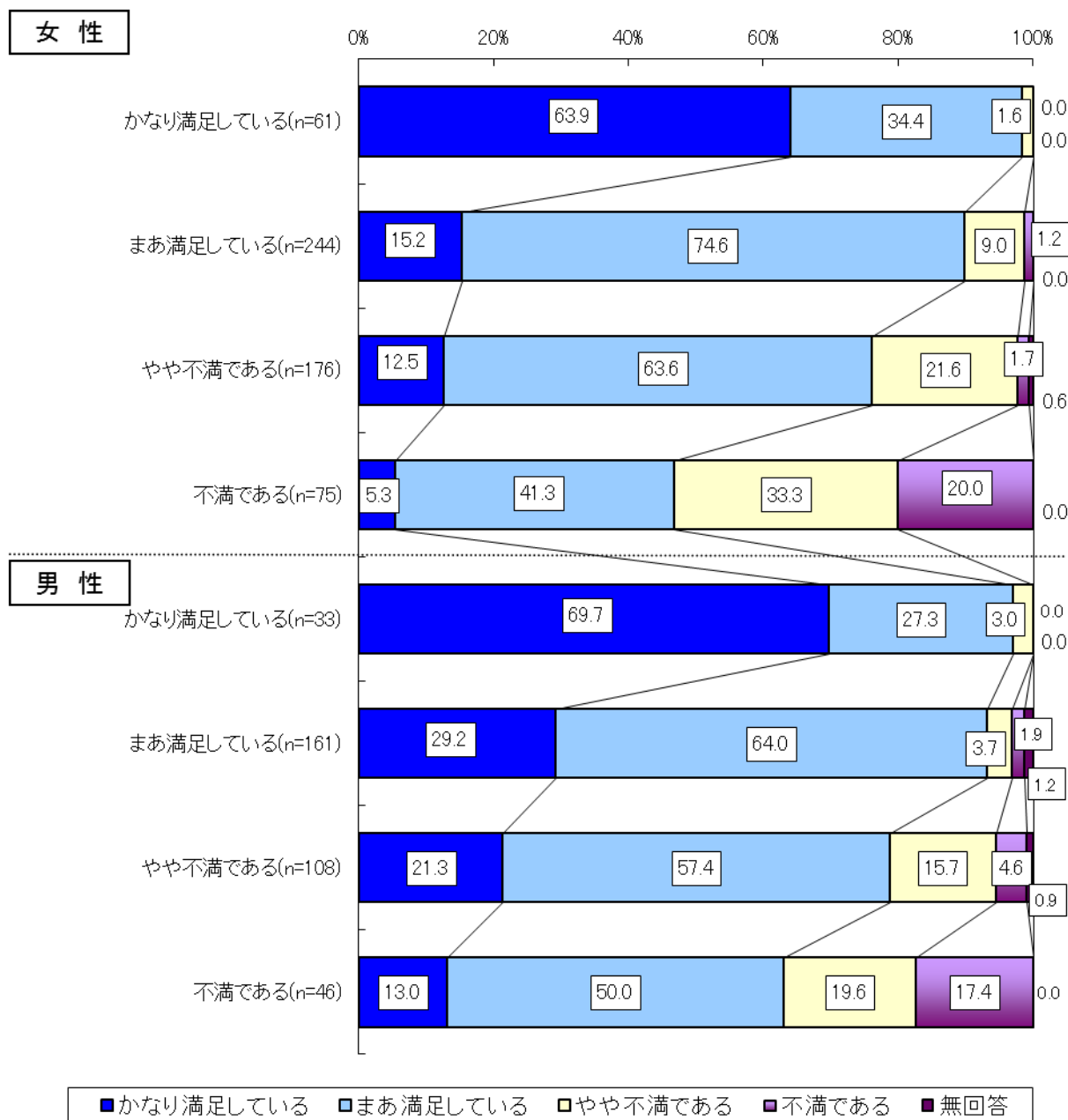
【図表 4-7 参照】

図表 4-7 (B) 家庭の満足度(性別・最年少の子どもの成長段階別)



〈自分の時間の満足度〉の回答別（P.66 参照）にみると、男女ともに自分の時間の満足度が高い人ほど、家庭の満足度が高い傾向がみられ、自分の時間に「かなり満足している」人では約9割以上が家庭に“満足している”と回答している。また、いずれの層でも、「かなり満足している」割合は、女性より男性の方がやや高い。【図表 4-8 参照】

図表 4-8 (B) 家庭の満足度(性別・〈自分の時間の満足度〉の回答別)



### (C) 自分の時間の満足度

#### 男女とも半数以上が自分の時間について“満足している”と回答。(自分の時間の満足度)

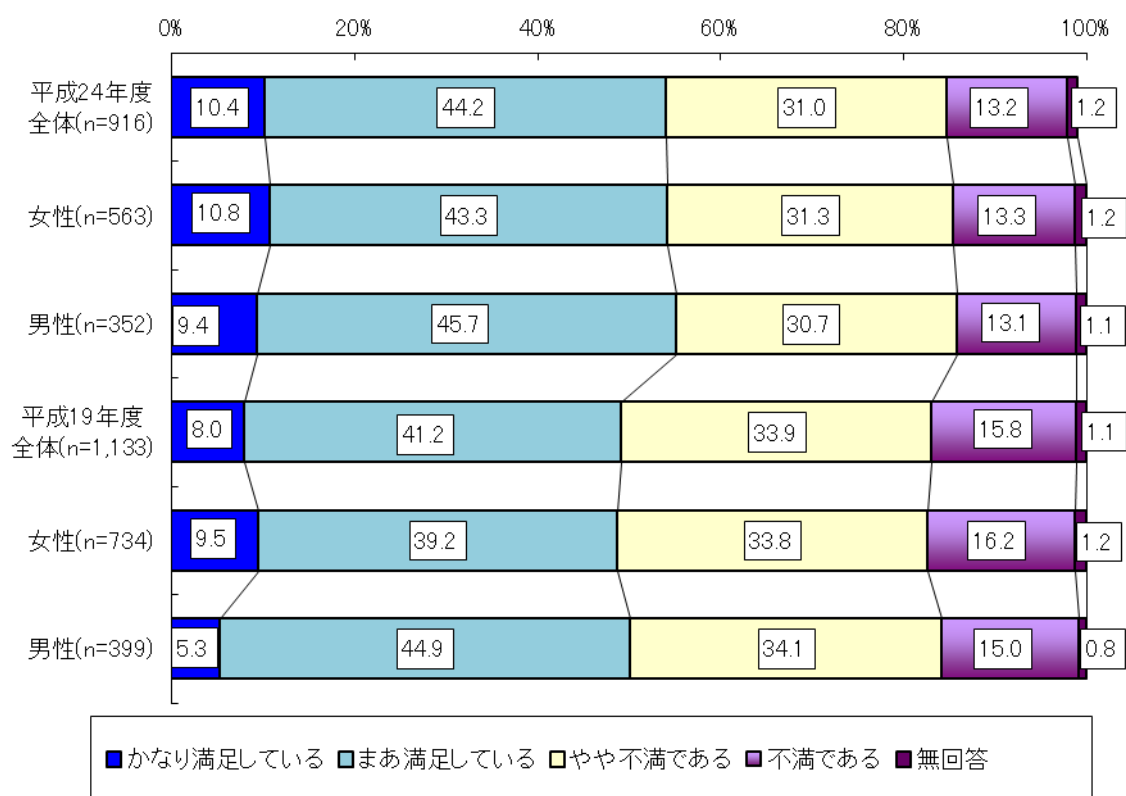
全体では、「かなり満足している」が10.4%、「まあ満足している」が44.2%で、両者を合わせた“満足している”は54.6%である。一方、「やや不満である」は31.0%、「不満である」は13.2%で、両者を合わせて44.2%が“不満である”と回答している。

性別にみると、“満足している”の割合は女性54.2%、男性55.1%で、性別による大きな差はみられない。

前回調査と比較すると、全体、女性、男性で“満足している”がやや増加している。

【図表 4-9 参照】

図表 4-9 (C) 自分の時間の満足度(全体、性別、前回比較)

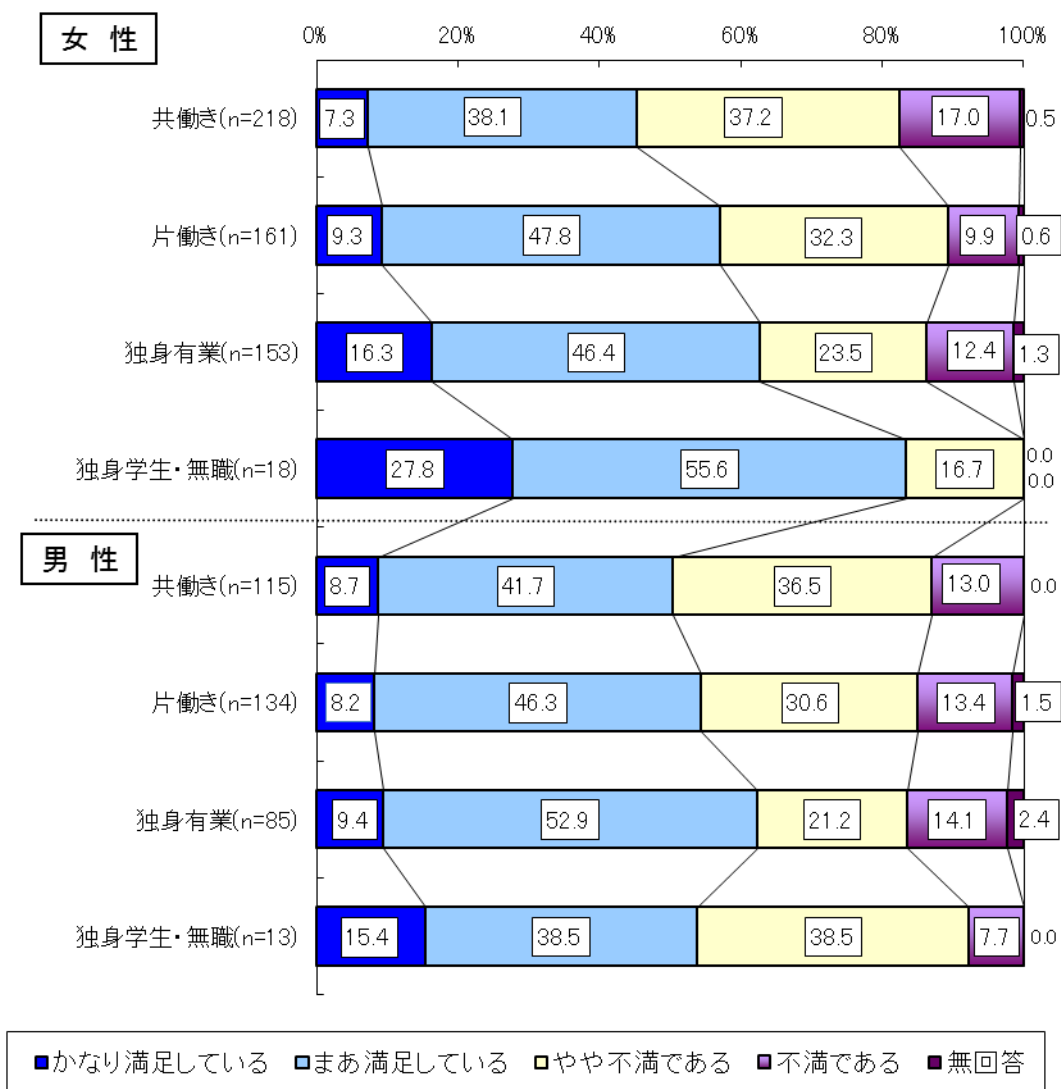


男女それぞれを結婚の有無・職業・夫婦の働き方別にみると、男女ともに「独身有業」で“満足している”（女性 62.7%、男性 62.4%）が6割以上を占め、「片働き」（女性 57.1%、男性 54.5%）、「共働き」（女性 45.4%、男性 50.4%）より高い。

また、女性の「共働き」では“不満である”が54.1%である。

【図表 4-10 参照】

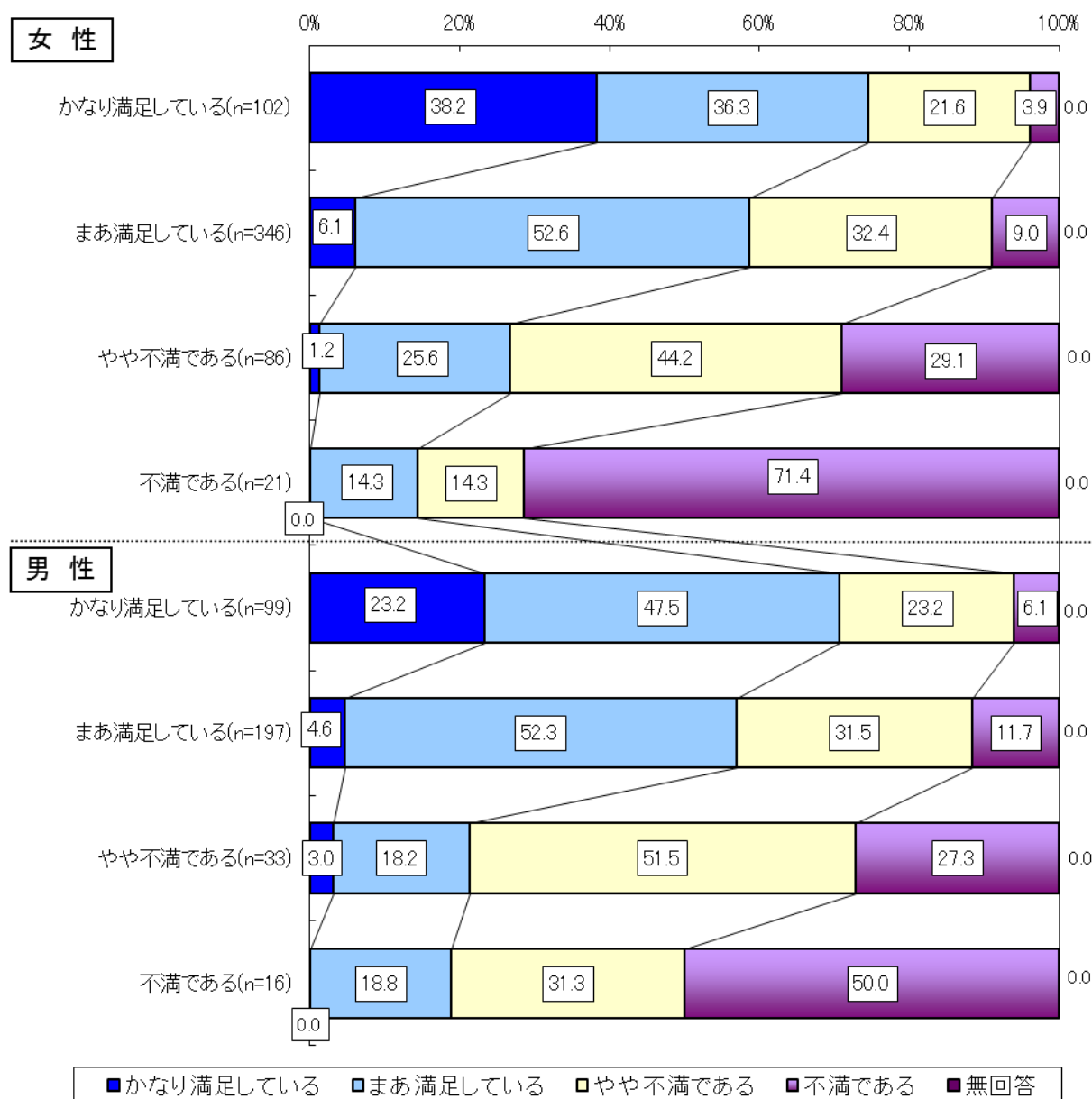
図表 4-10 (C) 自分の時間の満足度(性別・結婚の有無・職業・夫婦の働き方別)



〈家庭の満足度〉の回答別にみると、男女ともに、家庭の満足度が高い人ほど、自分の時間の満足度が高い傾向がみられ、家庭に「かなり満足している」人の自分の時間に「満足している」割合は女性で74.5%、男性で70.7%である。

【図表 4-11 参照】

図表 4-11 (C) 自分の時間の満足度(性別・〈家庭の満足度〉の回答別)



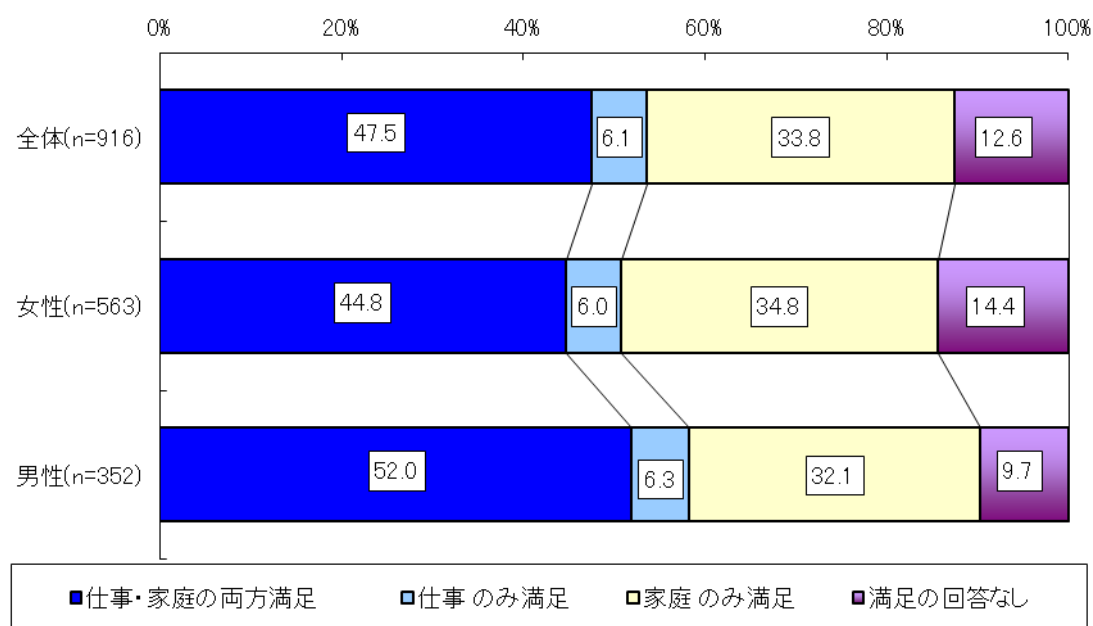
## (A) 仕事・(B) 家庭の満足度

### 「仕事・家庭の両方満足」は半数近く。(仕事・家庭の満足度)

全体では、「仕事・家庭の両方満足」（仕事の満足度、家庭の満足度ともに「かなり満足している」と「まあ満足している」の両者を合わせた“満足している”）が 47.5%である。「仕事のみ満足」（仕事の満足度のみ「かなり満足している」と「まあ満足している」の両者を合わせた“満足している”）が 6.1%、「家庭のみ満足」（家庭の満足度のみ「かなり満足している」と「まあ満足している」の両者を合わせた“満足している”）は 33.8%、「満足の回答なし」は 12.6%である。

性別にみると、「仕事・家庭の両方満足」は女性（44.8%）より男性（52.0%）でやや高い。  
【図表 4-12 参照】

図表 4-12 (A)仕事・(B)家庭の満足度(全体、性別)



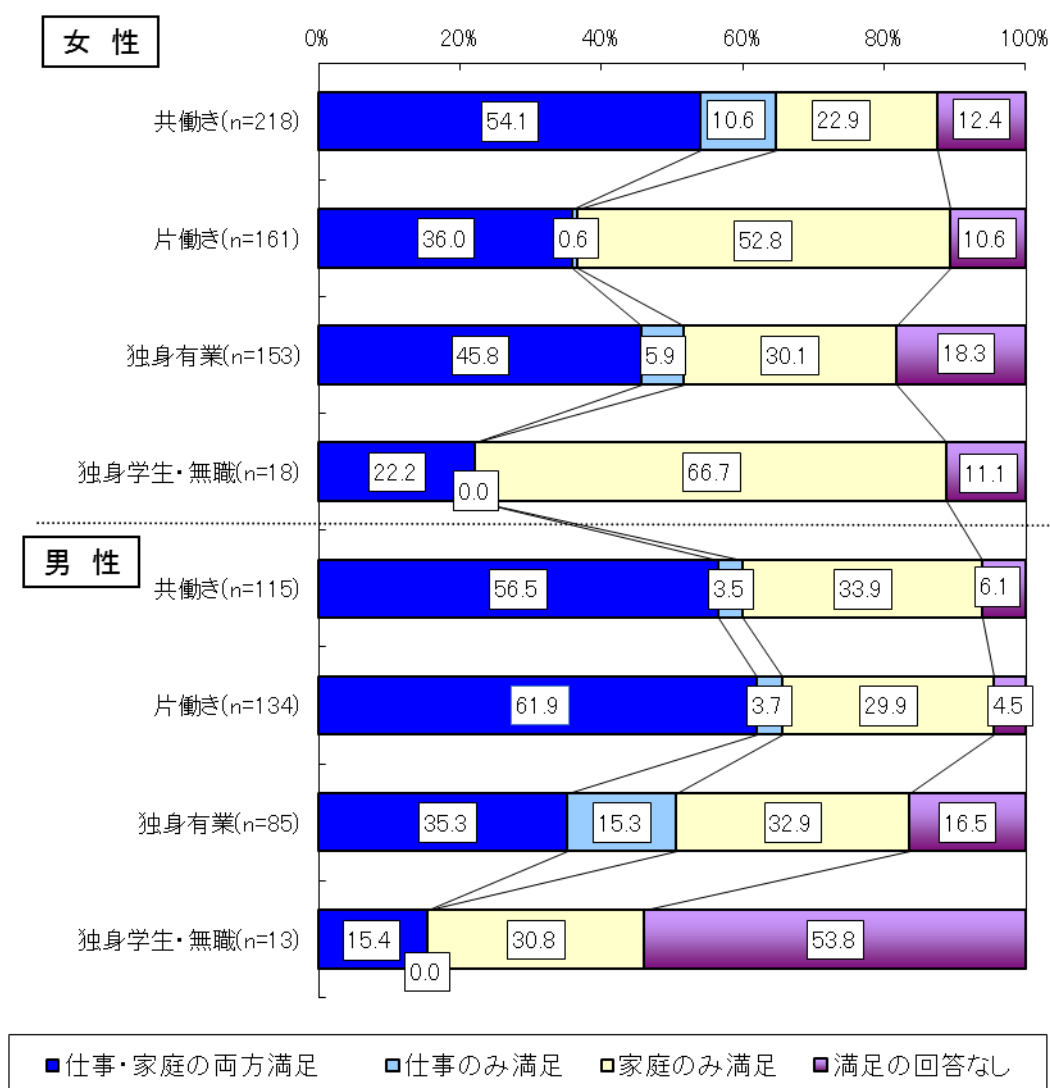


男女それぞれを結婚の有無・職業・夫婦の働き方別にみると、女性については、「仕事・家庭の両方満足」は「共働き」(54.1%)、「独身有業」(45.8%)で多い。特に「共働き」では5割半を占め、他の層より割合が高い。一方、「家庭のみ満足」は「片働き」(52.8%)で最も多い。男性については、「共働き」「片働き」「独身有業」とも「仕事・家庭の両方満足」が最も多いが、「片働き」(61.9%)と「共働き」(56.5%)では「独身有業」(35.3%)より20ポイント以上高い。

また、女性の「片働き」は、ほとんどが専業主婦の回答であるが、男女の「片働き」を比較すると、「仕事・家庭の両方満足」で女性(36.0%)より男性(61.9%)が20ポイント以上高い。

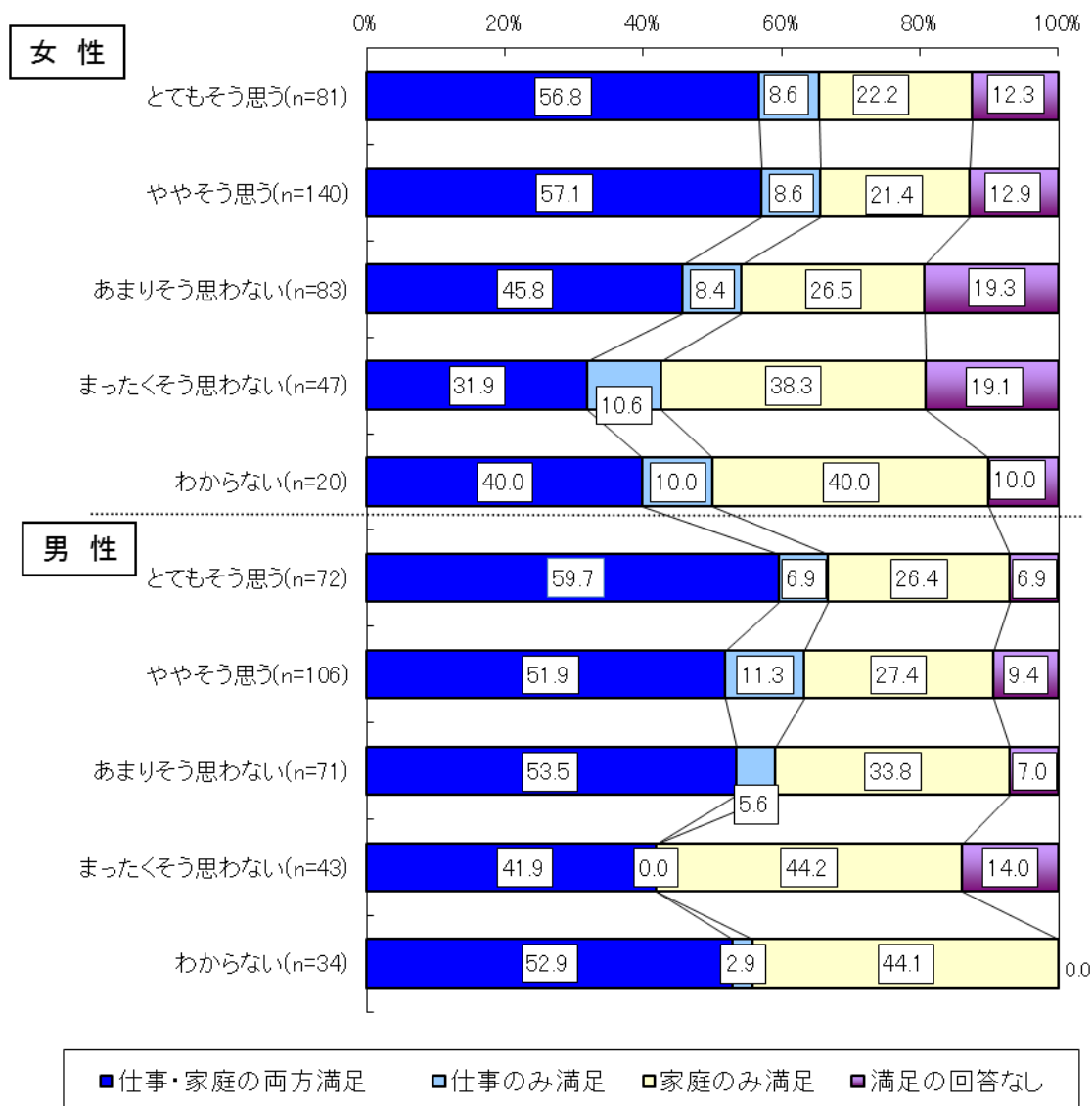
【図表 4-13 参照】

図表 4-13 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・結婚の有無・職業・夫婦の働き方別)



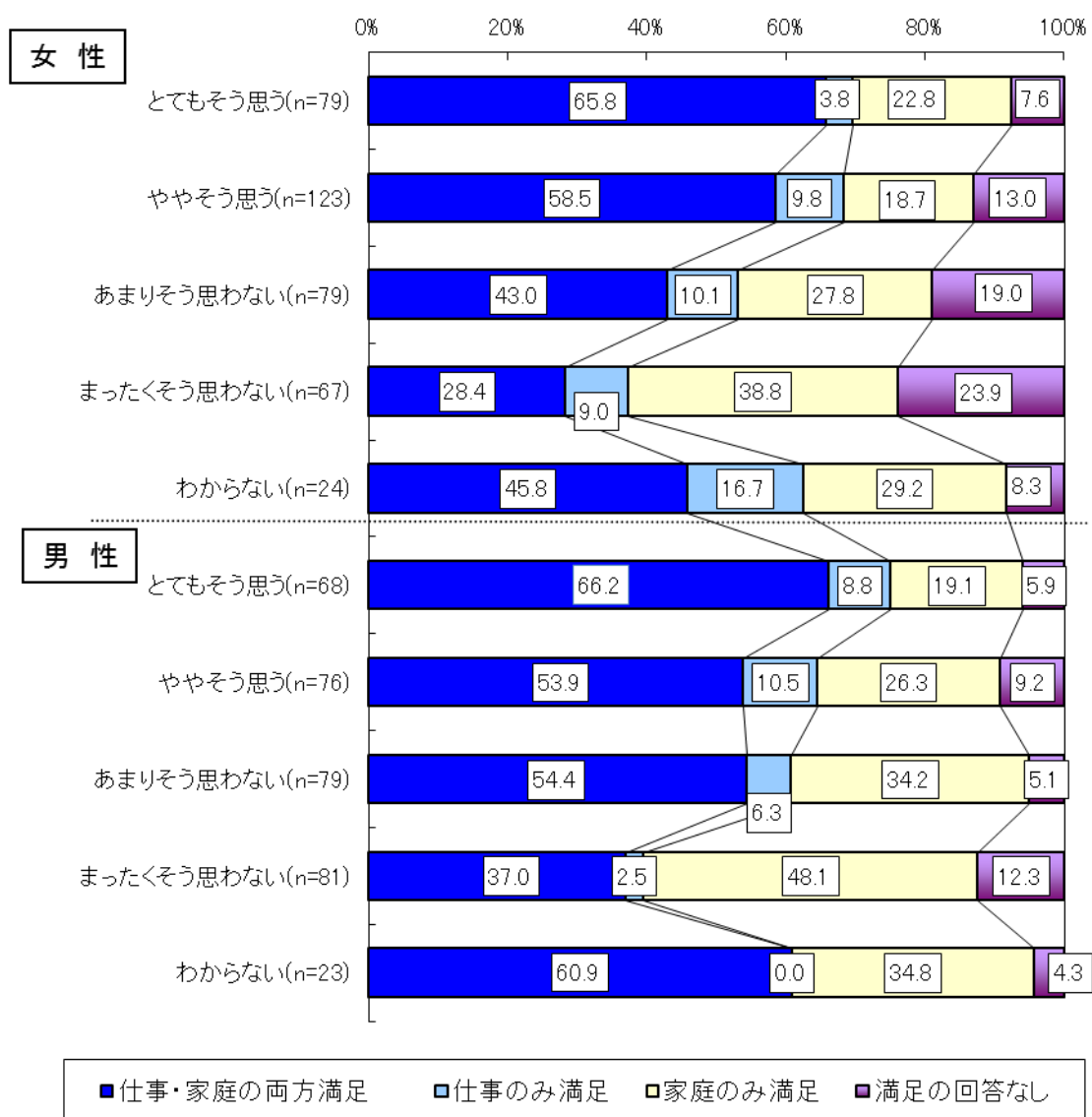
男女それぞれを問5（A）〈女性登用〉（女性が昇進する機会や責任ある仕事を任される機会があるか）の回答別にみると、男女ともに、女性登用がされていると感じている人ほど、「仕事・家庭の両方満足」が高い傾向がみられる。【図表 4-14 参照】

図表 4-14 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・問5(A)〈女性登用〉の回答別)



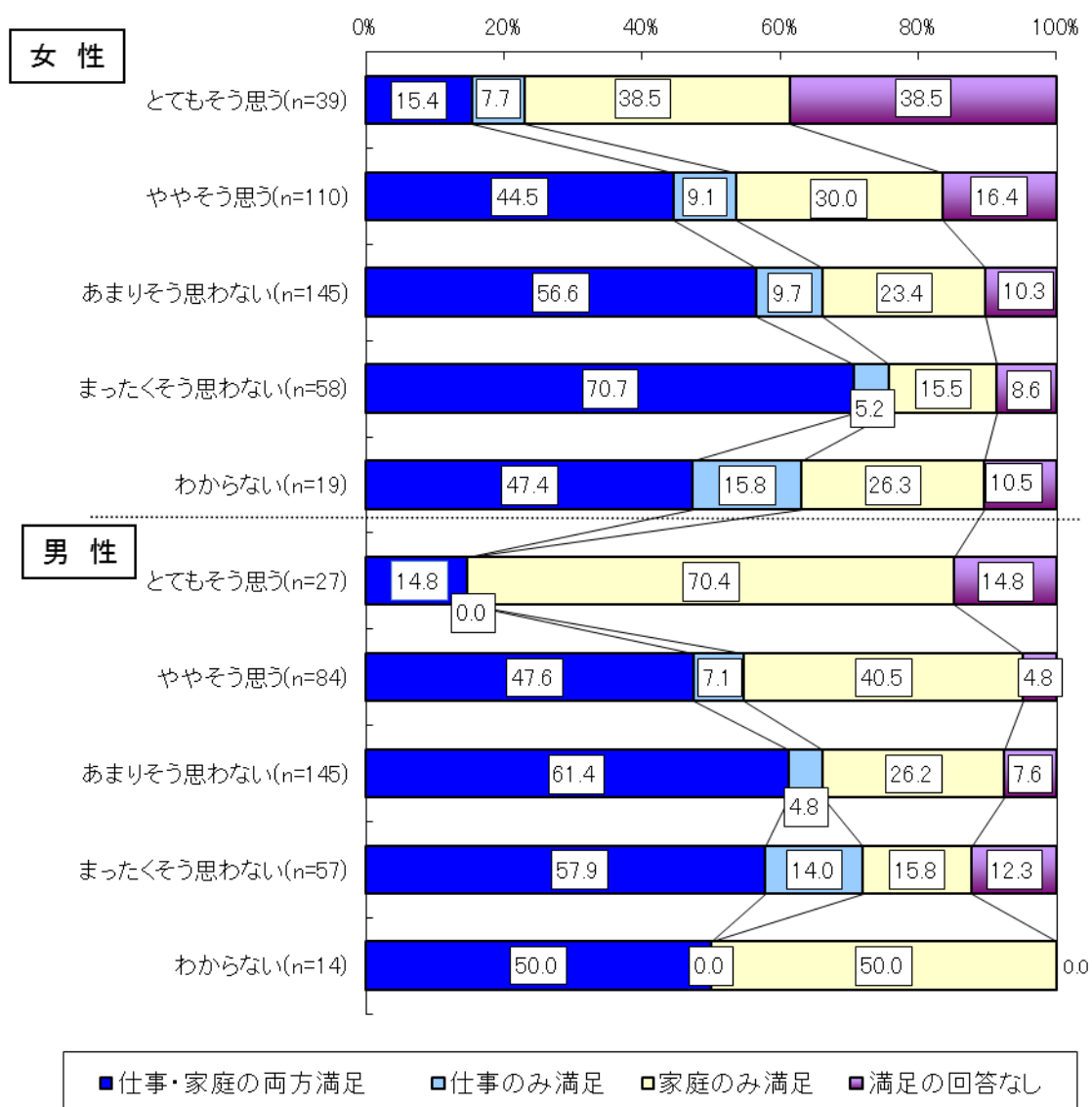
男女それぞれを問5（B）〈柔軟な働き方の整備〉（育児・介護休業制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されているか）の回答別にみると、男女ともに、問5（B）「とてもそう思う」で「仕事・家庭の両方満足」（女性 65.8%、男性 66.2%）の割合が高く、6割を超えている。男女ともに、柔軟な働き方が整備されていると感じている人ほど、「仕事・家庭の両方満足」が高い傾向がみられる。 【図表 4-15 参照】

図表 4-15 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・問5(B)〈柔軟な働き方の整備〉の回答別)



男女それぞれを問5(D)〈職場のコミュニケーション〉(職場のコミュニケーションが不足しているか)の回答別にみると、男女ともに、問5(D)「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」で「仕事・家庭の両方満足」の割合が高く、半数以上である。男女ともに、職場のコミュニケーションが不足していると感じている人ほど、「仕事・家庭の両方満足」が低い傾向がみられる。【図表4-16参照】

図表 4-16 (A)仕事・(B)家庭の満足度(性別・問5(D)〈職場のコミュニケーション〉の回答別)



## Ⅲ. 調査結果のまとめ

### 1. 調査結果のまとめ

#### (1) 働くことについて

女性が働くことについては、依然として「一時中断型」が一番多いものの、前回調査に比べ「継続就労型」が大きく伸びた。一方で、男性が育児休暇を取得することについては、「取得したいが難しいだろう」が6割以上を占め、その理由としては「同僚に迷惑がかかる」「取りにくい雰囲気がある」が上位を占めた。

女性も男性も、仕事を続けながら子育てにも関われる社会のあり方が、意識としては少しずつ浸透しているものの、現実が追いついていないことが伺える。

働いている人の意識についてみると、仕事に就いている人の8割以上が「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と回答している。また、職場の雰囲気については、「女性登用」「柔軟な働き方」が比較的進んでいる様子が見られたが、「男性の育児休暇促進」は半数以上がそうは思わないと回答しており、意識と現実のギャップが実際の職場の雰囲気にも反映されていると言える。「残業」についても、男性の6割が残業が多いと答えており、やはり男性が育児休暇を取りづらい雰囲気につながっていると考えられる。なお、「コミュニケーション」については4割が不足していると感じていると答えている。多様な働き方を進めていく際に、お互いのコミュニケーションが重要であることを考えると、この数字は決して少ないとは言えない。職場におけるコミュニケーションの改善が、雰囲気を変える最初の一步になることも考えられるだろう。

一方、現在仕事に就いていない人は、大半が女性であり、主な理由は「育児・子どもの教育のため」である。また、今後働きたいと考えている人はその8割を占めている。そのうち約半数は、「両立ができれば働きたい」「すぐに働きたい」と答えており、現在「働きたいのに仕事に就けない」状態であることが伺える。

#### 1)女性が働くことについて

- ・前回調査と比較すると、全体、女性、男性いずれも「継続就労型」が増加している。特に女性では10ポイント以上増加している。

#### 2)男性が育児休業を取得することについて

- ・「取得したいが、現実的に難しい（だろう）」が6割以上

#### 3)育児休業を取得しない・するのが難しい理由

- ・「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」が最も多く、6割以上。（全体）

- ・「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある」では女性が6割半と男性を約20ポイント上回る。(性別)

#### 4)仕事に対する意欲

- ・約8割が「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と思うと回答。

#### 5)職場の雰囲気

- ・半数以上が、「女性が昇進する機会や、責任ある仕事を任される機会がある」と思うと回答。(女性登用)
- ・女性の5割以上、男性の4割以上が「育児・介護休暇制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されている」と思うと回答。(柔軟な働き方の整備)
- ・6割半が、「男性への育児・介護休暇取得促進をおこなっている」とは思わないと回答。(男性への育児休暇等取得促進)
- ・4割近くが「職場のコミュニケーションが不足している」と思うと回答。(職場のコミュニケーション)
- ・「残業が多い」と思うと回答した男性は約6割と、女性を20ポイント以上上回る。

#### 6) 現在仕事に就いていない理由

- ・「育児・子どもの教育のため」が最も多く、女性の7割以上が回答。

#### 7) 今後の就労意思

- ・就労の意思があったのは、8割半。

## (2) 家庭生活について

家庭での役割分担を見ると、「世帯の収入を得る」は「主に夫」が8割以上を占めるが、ほかはいずれの項目も「主に妻」が8割以上を占めた。その中でも比較的「夫婦が同じくらい」と答えた人が多いのは「世帯の収入を得る」「地域活動」「学校行事などへの参加」である。また、働き方別に見ると、「収入」と家事全般は「片働き」よりも「共働き」の方が「夫婦が同じくらい」と答えた割合が高いが、「地域活動」「学校行事」は働き方による差は少ない。また、「洗濯」と「学校行事」においては、男性が女性よりも「同じくらい」と答えた割合が高く、家事分担の意識差が見られる。

介護については、8割が将来的な不安を感じている。不安の内容は、第1位が精神的ストレス、それから金銭面の負担・身体的負担と続く。また、既婚者では精神的ストレスが一番であるのに対し、独身者では金銭面の負担が第1位である。また、既婚者女性で、身体的負担についての不安が他より高く、男女ともに実際の介護を担うのは女性であるという前提が潜んでいるとも考えられる。

1)家庭での役割分担

- ・「世帯の収入を得る」は「主に夫」が8割以上、「食事の用意」「洗濯・掃除」は「主に妻」が8割以上を占める。

2)将来介護をする時の不安の有無

- ・約8割が「将来親などの介護をすることがあるかもしれないと不安を感じる」と回答。

3)介護の不安の内容

- ・「ストレスや精神的負担が大きいこと」が最も多く、8割弱。

### (3) 仕事と家庭の両立のために今後取り組むべき内容

性別役割分担意識は全体では賛成と反対が拮抗している。内訳をみると、女性では反対がわずかに多いのに対し、男性では賛成が多い。

各分野における男女の地位については、「男性の方が優遇されている」と答えた人が「家庭」「地域」「法律」では4割に対し、「職場」「慣習」では7割近く、分野によって大きな差があった。また、「家庭」「地域」「法律」では、「平等になっている」と答えた人も3割を超えたが、内訳をみると男女差が大きく、この3項目でも依然として女性は4割超が「男性優遇」と答えているのに対し、男性は「平等」と答えている人が多く、男女の意識差が大きいことが伺える。

ワークライフバランスの実現のために今後取り組むべき内容としては、「保育サービスの充実」がトップで、次に「柔軟な働き方の整備」「経営者の意識改革」と続き、いずれの項目も女性の方がポイントが高い。男性で一番ポイントが高いのは「経営者の意識改革」で、「育児休業を取りたいが、取りづらい」職場の雰囲気は反映されていると考えることができる。

1)性別役割分担意識について

- ・「賛成である」が4割半、「反対である」が4割強で、大きな差はみられない。

2)各分野の男女の地位

- ・5つの分野全てで、“男性の方が優遇されている”の割合が“女性の方が優遇されている”より高い。特に「社会通念・慣習・しきたりなど」や「職場」では、“男性の方が優遇されている”が7割前後。
- ・全体の4割強、女性の約5割、男性の3割強が家庭で“男性の方が優遇されている”と回答。(家庭生活)
- ・全体の7割弱、女性の7割以上、男性の約6割が職場で“男性の方が優遇されている”と回答。(職場)
- ・全体の4割弱、女性の4割半、男性の2割半が地域社会で“男性の方が優遇されている”

と回答。(地域社会)

- ・全体の4割弱、女性の4割半、男性の約2割が法律や制度の上で“男性の方が優遇されている”と回答。(法律や制度)
- ・全体の7割以上、女性の8割近く、男性の6割以上が社会通念・慣習・しきたりなどで“男性の方が優遇されている”と回答。(社会通念・慣習・しきたりなど)

3) ワークライフバランスのために取り組むべき内容

- ・「保育施設や、保育サービスの充実」が最も多い。「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」「仕事と家庭の両立に対する経営者意識改革」が続く。

#### (4) 仕事・家庭・自分の時間の満足度

仕事・家庭・自分の時間の満足度については、いずれの項目も半数以上が「満足している」と答えている。内訳を見ると、仕事の満足度は、職種で大きな差があることが分かる。また、家庭の満足度は、女性より男性の方がやや高く、家庭の負担が女性に偏っていることが反映されていると考えることもできる。自分の時間の満足度は、男女差はそれほどなく、既婚者より未婚者で高い。「仕事」・「家庭」・「自分の時間」の満足度の相関関係をみると、一方の満足度が高いほど、もう一方の満足度が高い傾向が見られる。

特に、「仕事」と「家庭」の満足度の相関関係をみると、「両方満足」が約半数、「家庭のみ満足」が3割である。夫婦の働き方別にみると「両方満足」と答えた割合は既婚男性で高く、その次が共働き女性である。片働き男性の「両方満足」は「家庭のみ満足」の片働き女性(専業主婦)の存在で実現している可能性もあり、注意が必要である。また、「仕事・家庭の満足」と職場の環境との関係をみると、「女性登用」「柔軟な働き方」について「そう思う」と答えている人ほど、「コミュニケーション不足」について「そう思わない」と答えている人ほど、「両方満足」の割合が高い傾向がみられる。職場の環境が、仕事の満足度だけでなく、家庭の満足度にも影響を与えているということは、一人ひとりのワークライフバランスの実現は、個人の問題ではなく、職場や企業、さらには社会全体が取り組むべき問題であると言えることができるだろう。

1) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度

- ・男女ともに仕事に“満足している”人は半数以上。(仕事の満足度)
- ・男女ともに8割前後が家庭に“満足している”と回答。(家庭の満足度)
- ・男女とも半数以上が自分の時間について“満足している”と回答。(自分の時間の満足度)
- ・「仕事・家庭の両方満足」は半数近く。(仕事・家庭の満足度)



## 2. 今後に向けて

### ワークライフバランスに対する経営者の意識改革に向けた啓発

ワークライフバランスの実現のために今後取り組むべき内容では、特に男性において「経営者の意識改革」が強く望まれている。これは、職場において育児休業を取得しにくい雰囲気があると感じていることなどが反映されていると考えられ、今後、男性の育児休業取得率を上げていくためには、経営者の意識改革が非常に重要となる。企業を対象とした出張講座などをとおして、仕事と家庭の両立がいかに大切なことであるかに気づいていただき、理解を深めていただきたい。

### 性別役割分担意識の解消に向けた啓発

「男性は仕事、女性は家事・育児」といった性別役割分担意識は、全体のおよそ半数が賛成派であり、「女性」よりも「男性」において賛成派が多い傾向が見られた。この性別役割分担意識の影響により家事・育児などの負担が大きく、働きたくても働くことのできない女性が数多く存在する。よって、固定的な性別役割分担意識の解消に向けて、各種事業を実施し、特に男性の意識改革を促したい。

### 子育て・介護等を支える制度の活用促進

ワークライフバランスにおいて重要となるのが地域で支え合い、助け合うことで安心して子どもを生み、育て、家族等の介護ができることであり、そのために制度の整備は不可欠である。自由記述においても「仕事と家庭の時間のバランスがとても難しい現代の中で、社会全体で家庭に時間をとれるような仕組みになってほしい。子育てや介護に非常に不安を感じている。」など切実な意見が多数寄せられた。こうした声に応えるためには、公共サービスを中心に保育や介護を社会全体で支える法制度を整備・拡充するだけでなく、その活用を促進するための柔軟性が必要とされ、千葉市としても検討課題の一つではないだろうか。

### さらに多くの人の意見をひろいあげるための努力

今回の回答者層の既婚率が国勢調査と比較して著しく高いことなどから推測すると、郵送調査は、既婚・正社員の回答率が高い調査である。つまり単身・非正規雇用で働く人等の意見は、十分反映されていないと考えられるため、例えば、今回の調査で満足度が高かった項目について単純に安心することはできないと言える。一方、今回の調査でも満足度が低かった項目については、社会全体の声としてはもっと大きいことが想像できる。今後は、このような調査ではひろいきれない小さな声、多様な声を丁寧にひろいあげていく努力も、行政に求められる課題の一つと言えるだろう。

## IV. 自由意見

仕事と生活の両立について寄せられた自由意見の中から年代別に掲載する。

注：（ ）内は、性別、職業を示している。（全 223 件中 28 件を原文のまま掲載）

### 25 歳～29 歳

- 仕事と生活のバランスをとるのは難しいと思います。制度の整備だけでなく、その制度を使い易い環境を整えることが必要だと思います。（女性・パート、アルバイト、内職）
- 現在の職場は管理者が女性なので、家庭と仕事の両立を理解してくれており、協力もしてくれている。しかし異動などでそのような経験が乏しい上司に出会ったとき、どうしようと不安になることがある。特に管理者（男性）の意識改革を強く必要とするように思います。（女性・正規の社（職）員）
- 社会としての理解がまだまだ足りない。制度の整備ばかりが先に進み、人の心がついてきていないと思う。それが色々な制度を使用「しにくい」という形になっていると思う。（男性・正規の社（職）員）
- 仕事と家庭、両立するのは難しい。保育施設やサポートすることが充実するのも必要だが、その前に家族間や職場で互いを思いやれる気持ちがなければ、何事もうまくいかない気がする。ただ今の世の中、思いやりを持てるほど余裕がないのでなかなかつりあいがとれない。（女性・専業主婦・主夫）
- 仕事と家庭の時間のバランスがとても難しい現代の中で、社会全体で家庭に時間をとれるような仕組みになってほしい。子育てや介護に非常に不安を感じている。（男性・正規の社（職）員）
- 男性がより育児に参加した方が将来その子ども達がより心身ともに成長できると思う。昨今の草食男子の増加は若年期、幼少期に父親と十分なコミュニケーションが取れなかったためではないかと思う。何でも欧米化すれば良いという問題ではないが、一番大切な子どもとの時間を削って仕事に追われることが「善いこと」「正義」であると

は思いたくない。もっと心から育児を楽しめる世の中になってほしい。そう思えないから子どもはまだ作れないと感じている。(男性・契約(職)員(臨時・派遣を含む))

- 三つ子の魂百までを信じているので、自分の手で子ども達を育ててあげたいと思います。でもそれを終えて働くにはブランクがありすぎ。パートの扶養範囲内だと保育園代が全てなくなり、働く意味がない。フルタイムだと子ども達と過ごす時間は1日何時間?自分で産んだ子なのに他の人が育てるのは絶対に嫌なので結局専業主婦になるしかない。私の考えでは、働く意義と家庭と社会調和はとれそうにもないです。(女性・25~29歳・専業主婦・主夫)

### 30歳~34歳

- 有休取得を推進しない、長時間労働を当たり前のように強いるような労働環境が多くあるように思う。全ての事業所に有休取得率や残業時間を報告させて新聞等で発表すべきだと思う。“自分の時間のなさ”が晩婚・少子化を招くし、家庭の質を低下させている。(女性・正規の社(職)員)
- 環境が整っていても会社での意識改善がされない限り、調和は難しいと思います。(男性・正規の社(職)員)
- 子どもがいても働ける環境づくり。これがすべて。そして早急に求められる課題だと思います。今のようにお金がないと、そういう環境づくりが難しい世の中だと格差は広がる一方。また、教育への負担減も大切だと思う。(女性・自営業・家族従業員、自由業)
- 子どもができた時の制度のレベルが低いので、少子化になっているのではと感じる。消費税を上げてでも手厚くすべきと感じる。(男性・正規の社(職)員)
- 我が家の場合、主人の方がお金を稼ぐ能力にたけていて、私の方が家事や育児が得意なので、得手、不得手で、役割分担が自然に出来上がりました。ただ、昔と比べて女性自身の変化があり、「何かしたいことをする」という意味においては、男女の隔たり無く育てられてきています。(それはもっと若い世代を見ればますますその傾向は強いように思います。)女性が育児しながらも社会に出たければ男性の協力が必須だし、「家事を手伝う」でも「協力的」でもなく「やって当然」という意識でいてもらわないと難しいように思います。(女性・専業主婦・主夫)

- 出産・授乳は女性にしかできないので、男女を同様に扱うことが男女平等ではない。各々が仕事を分担されている中で、急に子どもの発熱等で休むのは、現実として業務に支障をきたすこともある。離職・復職をためらわずにできる社会になれば、出産や育児への抵抗感が減ると思う。（女性・正規の社（職）員）
- ワークシェアリングが浸透していくと良いと思います。ワークシェアリングで残業時間が短縮できるかもしれません。（男性・正規の社（職）員）

### 35 歳～39 歳

- 子供が多い家には優遇してほしい。現社会では子供生めない環境になってます。それは収入から成り立つためだと思います。もっと若い人たちが子供を生める社会にするべきだと思う。例）子供 3 人以上だと国から 500 万円支給、学費補助の充実など。頑張ってください。（男性・正規の社（職）員）
- 今の職場は非常に恵まれており男女平等で時間外労働の負担感は低い。ただし、異動で部署が変われば、今までのようにはいかないのが不安を感じている。子育てなどの退職をした人も働きたいと思った時にフルタイムに限らず、短時間雇用でもよいので働ける環境とそれに見合った税の対応を整えてほしい。扶養内でパートする主婦なども多いと思うが、働きたいという意欲をそがないような法の整備、雇用の充実が必要だと思う。  
（女性・正規の社（職）員）
- 日本に「男は仕事、女は家庭」という概念が、あらゆる所からなくならない限り調和はないと思う。職場での男女平等を実現する為の制度づくりを行う際、女性の権限等を男性に近づけるだけでなく、男性を女性のそれに近づけることも必要に思う。育児に男性がもっと参加できる仕組みづくりと、それを実現できるよう、経営者の意識改革が必要と思われる。「いい親」が多く存在する社会を実現する為、「親としての心構え」をレクチャーしなければならない時代なのかもしれません。これが浸透しなければ、社会全体は変わらないのかもしれない。（男性・契約（職）員（臨時・派遣を含む））
- 個人、家庭、企業が同じレベルの意識をある程度持っていないと仕事と生活の調和をストレスなく実現することは難しいと思う。従来の生活スタイルから変化しつつある現代社会において、組織のトップに立つ人の意識改革と各家庭での意識の折り合いを

つける事が大切でそれを指導していく体制、機会があって良いのではと感じる。（女性・自営業・家族従業員、自由業）

- 子ども達にすべては家族全員で負担することを理解して生活していくように教育することが必要だと思います。親、会社、社会のみが変化しても次に続く人たちが成長しなくては今の改善が伸びていかないように思います。（女性・正規の社（職）員）
- 育休や介護休は正当な権利である。しかしその穴埋めは誰がするのか。残された職員でしかない。どの会社もギリギリの人員で働いており、臨時職員が雇用できればよいが、できない現状。医師、技術者ほど代わりがない。男女関係なく理解ある世の中を目指すべき。（男性・学生）
- 仕事と生活の問題は夫婦間に子どもが生まれた時に時間、身体、精神面に負担が生じると思う。子育てをしていることに対し、従事するための時間、金銭、社会的理解支援、支援体制が整うことで両立していけると考える。介護に関しては必ずといっていいほど人生において必要となることなので、家族間で親が元気なうちに金銭のことなども含め家族の負担が軽くなるよう話し合いをするのが良いと思う。また社会資源の活用方法を事前に知るようにしていくことや、高齢者を適切な扱いをしてくれる老人施設に入所させることも考えていくことが大切だと思う。（女性・学生）

#### 40歳～44歳

- 全部が全て満たされるという生活はなかなか難しいと思うのですが、その中から自分達が（家族が）一番何を切り捨て、何を優先させたら幸せか…という事を、考えなければならぬと思います。問13の項目は今の（これからの）日本国民にとって早急に進めてほしい事柄がそろっていると思います。私達の子ども世代が親になって子育てをする時代のことを考えてもとても不安になります。柔軟な働き方についても「能力のある女性で一度子育てのために職を離れた後、ちゃんと復帰できるような」そんな社会になってほしいです。（女性・契約（職）員（臨時・派遣を含む））
- 会社は制度そのものを作って満足している。有休休暇しかり、制度があっても経営者もしくはそれに近い人間の意識が変わらないと何も変わらない。育児も同様、制度があってもそれを使えない、使わない雰囲気がある限り、保育施設やサービスを充実させないと、本当の意味での男女平等や、育児と仕事の両立は不可能だと思う。（男性・正規の社（職）員）

- 自分自身も経験しましたが、育児休暇の申請はしづらい環境でした。妊娠中も仕事が軽減される事はなく、周囲の男性社員と同じ様に力仕事をさせられました。これが現実です。育児休暇中は給与の何割かが支給されるみたいでしたが、給与担当者の知識が浅く結局受け取れず復職しました。そういう制度があることを知ったのは数年前に別の社員から情報提供があったからです。子育てしながら仕事をしたい女性は沢山いると思いますが、現実問題として雇用条件、時間、休暇等、改善を要する事項は多いと思います。（女性・正規の社（職）員）
- 周りの環境が整ったとしてもそれを理解する姿勢がなければ変わりません。夫婦間で話し合うことも大事ですが、現代社会の生活スタイルに合った変化を受け入れて、協力し合わない、子を持つ不安などぬぐえないかもしれません。子育てや介護、これから先の意識をどうやって変えていくか？ どのような協力だったらモチベーションが上がるのか？ など、柔軟な歩み寄りが必要だと思います。（女性・正規の社（職）員）
- 生活のパターンは各家庭によりさまざまだと思いますので、育児、介護サービスの充実に加え、ほかの公的サービスの充実（インターネットを活用した24時間の受付窓口など）を進めていただけないかと感じています。（以前は近隣の公民館に休日にも住民票や印鑑証明書を発行していただける機械が設置されていたので時々利用していたのですが、撤去により大変に不便を感じています。）（男性・正規の社（職）員）
- 女性が仕事をする事は良いことだと思う。だが、子供にとって、いつも親がいて自分を見ていてくれることは大切ではないでしょうか。経済的な豊かさも現実的に必要ですが、心の豊かさは将来の日本を救う人物を造るように思います。（女性・専業主婦・主夫）
- 今まで保育士、介護福祉士として公立、私立、法人の施設で働いてきました。職場の中で自分だけでなく、いろいろな家庭のケースをみてきた経験から感じたことは「仕事と生活の調和」は個人的な問題解決はできず、地域や自治体、国でもっと真剣に考え、取り組まなければならないと思います。問13の1)の家事や育児、介護を家庭で協力～は家庭だけでは担うことはできないと思います（現場をみてきた中で）。現状を知るのであれば、もっと現場の声を具体的にリサーチする必要があると思います。（女性・契約（職）員（臨時・派遣を含む））

## V. 調査票

### 仕事と生活の調和に関する意識調査 調査へのご協力とお願い

千葉県男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の形成促進に向けてさまざまな事業を展開しております。

本調査は、『仕事と生活の調和に関する意識調査』として、千葉県にお住まいの皆様を対象に、仕事や家庭生活、またその両立についてみなさまのお考えや行動をおたずねするものです。

千葉県内にお住まいの25歳以上45歳未満の男女各1,500名の方を無作為に抽出（くじ引きのようにランダムに抽出）し、アンケート調査票を郵送させていただきました。

みなさまにご回答いただきました調査票及び集計結果につきましては、すべて統計的に処理いたしますので、ご回答された方が特定されるようなことは一切ございません。

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉県男女共同参画センターが行うものです。これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに掲載しています。

[ホームページ <http://www.chp.or.jp/danjo/research/research.html>]

#### ◆ご記入にあたってのお願い◆

1. ご記入は、宛名にあるご本人様にお願いいたします。
2. ご記入にあたっては、平成24年8月現在の状況でお答えください。
3. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。質問によって○が1つの場合と、複数の場合があります。
4. ご記入は、質問の番号や矢印（…………▶）指示にそってお願いいたします。
5. ご記入後、同封の返信用封筒に入れて 9月7日(金)までにご投函をお願いいたします。差出人名、切手は不要です。

平成24年8月

ご不明な点や調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

#### 《お問い合わせ先》

千葉県男女共同参画センター 担当：市原、川上  
〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2  
千葉県ハーモニープラザ内  
電話：043-209-8771



まず、あなたご自身のことについて、お伺いします

F1 <すべての方がお答えください。>

あなたの性別について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 女性 (61.5%)                      2. 男性 (38.4%)

F2 <すべての方がお答えください。>

あなたの年齢について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 25歳～29歳 (16.2%)              3. 35歳～39歳 (29.3%)  
2. 30歳～34歳 (22.6%)              4. 40歳～44歳 (31.8%)

F3 <すべての方がお答えください。>

あなたの職業形態について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- |                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 自営業・家族従業員、自由業 (5.7%)      | 5. 専業主婦・主夫 (18.1%) |
| 2. 正規の社(職)員 (48.5%)          | 6. 学生 (0.8%)       |
| 3. 契約社(職)員 (臨時・派遣を含む) (7.6%) | 7. 無職 (3.1%)       |
| 4. パート、アルバイト、内職 (16.2%)      | 8. その他 (0.0%)      |

▶F3-1 <F3で1～4、8を選んだ方はお答えください。>

あなたが日頃、仕事に従事している時間は大体一日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

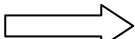
1. 6時間未満 (12.7%)                      4. 10時間以上～12時間未満 (19.7%)  
2. 6時間以上～8時間未満 (22.4%)      5. 12時間以上 (9.7%)  
3. 8時間以上～10時間未満 (33.2%)

F4 <すべての方がお答えください。>

あなたのご結婚されていますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 結婚している (事実婚を含む) (70.4%)  
2. 結婚していない (25.1%)  
3. 結婚後、離別・死別 (4.4%)

結婚している方       F5へ

結婚していない、結婚後、離婚・死別した方       F6へ



F5 < F4で1を選んだ方はお答えください。 >

あなたの配偶者・パートナーのご職業について、あてはまる番号に1つOをつけてください。

- |                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 自営業・家族従業員、自由業 (6.7%)      | 5. 専業主婦・主夫 (20.5%) |
| 2. 正規の社(職)員 (58.6%)          | 6. 学生 (0.0%)       |
| 3. 契約社(職)員 (臨時・派遣を含む) (2.6%) | 7. 無職 (0.3%)       |
| 4. パート、アルバイト、内職 (9.1%)       | 8. その他 (0.0%)      |

▶F5-1 < F5で1～4、8を選んだ方はお答えください。 >

あなたの配偶者・パートナーが日頃、仕事に従事している時間は大体一日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つOをつけてください。

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 6時間未満 (9.3%)         | 4. 10時間以上～12時間未満 (27.8%) |
| 2. 6時間以上～8時間未満 (11.1%)  | 5. 12時間以上 (19.1%)        |
| 3. 8時間以上～10時間未満 (30.2%) |                          |

F6 < すべての方がお答えください。 >

あなたが現在同居している方はどなたですか。あてはまる番号にすべてOをつけてください。

- |                      |                |                 |
|----------------------|----------------|-----------------|
| 1. 親 (24.6%)         | 4. 祖父母 (2.2%)  | 7. 同居人なし (7.1%) |
| 2. 配偶者・パートナー (68.2%) | 5. 兄弟姉妹 (8.0%) |                 |
| 3. 子 (57.2%)         | 6. その他 (1.5%)  |                 |

▶F6-1 < F6で3を選んだ方はお答えください。 >

同居しているお子さんのうち、一番年少のお子さんの年代について、あてはまる番号に1つOをつけてください。

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 就学前児 (65.8%)          | 4. 中学生 (7.8%)     |
| 2. 小学生低学年 (1～3年) (12.8%) | 5. 中学校卒業以上 (2.5%) |
| 3. 小学生高学年 (4～6年) (11.1%) |                   |

F7 < すべての方がお答えください。 >

あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。(A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでOをつけてください。

	い満 るか な足 り て	い満 まる る足 あ し て	あ不 る満 や で	あ不 る満 で
(A) 仕事	(5.1%)	(48.5%)	(25.3%)	(14.6%)
(B) 家庭	(22.1%)	(59.3%)	(13.0%)	(4.0%)
(C) 自分の時間	(10.4%)	(44.2%)	(31.0%)	(13.2%)

## 働くことについて、お伺いします

問1 <すべての方がお答えください。>

女性が働く(仕事に就く)ことについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ〇をつけてください。

女性はご自分のこととして、男性は一般的な考えをお答えください。

1. (子どもができて、) ずっと働き続ける方がよい (36.5%)
2. 子どもができたなら退職し、大きくなってから再び働く方がよい (43.4%)
3. 子どもができるまで働く方がよい (8.3%)
4. 結婚するまでは働く方がよい (3.8%)
5. 女性は働かない方がよい (1.4%)
6. その他 (6.0%)

問2 <すべての方がお答えください。>

男性が育児休業を取得することについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ〇をつけてください。

男性はご自分のことについて、女性は配偶者・パートナー(いない場合は、いると仮定して)のことについてお答えください。

1. ぜひ育児休業を取得する(取得してほしい) (17.1%)
2. 取得したいが、現実的には難しい(だろう) (62.6%)
3. 機会があっても取得するつもりはない(だろう) (13.1%)
4. 今後取得する機会がない (5.7%)
5. その他 (0.9%)

問3 <問2で2、3を選んだ方はお答えください。>

その理由は何ですか。あてはまる番号にすべて〇をつけてください。

1. 男性は仕事を優先し、女性は子育てに専念すべき (9.4%)
2. 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気がある (59.2%)
3. 職場に前例がない (48.8%)
4. 昇進・昇給に響くと思う (35.2%)
5. 収入が減少し、家計に影響する (57.3%)
6. 仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる (61.2%)
7. 取得後の仕事復帰が難しい (21.2%)
8. 妻・パートナーが主に子育てするので必要がない (11.8%)
9. 父母など協力をしてくれる人がいるので必要がない (6.1%)
10. 保育所などに子どもを預けるので必要がない (3.8%)
11. その他 (2.6%)

問4 <お仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方はお答えください。お仕事に就いていない (F3で5~7を選んだ) 方は問6へお進みください。>

あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つ0をつけてください。

1. とてもそう思う (28.2%)
2. ややそう思う (50.8%)
3. あまりそう思わない (15.1%)
4. まったくそう思わない (3.5%)

問5 <お仕事に就いている (F3で1~4、8を選んだ) 方はお答えください。>

	とても そう 思う	やや そう 思う	そ う 思 わ な い あ ま り	ま っ た く そ う 思 わ な い	わ か ら な い
(A) 女性が昇進する機会や、責任ある仕事を任される機会がある	(21.4%)	(34.5%)	(21.6%)	(12.6%)	(7.6%)
(B) 育児・介護休業制度や短時間勤務など、柔軟な働き方が整備されている	(20.6%)	(27.9%)	(22.1%)	(20.7%)	(6.6%)
(C) 男性への育児・介護休暇取得促進をおこなっている	(4.1%)	(8.3%)	(25.5%)	(39.5%)	(20.3%)
(D) 職場のコミュニケーションが不足している	(9.2%)	(27.2%)	(40.6%)	(16.1%)	(4.6%)
(E) 残業が多い	(23.9%)	(25.6%)	(27.2%)	(17.4%)	(3.6%)

※ 回答後、問8へお進みください。

**問6** <お仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方はお答えください。>  
あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

1. 年齢などが希望する求人条件とあわない (12.9%)
2. 自分の希望する内容の仕事が見つからないから (25.9%)
3. 育児・子どもの教育のため (68.2%)
4. 介護・看護の必要な人がいるから (5.0%)
5. 家事との両立が難しいから (28.9%)
6. 家族の理解が得られないから (4.0%)
7. 配偶者に転勤があるから (5.5%)
8. 健康に自信がないから (13.4%)
9. 仕事することに魅力を感じないから (5.0%)
10. 経済的に働く必要がないから (9.5%)
11. 学生だから (3.5%)
12. その他 (9.0%)

**問7** <お仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方はお答えください。>  
あなたは今後働きたいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. すぐに働きたい (18.9%)
2. 子育てや介護と両立できれば働きたい (21.9%)
3. (子どもがある程度大きくなったらなど) 時期が来たら働きたい (44.8%)
4. 働きたくない (5.5%)
5. その他 (2.5%)
6. わからない (3.5%)

家庭生活について、お伺いします。

問8 <すべての方がお答えください。>

あなたの家庭では、次の(A)～(G)を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	1. 主に自分	2. 自分と配偶者が同じくらい	3. 主に配偶者	4. 主に配偶者以外の家族	5. 家族以外の人に依頼	6. その他	7. 必要ない
(A) 世帯の収入を得る	(36.8%)	(10.4%)	(35.9%)	(10.0%)	(0.2%)	(3.5%)	(0.5%)
(B) 食事の用意	(51.3%)	(3.6%)	(25.1%)	(15.0%)	(0.3%)	(2.7%)	(0.2%)
(C) 洗濯・掃除	(49.6%)	(8.7%)	(21.9%)	(14.4%)	(0.4%)	(2.9%)	(0.1%)
(D) 町内会など地域活動	(25.1%)	(12.8%)	(12.8%)	(13.8%)	(0.9%)	(7.1%)	(25.5%)
(E) 乳幼児の育児	(29.5%)	(5.3%)	(17.0%)	(1.0%)	(0.1%)	(1.0%)	(43.3%)
(F) 学校などの行事への参加	(28.3%)	(8.0%)	(13.0%)	(1.1%)	(0.1%)	(2.0%)	(44.8%)
(G) 高齢者などの介護	(5.6%)	(1.1%)	(1.0%)	(4.1%)	(0.9%)	(4.6%)	(79.8%)

問9 <すべての方がお答えください。>

あなたは将来親などの介護をすることがあるかもしれないと、不安を感じますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 非常に不安を感じる (21.9%)
2. 不安を感じる (24.1%)
3. 少し不安を感じる (34.2%)
4. 不安はない (10.5%)
5. わからない (8.0%)
6. 現在介護している (1.1%)

問10 <すべての方がお答えください。>

将来介護をするとした場合、不安や困難を感じることは何だと思えますか。もしくは現在介護をしている場合に、不安や困難を感じることは何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 仕事をこれまでのようにできなくなること (47.2%)
2. 金銭の負担が大きいこと (71.3%)
3. 身体的な負担が大きいこと (63.2%)
4. ストレスや精神的負担が大きいこと (77.8%)
5. 自分以外に介護する人がいないこと (18.3%)
6. 介護がいつまで続くのかわからないこと (49.9%)
7. 介護の情報が不足しており、介護の仕方がわからないこと (26.1%)
8. 自分の時間がなくなること (47.5%)
9. その他 (3.7%)
10. 特に不安や困難はないと思う (感じていない) (2.2%)

男女共同参画社会について、お伺いします。

問11 <すべての方がお答えください。>

あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 賛成である (6.3%)
2. どちらかといえば賛成である (39.2%)
3. どちらかといえば反対である (24.9%)
4. 反対である (16.4%)
5. わからない (13.1%)

問12 <すべての方がお答えください。>

あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(A)～(E)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで〇をつけてください。

	1. 男性の方が非常に 優遇されている	2. どちらかといえば男性 の方が優遇されている	3. 平等になっている	4. どちらかといえば女性 の方が優遇されている	5. 女性の方が非常に 優遇されている	6. わからない
(A) 家庭生活で	(8.6%)	(34.3%)	(33.1%)	(9.3%)	(2.7%)	(11.4%)
(B) 職場で	(18.7%)	(49.3%)	(17.8%)	(4.1%)	(1.2%)	(7.9%)
(C) 地域社会で	(8.1%)	(29.5%)	(32.0%)	(8.3%)	(1.2%)	(20.2%)
(D) 法律や制度の上で	(8.1%)	(28.2%)	(30.5%)	(9.9%)	(2.2%)	(20.5%)
(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで	(20.1%)	(51.6%)	(11.6%)	(3.3%)	(0.5%)	(12.1%)

問13 <すべての方がお答えください。>

あなたは、仕事と生活を調和できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 家事や育児、介護を家庭で協力して担う（57.5%）
2. 男性自身が仕事中心の生き方、考え方にとらわれないようにする（41.0%）
3. 保育施設や、保育サービスの充実（65.5%）
4. 小学校の放課後児童を預かる子どもルームの充実（49.7%）
5. 介護施設や、介護サービスの充実（54.1%）
6. 短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実（63.8%）
7. 仕事と家庭の両立に対する経営者の意識改革（60.9%）
8. その他（3.9%）
9. 特にない（1.4%）

自由記入

仕事と生活の調和についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。



仕事と生活の調和に関する意識調査  
調査結果報告書

---

- 平成 25 年 3 月 発行  
○発 行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課  
〒260-8722  
千葉市中央区千葉港 1 番 1 号  
電 話 043-245-5060
- 千葉市男女共同参画センター  
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団  
〒260-0844  
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2  
電 話 043-209-8771